

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よって、この授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。</p> <p>授業では、数的分野の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて、授業で扱った数的分野の問題が概ね解けるようになる。一つの目安として、各種採用試験 (総合適性検査 SPI・公務員試験等) の数的分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>①「まずは問題を自力で解く (取り組む)」→②「講師による解説」→③「類題を解く」という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。</p> <p>授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学的素養を身につける。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	・実力テストの復習 (1時間)
2	計算問題①	割合と比	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
3	計算問題②	割合の応用問題	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
4	計算問題③	損益算	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
5	計算問題④	速度算①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
6	計算問題⑤	速度算②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
7	総復習①	計数問題復習	・第6回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
8	中間テスト	中間テスト	・第7回までの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)
9	論理問題①	集合	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
10	論理問題②	場合の数	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
11	論理問題③	確率	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
12	論理問題④	表の読み取り	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
13	論理問題⑤	推論①	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
14	論理問題⑥	推論②	・事前にテキストの問題を読んでおくこと (10分) ・講義で取り扱った問題の復習 (1時間)
15	総復習②	論理問題復習	・これまでの講義で学習した問題すべてを事前に復習しておくこと (2時間)

関連科目: キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2				
3				

評価方法 (基準): 「小テスト 40%」+ 「中間テスト・最終テスト 50%」+ 「Smart SPI 10%」

学生へのメッセージ: 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等: ラーニングセンター (2号館 2階)

備考: 『厳選! 数学的リテラシー問題集』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。「Smart SPI」も利用します。講義内で実施する「小テスト・中間テスト」のフィードバック (解答・解説) は Moodle に提示、あるいは次回講義内で実施する予定です。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (事前: 1 時間) ・配布したレジュメを見直すこと (事後: 0.5 時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている人にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと (事後: 2 時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる (事後: 0.5 時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる (0.5 時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること (事前: 0.5 時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること (事後 1 時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること (事前: 1 時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること (0.5 時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること (事後: 1 時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること (事後: 0.5 時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること (1.5 時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える (事前: 1 時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること (0.5 時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること (0.5 時間)
13	自分を高める④	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと (事前: 1 時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる (事前: 0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (0.5 時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	講義には積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>
	2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前：0.5時間)</li> </ul>
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学について知る</li> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・大学生活における目標を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間)</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(事後：0.5時間)</li> <li>・大学生活での目標を考えること(0.5時間)</li> </ul>
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後：2時間)</li> </ul>
	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前：0/5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前：0.5時間)</li> </ul>
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前：1時間)</li> </ul>
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前：0.5時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	14	グループ課題の発表会	グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後：0.5時間)</li> </ul>
	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ			
教科書	エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)			
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。			

科目名	地学実験	科目名 (英文)	Experiments in Earth Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門 正博
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1437a2		

授業概要・目的	地学実験では、地球物理学・天文学・地質鉱物学における基本的事項について修得する。地質鉱物学分野では、直接生の岩石や堆積物、化石などに触れることによって地球の歴史や各自の生活の基盤になっている大地の生い立ちを考察できるようになることを目的とする。また、天文学分野では、天文に関する知識を実地の観測結果と結びつけて考察できるようにし、観測者である自分の空間位置を太陽系と恒星の世界の中で把握できるようにすることを目的とする。
到達目標	観測・実験を通して、我々の住むこの地球と宇宙についての理解がどのように進められたのかが認識できる。 観測・実験に必要な機器の操作ができるようになる。
授業方法と留意点	地質鉱物学分野では、実物の標本を手にして観測したり、実際に歩いてみるなど体験的に地質学の方法論や考え方を学ぶ内容となっている。天文学分野では、実際に天体望遠鏡を用いて天体の観測を行い、基本的な操作や記録の方法について知るとともに得られたデータのコンピュータ解析も行なう。気象分野では、大気特性を観測・実験などを通して調べ、大規模な気象との関連について天気図上で考察できるようにする。教科書は使わず、資料プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	地球ならびに惑星科学についての幅広い教養を身につけることが出来るほか、環境科学の分野にも寄与する内容である。さらに、本授業科目は教員免許状取得のための科目ともなっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の大きさを測る	歩測を使い学内の特定ルートを歩き、GPSを用いて緯度確認を行い、計算によって地球の大きさを測る。	地球についてその大きさや特徴を事前に理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
2	地形図の読み方と水系図の作成	1/25000地形図を使い、水系図と地形断面図を作成する。 地形図から私たちの身近な大地の特徴を理解する。特に地形断面をつくり、その断面の特徴から地形形成の歴史を推察する。また、水系図を描き、その大地の特徴ならびに流れる水の特徴について考える。	典型的な地形(断層、カルデラ、扇状地、段丘、構造盆地、...)についてその特徴などを理解しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
3	岩石の肉眼鑑定	主要な岩石(火成岩と堆積岩)の肉眼での鑑定を行う。高等学校教科書等で一般に扱われる14種類の岩石を取り上げて、それらがどのようにつくられたのかを理解する。	火成岩と堆積岩について事前にどのようなものであるかを理解しておく。また実際に観察を通して身近な岩石の特徴を理解して、一つでも多くの岩石が分かるようにしておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
4	身近な岩石や地層について学ぶ	身近に見られる岩石の観察を通し、私たちが生活する大地の生い立ちについて考察する。	事前に身近な岩石の採取を指示する。どこにある岩石でも良い。それらについて様々な観点から観察し、その岩石を採取した大地の生い立ちについて考えておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
5	鉱物薄片の作製	前回の実験授業で学習した岩石について、顕微鏡で観察するための鉱物薄片を作製する。	岩石の生成過程について事前に学習するとともに、鉱物薄片を作製する方法について調べる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
6	岩石薄片の観察	偏光顕微鏡を用いて、自作した岩石薄片を観察し、顕微鏡スケッチを実施する。観察方法ならびに偏光顕微鏡についてその基本を学ぶ。観察を通して構成鉱物の違いならびに組織の特徴について理解する。	偏光板の特徴や偏光顕微鏡の仕組みについて調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
7	微化石(珪藻化石)の観察	身近な堆積物の中から珪藻化石(遺骸)を探し出し、採取地点における古環境復元を行う。生物顕微鏡を用いた実験ならびに観察である。	大型化石や微化石についてどのようなものがあるかを事前に調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
8	天体観測の基礎	天体情報は、光をはじめとする電磁波によって得られる。天体からの微弱な光を集め観測する天体望遠鏡の仕組みと観測機器の基本を理解し、基本操作を学ぶ。	「光」の特徴や「レンズ」の特徴・種類について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
9	月と惑星(観測の実際)	太陽や月、金星などの明るい惑星を対象にして、望遠鏡で観測をおこなう。実際に、天体を視野内に導入してみる。	望遠鏡の操作マニュアルを確認しておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
10	太陽	太陽黒点を主にして太陽表面の状態を観測データから明らかにする。恒星の代表としての太陽を知る。	太陽の基本的な諸量、特徴についてあらかじめ調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
11	天体データ解析ソフト「マカリ」	距離のわかっている銀河のスペクトルデータからハッブルの法則を確認し、宇宙の膨張速度であるハッブル定数を決定する。	スペクトル、ドップラー効果について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
12	プラネタリウムと解説	大阪市立科学館のプラネタリウムを訪問し、天文現象の解説の実際を経験する。また、様々な展示に触れ、星座盤などの作成を実習する。	当日のプラネタリウムプログラム内容について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
13	気象要素と天気図	温度、湿度、気圧、風などの測定結果から、天気図を作成する。	天気記号や気象用語について調べておく(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
14	天気図とひまわり画像	作成した天気図から実際の雲などの配置を予想する。また、大気の大循環について理解する。	天気図とひまわり画像をもとに天気の変化をまとめる(50分)。 本時に関連するレポートを課す(100分)。
15	まとめ	地学実験を通して、グループでの総合的	発表用の資料(パワーポイント)を作成する(150)

		発表の時間とする.	分).
関連科目	地理学ならびに地球惑星に関する科目.		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>すべての回の実験に出席することを前提に、以下の割合で評価をおこなう。</p> <p>各回の実験レポート・・・60%</p> <p>事前・事後の課題・・・30%</p> <p>最終回の発表・・・10%</p>		
学生への メッセージ	日頃より理科や科学に関する内容に興味・関心をもち、新聞、ニュース、科学雑誌等に取り上げられる事柄に目をくばるように心がけることが大切である。		
担当者の 研究室等			
備考			

科目名	地学	科目名 (英文)	Earth and Space Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 慶祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1436a2		

授業概要・目的	地学の大きな柱である固体地球、岩石鉱物、地質・地史、大気・海洋、天文の諸分野に関して、実際のデータや写真など、具体的な資料を用いて、我々の住む地球や我々を取り巻く宇宙に関する知見を深め、我々が経験する自然現象がいろいろな法則や原理によって説明できることを学ぶ。扱う範囲は広いが、単に広く浅い知識を習得するのではなく、自らの手で資料を検討することによって少し深い知見も得られるよう進める。また今まに行われている研究についても紹介する。
到達目標	本授業を通して、様々な観点から我々の住む地球や宇宙に関する知見を深め、我々を取り巻く環境の変化が、いろいろな法則や原理によって説明できることを理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式で、教科書を中心に進めます。事前事後学習は毎回1時間以上行い、しっかり予習して授業に臨むとともに、特に毎回授業の最初に行う小テストに備えて復習を行うこと。小テストは、採点して次の回に返却し、答え合わせをします。
科目学習の効果 (資格)	高等学校で地学を履修していない人が、地学の基礎学力を持つようになることによって、教員免許状を取得する一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球の概観・内部構造	地球の大きさや形、重力、地磁気、地球の内部構造について講義する。	授業後に小テストを行う。以後毎回小テストを行うので、毎週1時間以上程度、予習・復習を行うこと。
2	プレートテクトニクス	大陸移動説、海洋底拡大説、プレートテクトニクス、ブルームテクトニクスについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
3	地震・地殻変動	地震の発生、地震の分布、地震・火山活動に伴う地殻変動、長期的な変化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
4	火山と火成活動	火山活動、火山噴出物、火成岩の成り方とその種類、造岩鉱物の性質、マグマの発生と分化について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
5	地表の変化と地層	風化・侵食、地形・地層の形成、堆積物と堆積層、地質調査と地質図、変成作用と変成岩について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
6	地球の歴史	示準化石・放射性元素の崩壊、地球史、造山運動について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
7	日本列島の歴史	プレートテクトニクスと日本列島、日本列島形成の歴史について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
8	大気圏の構造	大気・大気圏の構造、オゾン層、気象観測、天気図、大気中の水分、地球の熱収支について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
9	大気の運動	大気に働く力、地衡風・傾度風、大気の大循環、世界の気候帯、台風、偏西風波動、温帯低気圧について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
10	日本でみられる季節の気象	日本における各季節の気候の特徴、日本付近の気団について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
11	海水の性質とその運動	海洋の構造、波、環流と西岸強化、潮汐、エルニーニョについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
12	太陽系の天体	太陽系の形成、太陽系の構造、惑星、彗星・流星・隕石、太陽の構造、太陽活動とその影響について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
13	恒星・惑星の運動	天球の座標、地球の自転、地球の公転、均時差、惑星の視運動と位置関係、ケプラーの法則について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
14	恒星の性質と進化	恒星の明るさ、恒星までの距離、恒星の表面温度、HR 図と恒星の進化、食連星について講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。
15	恒星・銀河系・宇宙	星団と星間雲、銀河、宇宙の構造、ビッグバンについて講義する。	授業開始直後に前回の授業テーマに関する小テストを行うので、テキストの該当箇所を復習しておくこと。

関連科目	地学実験
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地学	磯崎行雄	啓林館
2	新地学図表	浜島書店編集部	浜島書店	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回小テストまたはレポート課題を課し、それらと期末試験の成績によって評価する。小テストまたはレポート課題 (30%)、期末試験 (70%) の割合である。
-----------	---

	なお原則として提出率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 提出は、小テストの場合は授業中に、レポートの場合は WebFolder で行ってください。
学生への メッセージ	高校で地学を履修していなかった受講生にも理解できるように授業を進めたいと考えています。事前事後学習は毎回 1 時間以上行い、しっかり予習・復習を行ってください。
担当者の 研究室等	
備考	オンライン授業を行う場合は、Zoom のミーティング ID: パスコードをお知らせします。

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 優
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	我々人類を含む生物と環境を取り巻く状況は、悪化の一途をたどっている。経済優先の人間活動による温室効果ガスの排出は地球温暖化を引き起こし、それに伴い環境破壊や水不足、食糧危機等の様々な社会問題が世界各地で顕在化している。そんな中、2030年を期限とした世界共通の目標—いわゆるSDGs—が2015年に国連（国際連合）で採択され、現在世界の約190の国と地域で、この目標達成に向けた活動が加速している。本講義では、このSDGsにある「17の目標」の学習を通じて、ヒトを含む生物と環境の関わりについて理解を深めることを目的とする。
到達目標	・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明することができる。 ・人間活動に起因する世界の環境問題を理解し、自ら説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	SDGs とは何か 目標1. 貧困をなくそう (No Poverty)	内容: SDGs とは何か 内容: SDGs 目標1について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
2	目標2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)	内容: SDGs 目標2について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
3	目標3. 人々に保健と福祉を ( Good Health and Well-Being)	内容: SDGs 目標3について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
4	目標4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)	内容: SDGs 目標4について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
5	目標5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)	内容: SDGs 目標5について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
6	目標6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)	内容: SDGs 目標6について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
7	目標7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)	内容: SDGs 目標7について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
8	目標8. 働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)	内容: SDGs 目標8について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
9	目標9. 産業と技術革新の基礎をつくろう (Industry, Innovation and Infrastructure)	内容: SDGs 目標9について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
10	目標10. 人や国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)	内容: SDGs 目標10について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
11	目標11. 住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)	内容: SDGs 目標11について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
12	目標12. つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)	内容: SDGs 目標12について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
13	目標13. 気候変動に具体的な対策を (Climate Action)	内容: SDGs 目標13について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
14	目標14. 海の豊かさを守ろう (Life Below Water) 目標15. 陸の豊かさを守ろう (Life on Land)	内容: SDGs 目標14及び目標15について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。
15	目標16. 平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)	内容: SDGs 目標16について 方法: 講義形式	事前: 新聞やニュースなどで生物と環境に関する情報を収集する (30分)。 事後: 講義終了後に小レポートに取り組む (30分)。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一番わかりやすい!SDGsのざっくり知識	国際時事アナリスト編	河出書房新社

	2	SDGs時代の社会貢献活動	前林 清和・中村 浩也（編集）	昭和堂
	3	データでわかる 2030年地球のすがた	夫馬賢治	日経BP 日本経済新聞出版本部
評価方法 (基準)	第1-14回終了後の小レポート（4点×14回=56点）と第15回終了後の期末レポート（44点）の合計点が60点以上（100点満点）で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	枚方キャンパス1号館2階 伊藤講師室（薬学部）			
備考				

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

**授業概要・目的**  
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
  - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的理解を深める。
  - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
  - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
  - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

**授業方法と留意点**  
 授業は、教員による講義とグループワークなどを取り混ぜて行う。また、グループワークの都合上、学生はそれぞれ決められた席に着席する。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境倫理	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について考える。	事前学習：テキストの予習 (30章) と小テスト 事後学習：事後レポート
3	バイオテクノロジー (1)	・新しいバイオテクノロジーの社会的受容に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (2章) と小テスト、事前講義の視聴 事後学習：事後レポート
4	バイオテクノロジー (2)	・ゲノム編集技術に関する具体的課題について考える。	事前学習：事前配布資料について的小テスト 事後学習：事後レポート
5	ヒトの死について	・医療資源の配分、脳死と臓器移植に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (9, 11章) と小テスト 事後学習：事後レポート
6	患者の権利と個人の尊厳について	・インフォームド・コンセントに関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (16章) と小テスト 事後学習：事後レポート
7	患者の意思決定と QOL (quality of life)	・医療倫理の四原則に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (18章) と小テスト 事後学習：事後レポート
8	安楽死・尊厳死、終末期医療	・安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (14, 15章) と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食のプロセスについて	・食のプロセスについて知る。 ・食のプロセスについて関わる具体的な課題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
10	食の安全性について	・食料の安全保障について知る。 ・食の安全性保障に関する具体的な倫理的問題について考える。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
11	食と健康について	・食べ物のリスクと安全性をどのように理解し評価するかについて、その問題点を知る。 ・食べ物と健康についての様々な倫理的な観点から理解を深める。	事前学習：配布資料の予習と小テスト 事後学習：事後レポート
12	ヒト以外の生命 1: 伴侶動物とペット産業	・動物の生命と愛護について考える。 ・伴侶動物の生と死、ペット産業などについて学び、理解を深める。	前学習：テキストの予習 (21章) と小テスト 事後学習：事後レポート
13	ヒト以外の生命 2: 野生動物と産業動物	・野生動物と産業動物の生命を考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 事後学習：事後レポート
14	ヒト以外の生命 3: 社会文化と生命	・文化と生命観の関係を考える。 ・ヒトの生活や産業と生命の関係について理解を深める。	事前学習：テキストの予習 (23, 24章) と小テスト 事後学習：事後レポート
15	ヒト以外の生命 4: 私たちの生活と生命の関係を考える	・ヒトの生活と生命の様々な関係について、事前課題を通じて考えた意見を交換し、理解を深める。	事前学習：事前課題に取り組む 事後学習：事後レポート

**関連科目** 生物学、生物学演習、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著
2	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を40点に換算し、授業内の成果物や事後レポートなどを60点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	椎名 隆 応用生物科学科 8号館3階:303号室 岩崎 綾乃 薬学部薬学科 1号館4階:岩崎講師室 喜多 大三 食品栄養学科 8号館2階:225号室 小保方潤一 応用生物科学科 8号館3階:301号室			
備考				

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田畑 謙二
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分の押さえどころ	辻川享・大塚浩史・出原浩史・伊藤翼・矢崎成俊	学術図書出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で40% 期末試験60%の合計によって判断する。 なお、期末試験については、COVID-19による感染状況次第では、レポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle に毎回の講義資料・確認テスト問題をアップする。講義までに資料に目を通しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	事後レポート課題
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	10	不定積分	・基礎的な公式	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	指定された教科書の予習範囲 事後レポート課題

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 40%、期末試験 60%で判定し評価する (試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る)。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	寝屋川学舎 5号館 1階
備考	・事前課題、事後課題には1コマあたり1.5時間ほどかかることを前提に設定していますので、計画的に取り組んで下さい。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要に応じてレジュメや資料を配布します。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートなどにまとめるよう努力しましょう。授業では、学習した内容の復習と知識の定着のために小テスト (小レポート) などの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造 (統治の基礎と人権の基礎) を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題 (夫婦別姓、同性婚の問題など) を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献 (参考図書・新聞等) を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間） 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間） 事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法・第2版（最新版）	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（最新版）	芦部信喜	岩波書店
	2	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）	長谷部恭男、他	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）30%と、定期試験（筆記試験）70%によって、総合的に評価します。 授業内課題等の詳細は、授業開始の際に、説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	授業内で実施する課題については、次の授業で解説します。 その他の参考文献は、授業の中で、随時紹介します。 授業時間外での質問等の連絡先・注意事項は授業内でお知らせします。			

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 利江
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	観光は、「平和へのパスポート」と言われ、国際的、文化的な交流を促進するとともに、人々の健康で豊かな生活に貢献しています。また訪日外国人旅行の増大は、地域経済活性化の切り札ともなっています。授業を通して、観光の歴史、人々の観光行動、観光産業や観光庁の政策など、観光学の基礎を学び、獲得した知識を社会に役立てることを目的とします。近年の旅行市場の動向や地域観光の現状と課題を踏まえ、アフターコロナ時代における持続可能な観光について考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関する文献や資料を理解する力を身につける。</li> <li>観光の役割と現代観光の特徴について説明することができる。</li> <li>観光資源について調査し、課題の解決に向けて自ら意見を述べるることができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を中心に授業を進めます。</li> <li>グループワークも取り入れます。積極的に参加してください。</li> <li>教科書は使いません。毎回、プリントを配布します。</li> <li>授業時に事前・事後学習の内容を提示します。確認し取組んでください。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	観光に関わる基礎知識を修得します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 観光と観光学	授業の進め方や課題の調査レポートについて確認し、観光の基礎用語を学ぶ。観光とは何か、観光の役割とは何かについて考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
2	観光の歴史	観光の視点で歴史を読み直す。主に日本の江戸時代の旅について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
3	戦後の観光と観光政策	国の観光政策の流れを確認しながら、観光が大衆化する背景について学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
4	日本の旅行市場	『観光白書』等を用いて、国内外の旅行者数の推移や旅行消費額等、旅行市場の全体像を掴む。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
5	観光産業と観光統計	観光産業の定義や観光統計の概要を学ぶ。また旅行業の現状と課題を理解する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
6	交通と観光	交通サービスの特性を踏まえ、主として、利用者が増加しているLCCと鉄道会社の観光への取り組みについて学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
7	宿泊施設と民泊	宿泊業の特性や施設の種類等を確認し、空き家・空き室を活用した民泊サービスの拡大等、近年の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
8	温泉と温泉地	温泉の定義、効能等、温泉の基本を学び、戦後、観光地として発展した温泉地の現状と課題を理解する	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
9	事例研究 I 星野リゾートのマネジメント	破綻したリゾートの再生で注目された「星野リゾート」の特徴的な組織体制や運営手法を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
10	事例研究 II TDR と USJ の成功要因	遊園地・テーマパークの現状を学び、TDR (東京ディズニーリゾート) と USJ (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) の事業戦略を学ぶ。	事前学習 (2時間)・事後学習 (2時間)
11	文化遺産と観光	ユネスコの「世界遺産」や文化庁認定の「日本遺産」を学び、文化財のデジタル化や観光活用について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
12	地域発ツーリズム	観光庁の主な観光地域づくり政策と地域資源を活かした新しい観光の動きを学ぶ。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間) 課題レポートの作成 (5時間)
13	MICE と IR	ビジネスイベントの総称である MICE (マイス) と、MICE 誘致に関わる IR (統合型リゾート) 推進の現状について理解を深める。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
14	観光資源調査研究	個人で作成したレポートをもとに少数人数でのグループワークを行う。グループ内で様々な観光資源の現状と課題を報告し、ワークシートに整理する。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)
15	持続可能な観光に向けて	グループワークと授業内容を振り返り、持続可能な観光はどのようにあるべきかを考える。	事前学習 (1時間)・事後学習 (2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
	番号	書籍名	著者名	出版社名													

	1	入門 観光学	竹内正人・竹内利江・山田浩之	ミネルヴェテ書房
	2	観光学ガイドブック	大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・ 神田孝治	ナカニシヤ出版
	3	1からの観光事業論	高橋一夫・柏木千春	碩学舎
評価方法 (基準)	小テスト 40%	学修した知識の理解度を評価する。		
	レポート 40%	内容の妥当性と論理的構成について評価する。 グループワークで作成するワークシートも含む。		
	課題 20%	内容の妥当性を評価する。		
学生への メッセージ	観光にとって「食」と「農」は欠かせない存在です。フードツーリズムやグリーンツーリズムなど、食事や農業体験を楽しむ観光が積極的に行われるようになってきました。日頃から様々な観光地の情報を収集し、その魅力について考えてみてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12時30分~13時00分)			
備考				

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。</p> <p>この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実には生じる物事を考える姿勢を身に付ける</li> <li>実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る</li> <li>複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く</li> <li>専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する</li> </ul>
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2	新 経営戦略論 (第3版)	寺本 義也・大森 信 (編著)	学文社	
3	新 経営戦略論	寺本 義也・岩崎 尚人 (編集)	学文社	

評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」</p>
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」で、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を授業開始前までに Moodle に提出する。 授業後に質問コメントを Moodle に提出する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、社会人として、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法ってなんだろう？	講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照
2	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権 (1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
3	人間らしく生きる権利の保障－基本的人権 (2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
7	家族と法 (1)－結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
8	家族と法 (2)－親子関係	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
9	日常生活のアクシデント－交通事故	交通事故、自動車、自転車	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
10	日常生活のアクシデント－医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
11	日常生活のアクシデント－製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
12	罪と罰－犯罪 (1)	大阪地方検察庁の検察官による講義 (予定)	
13	罪と罰－犯罪 (2)	脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死と刑法	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、育て・介護	予習として講義と関連する新聞記事を Moodle から授業開始前までに提出し、授業後質問コメントを Moodle に提出
15	総括	テスト	

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論－身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘 (編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. テスト (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事、質問コメントを記入し Moodle に期限までに提出する。 50% 状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	--

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。社会人として知らないではすまされない基礎知識があります。
-----------	--

	本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
備考	<p>原則対面授業だが、状況を鑑みて、遠隔授業（教材・課題提供型授業）にて実施する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回）</li> <li>2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回）</li> <li>3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）</li> </ol>

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。 現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることに変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。 しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介、解説することもあります。
到達目標	この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治の知識・教養が一般常識として問われる場合があります。また一主権者として実際に政治活動するときには、そうした知識・教養について知っておく必要があります。そうした状況に上手く対応するために、日本の政治について正しい知識・教養を獲得し、個々の具体的な政策・法のメリット・デメリットを正しく判断し、最終的に自分の意見を政治活動を通じて正しく表現することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションー政治とは何か?	イントロダクションとして、本講義の内容と政治ー国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	2	政治と権力①政治の条件とは何か?	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	3	政治と権力②正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	4	日本の政治システム①民主主義 (デモクラシー)	日本の政治が現在採用している民主主義 (デモクラシー) について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	5	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	6	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	7	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第七回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	8	戦後の日本政治①GHQ占領下の日本政治	戦後のGHQ占領下である1940年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第八回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	9	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55年体制の成立	日本独立期である1950年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第九回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	10	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく1960年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十回) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30分)。
	11	戦後の日本政治④自民党の	自民党の中で田中派支配が行われてい	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所 (第十

		派閥の興隆	た 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	12	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	13	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	14	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習: 事前配布したレジュメの該当箇所 (第十四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習: 来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく (30 分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く (30 分)。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す (時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の公民、日本史など。大学の政治学原論、日本政治史など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>18 歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (約 70%) と小テスト (約 30%) で評価します。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 10 階 和田研究室																			
備考																				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 昌宏
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b>          経済学は、近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問分野です。社会の豊かさの追求やその過程で直面する各種の課題（経済発展、貧困や格差の解消問題、社会保障の給付と負担の問題、環境問題など）の解決を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は重要な役割を果たします。本講義では、身近なトピックスから経済学的視点に基づく問題意識を持ってもらった上で、教科書に則してミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学習して理解してもらい、獲得した知識をどのように現実問題の解決に活用するかのスキルを育て、最後に我々が直面する各種課題、特に外国為替相場が大きく変動するもとの農業分野での課題にどのように応用できるかを考えてもらいます。</p> <p><b>【講義の目標】</b>          一般教養としての経済学の基礎知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて身の回りの社会経済の仕組みや時事問題を理解して、問題の原因や解決策を自らで考えらることができる知識とスキルを獲得することを目標とします。また、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方、農産物の輸出や輸入に関わる規制の問題などを扱う、専門科目である食料・農業経済学への橋渡しをすることも目標の一つとします。</p>			
	到達目標	<p>経済学は、消費者および生産者のよりミクロな（小さな）個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな（大きな）観点から分析するマクロ経済学に大別されます。本講義では、これらのミクロとマクロの両面の視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて解説しますので、受講生は、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるにあたって必要な経済学の基本知識を習得し、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方、環太</p>		
授業方法と留意点	<p>教科書に基づき、また pdf ファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。（予習として30分）この際、理解できない箇所をノートに箇条書きにしておくなり、付箋（ポストイット）に書き込んで該当箇所に貼り付けておくとういでしょう。講義の補助として、Moodle を利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。</p>			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに：講義の概要と講義の進め方	15回の講義で何を学ぶかを概説します。また、経済学的な考え方を例を用いて説明します。	
	2	経済学の課題と日本経済の現状の理解	教科書の第1部（pp. 2-56）を解説します。	事前に教科書の第1部を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の第1部を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	3	所得制約のもとで効用最大化を図る消費者行動の理論の理解	教科書の第2部第4章（pp. 58-74）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	4	技術制約のもとで費用最小化を図る生産者行動の理論の理解	教科書の第2部第5章（pp. 75-92）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	5	市場（しじょう）の分類と完全競争のもとでの市場均衡と調整過程の理論および不完全競争市場では価格と数量はどのように決定されるかの理論の理解	教科書の第2部第6章（pp. 93-110）と第2部第7章（pp. 111-134）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	6	マーケットメカニズム（市場機構）の優れた点とその限界としての市場の失敗の理解	教科書の第2部第8章（pp. 135-149）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	7	比較優位の原理に基づく国際貿易と国際資本移動の理論の理解	教科書の第2部第9章（pp. 150-171）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	8	不確実性や不完全情報のもとでの消費者行動や所得分配の不平等に関する理論の理解	教科書の第2部第10章（pp. 172-193）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	9	GDPをはじめとする国民所得の諸概念と均衡所得の決定理論の理解	教科書の第3部第11章（pp. 196-209）と第3部第12章（pp. 210-221）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	10	財市場と貨幣市場の理論であるIS-LM分析の理解	教科書の第3部第13章（pp. 222-237）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	11	貨幣賃金上昇率と失業率との関係を示すフィリップ曲線、合理的期待仮説、為替レートの決定理論の大まかな理解	教科書の第3部第14章（pp. 238-256）、第15章（pp. 257-277）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。
	12	景気循環ならびに経済成長の理論の理解とマクロ経済学の諸理論の背後にある	教科書の第3部第16章（pp. 278-292）、第17章（pp. 293-314）を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出して

		個々人の合理的行動を分析するマクロ経済学のミクロ的基礎の大きな理解		ください。																
	13	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解 (その1)	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。																
	14	経済学の新しい課題と直面している諸問題の解決に向けての取組の理解 (その2)	教科書の第4部 (pp. 316-374) を解説します。	事前に教科書の当該部分を読んで予習して講義に臨み、講義終了後に改めて教科書の当該部分を読み直して復習して、課題に対するレポートを提出してください。																
	15	まとめ:何を学んできたかの振り返り	教科書全体を対象に、これまでの14回の講義で説明してきたことの要点を説明します。	教科書全体を通じて、理解が難しかった概念や理論を書き出してから講義に臨んでください。																
関連科目	食料・農業経済学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学・入門</td> <td>塩澤修平</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済学・入門	塩澤修平	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経済学・入門	塩澤修平	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	第1回から第14回までの毎回の講義で課す課題に対するレポートが56%、定期試験が44%。																			
学生へのメッセージ	経済学は、消費者および生産者のよりミクロな (小さな) 個別の行動に着目して分析するミクロ経済学と財市場や貨幣市場や労働市場やGDPなどのよりマクロな (大きな) 観点から分析するマクロ経済学に大別されます。これらのミクロとマクロからの視点で経済学的に経済主体の行動原理や社会の仕組みを理論に基づいて理解していると、環境問題、経済格差問題、不況問題など、身の回りの諸問題の原因と解決策を考えるのに役立つだけでなく、経済学の農業分野への応用としての農産物価格の決まり方や環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的																			
担当者の研究室等	農学部非常勤講師室																			
備考	教科書に基づき、また pdf ファイルで配布する資料などを用いて、パワーポイントのスライドや板書を活用して講義を行います。各回の講義の事前学習として、各回の学習方法・自己学習課題の欄に示した教科書の指定箇所を一通り読んでください。(予習として30分) この際、理解できない箇所をノートに箇条書きにしておくなり、付箋 (ポストイット) に書き込んで該当箇所に貼り付けておくとよいでしょう。講義の補助として、Moodle を利用して、各種資料、教材、講義のポイントをまとめたノートなどを提供します。																			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人たちには〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修します。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる  (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる  (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事前学習: シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習する
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
4	支え合いによって成り立つ社会—市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はど	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞

			のようなものなのか学修します。	にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動		社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査		5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備		前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表		グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア		災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア		医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動		マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐる、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうになっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探すレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかの理解。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れの理解。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とはどのような学問か?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
2	人類学の誕生 (1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
3	人類学の誕生 (2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
4	機能主義人類学 (1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
5	機能主義人類学 (2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1):	フランツ・ポアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ポアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義 (1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>100%定期試験によって評価する（オンライン授業に変更された場合は定期試験に相当する「レポート課題」をもって代替する。レポート課題の内容は授業内で説明する）。</p> <p>評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。</p>		
学生への メッセージ	<p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。</p> <p>各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。</p>		
担当者の 研究室等	非常勤講師室		
備考	<p>事前事後の総学習時間の目安は60時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。</p>		

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	日本の古典文学の中には、異国、異界、異類、異形、異能など、「異」と表象される存在が描かれる。「異」とは、自らと違うことを示す語である。それでは、それらの存在は、どのような点で、「異」とされているのだろうか。本講義では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学（鎌倉時代の説話文学を中心に取り上げる）を支える価値観や思想を知ったうえで、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。
到達目標	本講義の到達目標である、以下の3点の理解度に応じて、成績を評価する。 1、日本の古典文学を通して、物語を支える同時代の価値観、思想を理解できる。 2、物語の比較を通して、共通点や相違点など、文学作品を解釈できる視点を持つ。 3、同時代の資料などを用いて、物語を多角的に考察する視点を持つ。
授業方法と留意点	毎回の授業の最後にコメントペーパーに、講義内での自らの気づきを書いてもらう。大学の出席回数の規定に従い、成績評価を行う。欠席が多い場合は、単位を不可とする。講義に際し、資料プリントを配布する。参考文献は、講義内で紹介する。
科目学習の効果 (資格)	物語世界を通して、物事を多角的に考える視点を持つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の目的 日本文学史の基礎知識	日本文学史の知識をおさえる	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める
	2	物語に見える異国1	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	3	物語に見える異国2	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	4	物語に見える異国3	異国に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	5	物語に見える異界1	異界に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	6	物語に見える異界2	異界に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	7	物語に見える異類1	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	8	物語に見える異類2	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	9	物語に見える異類3	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	10	物語に見える異類4	異類に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	11	物語に見える異形1	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	12	物語に見える異形2	異形に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	13	物語に見える異能1	異能に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
	14	物語に見える異能2	異能に関する物語を読む	配布資料や授業で指示した文献を読み、理解を深める。
		15	まとめ	講義を通したまとめ

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート70%。コメントペーパー30%。 出席回数が大学の規定に達していない場合は、レポート提出を認めない。
学生へのメッセージ	本講義では、日本の古典文学作品を扱いますが、文法の知識を必要とする「古文」の読解ではなく、「物語」を読むことに重点をおきます。現代語訳なども使い、講義を進めていきます。 中学・高校時代に利用した国語便覧があれば、講義の参考になります。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北西 諒介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	この授業では、地理学を「社会で起こる様々な事象に対し、地域という視点から説明を加える学問」として捉え、具体例を交えながら、地域を把握するための様々な方法を紹介します。
到達目標	地図を使った思考方法や地理学的なもの見方に親しむこと。加えて、地域に対する知的関心を高め、地域を理解するための基本的な実践が可能になること。
授業方法と留意点	授業は講義形式で、PowerPointのスライドを中心に進め、適宜プリントなども配布します。授業では地図をよく使うため、中学や高校の授業で使用した地図帳や、地図が見られる端末（スマートフォン等）を持参してください。また、毎回授業後に各回の内容に合わせた簡単な課題を出します。それとともに授業の感想や質問も集めますので、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学の概要	授業の進め方および地理学の基本的視座と手法について概説します。	これまでに学習した「地理」や「地理学」に関する事柄について振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
2	データと主題図	主題図の作図・読図を通した地域把握の方法について紹介します。	色々な種類の地図を見て、その表現や内容の特徴について考える (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
3	都市構造と都市システム	都市に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
4	集落形態と村落空間	農村に対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
5	郊外化と地域社会	郊外や地域コミュニティに対する地理学の基本的視座を紹介しします。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
6	農産物の生産と消費	農産物の産地の形成要因と近年の動向について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
7	工業立地と空間的分業	工場集積の要因と企業の立地戦略について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
8	流通と商業集積	商店の立地要因やそれを支える流通網について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
9	都市計画と法規制	行政によるまちづくりや規制が地域に及ぼす影響について取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
10	生活と公共サービス	公共施設へのアクセスを切り口に、地理学におけるジェンダーや身体の問題を取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
11	社会問題と空間スケール	社会問題の偏った分布とスケールについて取り扱います。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
12	文化と景観	世界観や心象が景観とどう関わるのかについて取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
13	観光地の形成	観光地に関する表象や観光行動について取り上げます。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
14	景観の歴史	現在の景観に残る歴史の痕跡とその読み取り方について紹介します。	授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)
15	地誌と地域性	授業のまとめとして、1つの地域の地誌的記述から地域性を見出すを試みます。	これまでの授業の内容を振り返る (事前学習 1 時間) 授業内で提示した参考文献を読む。または、授業で取り上げた地域を実際に訪れたり、調べたりする (事後学習 3 時間)

関連科目	地誌学、自然地理学
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]	上野和彦・椿真智子・中村康子編	朝倉書店

	2	人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で出す小課題：60%、期末レポート課題：40%			
学生への メッセージ	高校までの「地理」の科目の知識は必ずしも必要としません。地図を読むのが苦手な学生の受講も歓迎します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業に関する問い合わせはメールで対応します。(メールアドレスは初回授業時にお知らせします) 参考書の購入は必須ではありません。			

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。			
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。			
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で進める。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	小中高の地理と大学の地誌学	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
	2	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	冷涼地域の農業	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	3	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	4	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	5	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	6	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	7	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	8	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	9	熱帯気候と住民生活 (2)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	10	熱帯気候と住民生活 (3)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	11	熱帯気候と住民生活 (4)	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	12	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	季節河川と地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	13	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	乾燥地帯で生きる人々 (1)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	14	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々 (2)	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
	15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)
関連科目	人文地理学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門：気候・地形・動植物と人間生活	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 70%、授業内課題 30% 授業内課題は、各回の授業内容に関する穴埋め問題等である。			
学生へのメッセージ	高校で地理を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。また、簡単な質問等は授業内課題の余白部分に記入してください。翌週の授業内で回答します。			
担当者の研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)。			
備考				

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	なぜ「哲学」をするのか？	古代ギリシアの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	「知る」とは何か？	プラトンとアリストテレスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	「絶対に疑えないもの」は何か？	デカルトの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	物事を「経験」するとはどういうことか？	ロックの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	世界は本当に「存在」するの か？	バークリの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	実は「私」しか存在してい ないのではないか？	独我論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	「理性」はどこまで考えられ るのか？	カントの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	「自由」とは何か？	近代哲学における自由概念の変遷を学 ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	積極的に「悪」を成すことは できるか？	シェリングの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	絶対的な「価値」などないの ではないか？	ニーチェの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	どうすれば「人間の生きる世 界」を観察することができる のか？	フッサールの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	「死」に向き合うとはどのよ うな事か？	ハイデガーの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	「他者」とはどういうもの か？	レヴィナスの考え方を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考 える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書
	2	文学部唯野教授・最終講義 誰にもわかるハイデガ ー	筒井康隆	河出書房新社
	3			

評価方法 (基準)	学期末のレポート80%、毎回の授業内課題(コメント)20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室で対応する。

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

**授業概要・目的**

「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ  
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと  
したら、他人にアドバイスしたり批判することは失礼なことだろうか?」  
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある (人によっては常に考えている) ことではない  
かと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題 (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人種差  
別、ジェンダー等) に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張が存在するかを学びます。また、それらと対照することで自分自身の常識を  
自覚し、再検討することが目的です。

**到達目標**

授業で扱う現代社会の諸テーマ (中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道德の関係、非利己性、寄付の義務等)  
について、『現実をみつめる道德哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房) の議論  
を参考に、倫理的な視点を身に着ける。

**授業方法と留意点**

Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に  
関する小問題に答えてもらいます。

**科目学習の  
効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、道德と はどういうことか (第 1 章) (1)	「道德」の定義、哲学との関係	予習: なし 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
2	道德とはどういうことか (第 1 章) (2)	道德は定義できるか、道德の最小概念、 回復の見込みのない乳児の権利	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題 (哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い) を読むこと
3	文化的相対主義 (第 2 章)	異なる文化はいかにして道德規範を持 つのか、文化的相対主義を本気で受け止 めるとどうなるか、文化的相対主義から 何を学ぶことができるか	2 に同じ
4	倫理における主観主義 (第 3 章)	倫理学に証明はあるのか、同性愛の問題	2 に同じ
5	道德は宗教に基づくか (第 4 章)	道德と宗教の関係、道德は神の命令か、 キリスト教と中絶の問題	2 に同じ
6	心理学的利己主義 (第 5 章)	人間は非利己的であることはできるか、 「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か	2 に同じ
7	倫理的利己主義 (第 6 章)	飢餓救済に寄付する義務はあるのか、 「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2 に同じ
8	功利主義者のアプローチ (第 7 章)	功利主義、幸福計算、安楽死、動物の権 利の問題、ベンサム、ミル	2 に同じ
9	功利主義をめぐる議論 (第 8 章)	功利主義への批判的な議論の紹介	2 に同じ
10	絶対的道德規則はあるのか (第 9 章)	カントの倫理学、定言命法、仮言命法	2 に同じ
11	カントと人格の尊重 (第 10 章)	カントの倫理学、「目的の国」、刑罰の理 論における応報主義	2 に同じ
12	社会契約の思想 (第 11 章)	ホブズ社会契約説、囚人のジレン マ、市民的不服従についての問題	2 に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理 (第 12 章)	コールバーグ、ギリガン、女と男は倫理 についての考えが違うか	2 に同じ
14	徳の倫理 (第 13 章)	アリストテレスの徳倫理、様々な徳	2 に同じ
15	満足のいく道德説とはいか なるものか (第 14 章)	ローティ、マイケル・サンデル、思い 上がりのない道德、道德共同体、正義と公 正	2 に同じ

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、次 田憲和訳	晃洋書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現実をみつめる道德哲学	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2	倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AI まで	品川哲彦	中公新書
3			

**評価方法  
(基準)**

定期的に出す小テスト: 75% (Google Form 等によって提出)  
期末試験: 25% (Google Form 等によって提出)

**学生への**

メッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師控室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立本 千寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b>          生命を有する数多くの生物の中でも、人間は「心」を有する生き物である。心理学の基礎的な理論を理解することは、自らが生きることへの貢献があるだけでなく、対人援助においても有益である。          本授業では、これまでの知見を通して心理学の世界を概観し、理論と実践の融合によって人間に貢献する心理学についての基本的な理解を深めることを目的とする。</p>
到達目標	<p>①心理学の基礎的な知見を理解すること。          ②人間の発達と心理学の関連性について理解すること。          ③対人援助としての臨床心理学の貢献性について理解すること。</p>
授業方法と留意点	COVID-19 感染状況によって、授業方法が対面・オンラインのいずれになるか想定できないため、情報に気をつけて、柔軟に対応し、受講すること。
科目学習の効果 (資格)	本授業の学びを通して、自己理解・他者理解の模索の入り口を知り、多様な人間理解に繋がるのが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要・目的・到達目標・授業方法と留意点について説明する。	これまでの自分自身の心について、改めて考え直してみてください。
2	感覚と知覚	心理学の基礎的な理論として、感覚と知覚に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
3	記憶と学習	心理学の基礎的な理論として、記憶と学習に焦点を当て、概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
4	心の発達 I	胎児期から青年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
5	心の発達 II	青年期から老年期までの心の発達について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
6	原動力となる心の動きについて	生活するうえで生きるうえでの原動力である動機付けなどについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
7	心と多様性	多様性のある人間と心の関連性について、概説する。	授業資料をもとに、書籍やインターネット検索により、知見を広げてください。
8	心の健康とは何か	「生理・心理・社会モデル」などを取り上げ、人間の心の健康に心理学がどのように貢献するかについて概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
9	「聴くこと」とは何か	私たちの日常生活や対人援助において、「聴くこと」がどのような意義があるのかについて、心理学的に概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
10	心理療法について	臨床心理学的なアプローチにおける様々な療法について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
11	心理学研究法について	量的研究・質的研究の心理学の研究法の基礎について概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
12	心理学の社会への貢献性 I	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、社会的認知の観点などから概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
13	心理学の社会への貢献性 II	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、対人関係などの観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
14	心理学の社会への貢献性 III	心理学が社会にどのように貢献する可能性があるのかについて、臨床心理学の観点から概説する。	テキストを精読し、知見を深めてください。
15	まとめ	これまで学んだことの要点を振り返り、総合的なまとめを行う。	テキストを精読し、知見を深めてください。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる心理学	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	心理学スタンダード	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明編著	ミネルヴァ書房
2	発達障害の子の気持ちのコントロール	辻井正次・明詠光宜・飯田愛・小倉正義	合同出版
3	母子関係の理論	J・Bowlby (著)・黒田実朗他 (訳)	岩崎学術出版社

評価方法 (基準)	<p>【授業における取り組み・課題】 40%          【レポート課題】 60%</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>「心理学」ときいて、皆さんはどのようなイメージを持つでしょうか？          私は、大学時代、心理学とは異なる専門を専攻していましたが、恩師の授業をきいて、ある方々に会って、臨床心理学に強く惹かれ志しました。          皆さんが、心理学の世界に少しでも興味を持ち、それぞれの専門の中に活かしていただけるような授業を目指し</p>
-----------	--

	たいと思います。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業は、15回の授業中で、対面での実施の回とオンデマンドによる実施の回があります。 具体的には、オリエンテーション時などの説明に加え、オンデマンドでの実施の際には、 事前にアナウンスをしますので、受講時に聞きもしがらないように気をつけてください。

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	本学スポーツ施設を用いて、実技形式で行う（雨天の場合は、講義形式で行うこともある）。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など（講義室） コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 （事後学習時間 30分）
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
10	各コース別実技②	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
11	各コース別実技②	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習（グラウンドおよび体育館）	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り （事前事後学習時間 30分）
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム（グラウンドおよび体育館）	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り （事前事後学習時間 30分）

関連科目 スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	活動点50%、技能点25%、態度点25%として総合的に評価、60点以上で単位認定する。			
学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、教室(教室名は事前に連絡します)に集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波, 小林 直生
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	<p>生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3、4、5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。</p>																																																																		
授業方法及び留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)</li> <li>・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)</li> </ul> <p>※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。</p> <p>※2 第1回目の授業はガイダンスを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・履修上の注意</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・体力測定①</td> <td>・屋外種目</td> <td>事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・体力測定②</td> <td>・屋内種目</td> <td>事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・履修上の注意	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)																																																																
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)																																																																
関連科目	<p>解剖生理学、臨床医学概論、生化学、基礎栄養学、生物と環境、応用栄養学、公衆衛生学、分子生物学、臨床栄養学、ゲノムと生命、食品栄養学研究</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>授業1回目 (ガイダンス) は、教室 (教室名は事前に連絡します) に集合してください。(更衣不要)</p> <p>実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)</p>																																																																		
担当者の	<p>寝屋川キャンパス総合体育館事務室</p>																																																																		

研究室等	
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%), 模擬試験や総合課題などの演習 (40%), e-learning(20%)を総合的に評価する. この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる.		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です. 情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします. 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください. さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう.		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)		
備考	授業時間外の質問は、メールまたは Teams メッセージをお願いします. すぐに返信できない場合がありますが、なるべく迅速な対応を心がけています.		

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
	9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出(20分) E-第5回（60分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回(60分) 視聴・テスト E-第10回(60分) 視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。

担当者の研究室等 新居講師室（7号館5階）

備考	メールで問い合わせる場合は、本人確認のため大学のアドレスから送信してください。
----	---

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうに、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 様態補語 ・ 文型「～极了」 ・ 完了を表す助詞「了」 ・ 文型「是～的」 ・ 会話 (どこで買ったのですか)	自己学習: p53～p55 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p56) を解答すること。
2	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第9課練習問題 ・ 時刻、時点と時間の幅 ・ 前置詞「從」 ・ 名詞+「口+尼」 ・ 助動詞「会」 ・ 動詞+「一点兒」	自己学習: p57～p59 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p60) を解答すること。
3	第10課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (少し話せます) ・ 第10課練習問題	自己学習: p57～p59 の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p57) を暗唱すること。
4	第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 助動詞「能」 ・ 助動詞「得」 ・ 副詞「有点兒」 ・ 選択疑問文 ・ 貨幣の言い方 ・ 会話 (一足いくらですか)	自己学習: p61～p63 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p64) を解答すること。
5	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第11課練習問題 ・ 進行を表す副詞「在」 ・ 「有」+名詞+動詞 ・ 「多」+形容詞 ・ 「覺得」 ・ 二重目的語を取る動詞	自己学習: p65～p67 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p68) を解答すること。
6	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (何をしていますか) ・ 第12課練習問題	自己学習: p65～p67 の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p65) を暗唱すること。
7	・ 復習 ・ 中間テスト *第9-12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・ 第9～12課の復習 ・ 練習問題 ・ 中間テスト	自己学習: 第9-12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
8	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 方向補語 ・ 方位詞 ・ 持続を表す助詞「口+尼」 ・ 前置詞「給」 ・ 会話 (ちょっと見せてください)	自己学習: p69～p71 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p72) を解答すること。
9	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 第13課練習問題 ・ 結果補語 ・ 受身を表す「被」 ・ 副詞「就」 ・ 使役を表す「讓/叫」	自己学習: p73～p75 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p76) を解答すること。
10	第14課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (足はどうされましたか) ・ 第14課練習問題	自己学習: p73～p75 の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p73) を暗唱すること。
11	第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・ 原因を尋ねる言い方 ・ 文型「一点兒都/没～」 ・ 疑問詞+「都」 ・ 副詞「再」 ・ 会話 (どこに行くか決まりましたか)	自己学習: p77～p79 の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p80) を解答すること。
12	第15課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・ 会話 (どこに行くか決まりましたか) ・ 第15課練習問題	自己学習: p77～p79 の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p77) を暗唱すること。
13	第16課 一緒に写真を撮り	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習: p81～p83 の録音を聞いて、発音を練習を

		ましょう ＊正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	・可能補語 ・「把」構文 ・存現文 ・持続を表す「着」 ・可能性を表す助動詞「会」 ・会話（一緒に写真を撮りましょう）	すること。練習問題（p84、p85）を解答すること。
	14	第16課 復習 ＊単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話（一緒に写真を撮りましょう） ・第16課練習問題	自己学習：p81～p83の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文（p81）を暗唱すること。
	15	・復習 ＊第13-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第13～16課の復習 ・練習問題	自己学習：第13-16課の復習をすること。期末試験の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点（授業態度、宿題、発話活動等）50% 中間テスト（25%） 期末試験（25%）			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	カーティス講師室（2号館2階）			
備考				

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1412e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふうに、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第9課 どこで買ったのですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・様態補語 ・句型「～极了」 ・完了を表す助詞「了」 ・句型「是～的」 ・会話 (どこで買ったのですか)	自己学習: p53~p55の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p56) を解答すること。
2	第9課 復習 第10課 少し話せます *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第9課練習問題 ・時刻、時点と時間の幅 ・前置詞「從」 ・名詞+「口+尼」 ・助動詞「会」 ・動詞+「一点兒」	自己学習: p57~p59の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p60) を解答すること。
3	第10課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (少し話せます) ・第10課練習問題	自己学習: p57~p59の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p57) を暗唱すること。
4	第11課 一足いくらですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「能」 ・助動詞「得」 ・副詞「有点兒」 ・選択疑問文 ・貨幣の言い方 ・会話 (一足いくらですか)	自己学習: p61~p63の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p64) を解答すること。
5	第11課 復習 第12課 何をしていますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第11課練習問題 ・進行を表す副詞「在」 ・「有」+名詞+動詞 ・「多」+形容詞 ・「覺得」 ・二重目的語を取る動詞	自己学習: p65~p67の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p68) を解答すること。
6	第12課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (何をしていますか) ・第12課練習問題	自己学習: p65~p67の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p65) を暗唱すること。
7	・復習 ・中間テスト *第9~12課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第9~12課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習: 第9~12課の復習をすること。中間テストの準備をすること。
8	第13課 ちょっと見せてください *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・方向補語 ・方位詞 ・持続を表す助詞「口+尼」 ・前置詞「給」 ・会話 (ちょっと見せてください)	自己学習: p69~p71の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p72) を解答すること。
9	第13課 復習 第14課 足はどうされましたか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第13課練習問題 ・結果補語 ・受身を表す「被」 ・副詞「就」 ・使役を表す「讓/叫」	自己学習: p73~p75の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p76) を解答すること。
10	第14課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (足はどうされましたか) ・第14課練習問題	自己学習: p73~p75の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p73) を暗唱すること。
11	第15課 どこに行くか決まりましたか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・原因を尋ねる言い方 ・句型「一点兒都不/没～」 ・疑問詞+「都」 ・副詞「再」 ・会話 (どこに行くか決まりましたか)	自己学習: p77~p79の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p80) を解答すること。
12	第15課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (どこに行くか決まりましたか) ・第15課練習問題	自己学習: p77~p79の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p77) を暗唱すること。
13	第16課 一緒に写真を撮り	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習: p81~p83の録音を聞いて、発音を練習を

		ましょう *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能補語</li> <li>・「把」構文</li> <li>・存現文</li> <li>・持続を表す「着」</li> <li>・可能性を表す助動詞「会」</li> <li>・会話（一緒に写真を撮りましょう）</li> </ul>	すること。練習問題（p84、p85）を解答すること。
	14	第16課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話（一緒に写真を撮りましょう）</li> <li>・第16課練習問題</li> </ul>	自己学習：p81～p83の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文（p81）を暗唱すること。
	15	・期末テスト *第13-16課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第13～16課の復習</li> <li>・練習問題</li> </ul>	自己学習：第13-16課の復習をすること。期末試験の準備をすること。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう！	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末に毎週の宿題（50%）と中間テスト（25%）と期末試験（25%）で評価する。 100点満点中60点以上で合格。 （新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。）			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	*「質問等は Teams Chat にて対応する」 *講義前の予習（テキストを読む。1時間 x13回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 X13回）、 自己学習（講義プリントに記載されている確認問題を解答する。） *受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。			

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	楊 莉
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音 ・子音①	自己学習：p6～p11の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p10、p12) を解答すること。
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音② ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p12、p14) を解答すること。
3	第1課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p21～p23の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p24) を解答すること。
4	第1課 復習 第2課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第1課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p28) を解答すること。
5	第2課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第2課練習問題	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p25) を暗唱すること。
6	第3課 彼女は今年20歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年20歳です)	自己学習：p29～p31の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p32) を解答すること。
7	第3課 復習 第4課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第3課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33～p35の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p36) を解答すること。
8	第4課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (お子さんは何人いらっしゃいますか) ・第4課練習問題	自己学習：p33～p35録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p33) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第1-4課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第1～4課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第1-4課の復習をすること。
10	第5課 おうちは駅から遠いですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37～p39の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p40) を解答すること。
11	第6課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第5課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41～p43の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p44) を解答すること。
12	第6課 復習	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習：p45～p47の録音を聞いて、発音を練習を

		第7課 そのうちと一緒に食べに行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第6課練習問題 ・文型「太～了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	すること。練習問題 (p48) を解答すること。
	13	第7課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (そのうちと一緒に食べに行きましょう) ・第7課練習問題	自己学習:p45～p47の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p45) を暗唱すること。
	14	第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話 (電車で行きましょう)	自己学習:p49～p51の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p52) を解答すること。
	15	・復習 *第5-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第8課練習問題 ・復習 (第5～8課) ・練習問題	自己学習:第5-8課の復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう!	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末に中間テスト (50%) と期末試験 (50%) で評価する。100点満点中60点以上で合格。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)
-----------	--

学生へのメッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習 (テキストを読む。1時間 x13回)、 復習 (講義プリントの重要事項をまとめる。1.5時間 x13回)、 自己学習 (講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 坤鈺
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OCH1411e2		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、日本にいながらでもさまざまな場面において中国語で中国人と交流するというふう、自然なセリフを覚える。
到達目標	多彩なドリルを通じて、課文のポイントや語句を十分に習得する。また、基本日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を得るようにがんばる。
授業方法と留意点	授業は予習・復習を前提に進行することに注意。 授業中、音読や暗唱などの練習に積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音編 1 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・声調 ・単母音 ・複母音 ・子音①	自己学習：p6～p11の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p10、p12) を解答すること。
2	発音編 2 *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	発音、ピンイン、単語を学ぶ。 ・子音② ・鼻母音 ・発音の規則 ・中国語の音節構造 ・声調の組合せのパターン ・簡単なあいさつ言葉	自己学習：p11～p18の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p12、p14) を解答すること。
3	第1課 はじめまして *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・人称代名詞 ・「是」を用いる動詞述語文 ・疑問文 ・名前の言い方 ・会話 (はじめまして)	自己学習：p21～p23の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p24) を解答すること。
4	第1課 復習 第2課 とてもおいしいです *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第1課練習問題 ・指示代名詞 ・形容詞述語文 ・副詞「也」 ・動詞述語文 ・会話 (とてもおいしいです)	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p28) を解答すること。
5	第2課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (とてもおいしいです) ・第2課練習問題	自己学習：p25～p27の録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p25) を暗唱すること。
6	第3課 彼女は今年20歳です *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・動詞+「過」 ・「的」の省略 ・数字、日にち、曜日、年齢の言い方 ・名詞述語文 ・会話 (彼女は今年20歳です)	自己学習：p29～p31の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p32) を解答すること。
7	第3課 復習 第4課 お子さんは何人いらっしゃいますか *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第3課練習問題 ・所有・所在を表す「有」 ・量数 (助数詞) ・疑問詞疑問文 ・比較を表す前置詞「比」	自己学習：p33～p35の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p36) を解答すること。
8	第4課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (お子さんは何人いらっしゃいますか) ・第4課練習問題	自己学習：p33～p35録音を聞いて、発音を練習をすること。会話文 (p33) を暗唱すること。
9	・復習 ・中間テスト *第1-4課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第1～4課の復習 ・練習問題 ・中間テスト	自己学習：第1-4課の復習をすること。
10	第5課 おうちは駅から遠いですか *正しく発音できる、ピンインと漢字が書ける。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・隔たりを表す前置詞「離」 ・所在を表す動詞「在」 ・推量を表す助詞 ・反復疑問文 ・会話 (おうちは駅から遠いですか)	自己学習：p37～p39の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p40) を解答すること。
11	第6課 お茶をどうぞ *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・第5課練習問題 ・動詞+「一下」 ・文末助詞「了」 ・動詞の重ね型 ・動詞の連体修飾 ・会話 (お茶をどうぞ)	自己学習：p41～p43の録音を聞いて、発音を練習をすること。練習問題 (p44) を解答すること。
12	第6課 復習	文法、単語、会話を学ぶ。	自己学習：p45～p47の録音を聞いて、発音を練習を

		第7課 そのうちと一緒に食べに行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	・第6課練習問題 ・文型「太～了」 ・主述述語文 ・場所を表す前置詞「在」 ・連動文	すること。練習問題 (p48) を解答すること。
	13	第7課 復習 *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	会話文を覚える。 ・会話 (そのうちと一緒に食べに行きましょう) ・第7課練習問題	自己学習:p45~p47の録音を聞いて、発音を練習すること。会話文 (p45) を暗唱すること。
	14	第8課 電車で行きましょう *単語のピンインと漢字が書け、会話文が読め、話せる。	文法、単語、会話を学ぶ。 ・助動詞「想」 ・意志・勧誘を表す助詞 ・手段を尋ねる表現 ・許可を表す助動詞「可以」 ・会話 (電車で行きましょう)	自己学習:p49~p51の録音を聞いて、発音を練習すること。練習問題 (p52) を解答すること。
	15	・期末テスト *第5-9課の復習をすることで、習ったものを身に付けることができる。	習った文法、単語、会話を復習する。 ・第8課練習問題 ・復習 (第5~8課) ・練習問題	自己学習:第5-8課の復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スリム版 中国語で伝えよう!	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)  
 期末に 毎週の宿題 (50%) と 中間テスト (25%) と 期末試験 (25%) で 評価する。  
 100 点満点中 60 点以上で合格。  
 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)

学生へのメッセージ  
 復習をしてこそはじめて力が付きます。

担当者の研究室等  
 非常勤講師室

備考  
 \*「質問等は Teams Chat にて対応する」  
 \*講義前の予習 (テキストを読む。1 時間 x13 回)、  
 復習 (講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回)、  
 自己学習 (講義プリントに記載されている確認問題を解答する。)  
 \*受講者の学習状況に応じて、コースの進捗を調整します。シラバスは、授業進度の参考とする。

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常的な場面において意思疎通を図る力を育む。
到達目標	文法の基本と基礎的な語彙、表現を身につける。 学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、身近なことを話したり聞いたりできるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] テキストに従って、語彙、文法、表現を学び、様々な場面を想定した会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。  [留意点] オンラインプラクティスを行う際にテキスト付属のアクセスコードが必要になります。有効なアクセスコードが付いたテキストを用意してください。 5回を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻2回で1回欠席、30分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の使用 (必要)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 7 Remember when ...	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 7 Remember when ... (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 8 Love it or hate it!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 8 Love it or hate it! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 9 Life in the city	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 9 Life in the city (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 7-Unit 9 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 10 What are you up to?	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 10 What are you up to? (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 11 Going for it!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 11 Going for it! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 12 Have you ever ... ?	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 12 Have you ever ... ? (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
15	後半学習の確認	Unit 10-Unit 12 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Headway 5th Edition Elementary Student's Book with Online Practice	Liz Soars, John Soars, Paul Hancock	オックスフォード大学出版局
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト (理解度を確認する復習テスト) : 30% 課題 : 10%
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 テストや課題に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は授業前後に教室で受け付けます。

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3410c2		

授業概要・目的	・英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 ・主にビジネス場面での英語を題材とする。
到達目標	・基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 ・基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 ・基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようになる。
授業方法と留意点	・基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの発話・聞き取り練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表もを行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 ・授業内で学んだ基本的なフレーズや文法事項について、翌週の小テストによって知識の定着を目指します。 ・授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了させることで良い学習リズムを作っていきましょう。 ・毎回授業の終わりにリアク
科目学習の効果 (資格)	・日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 ・TOEIC の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ・ペア・グループ等で自己表現活動を行う。 ・リアクション・ペーパーを記入する。	テキストの音声ダウンロードしておく。 テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 Welcome to the office	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
3	Unit 2 What time do you close?	・小テスト (前週の基本フレーズ・文法事項から出題。以下同じ) ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
4	Unit 3 I'd like to change an order	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
5	Unit 4 May I take a message?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
6	Unit 5 Shall I ring that up for you?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
7	Unit 6 This way, please	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit 1-Unit 6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
8	達成度テスト①	・Unit 1-Unit 6 の内容について理解を深め、達成度を確認する。 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit1-Unit6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
9	Unit 7 I'd like to make a complaint	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
10	Unit 8 Could you fill out this form?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
11	Unit 9 Welcome to Japan	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
12	Unit 10 What's your background?	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
13	Unit 11 Here's your schedule	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発話、聞き取り練習</li> <li>・ペア、グループワーク活動</li> <li>・リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	
	14	Unit 12 I'll see you tomorrow	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・基本フレーズ・文法事項の確認</li> <li>・発話、聞き取り練習</li> <li>・ペア、グループワーク活動</li> <li>・リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	Unit7-Unit12の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
	15	達成度テスト②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 7-Unit 12 の内容について理解を深め、達成度を確認する。</li> <li>・リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	Unit7-Unit12の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Encounters	Michael P. Critchley	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み (ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答、演習の解答や予習内容の発表など)、授業外学習課題 (予習・復習)、リアクション・ペーパー・・・ 40%</li> <li>・小テスト・・・ 20%</li> <li>・達成度テスト① (ペーパーテスト/発表)・・・ 20%</li> <li>・達成度テスト② (ペーパーテスト/発表)・・・ 20%</li> </ul> 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んでの学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための学習 (小テストに向けた学習、予習、復習、発表準備など)の総時間は、おおよそ30時間程度とします。 小テストや課題等に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 峰子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	基本的な表現や語彙、文法の知識を使って日常的な場面において意思疎通を図る力を育む。
到達目標	文法の基本と基礎的な語彙、表現を身につける。 学んだ表現や語彙、文法の知識を使って、身近なことを話したり聞いたりできるようになる。
授業方法と留意点	[授業方法] テキストに従って、語彙、文法、表現を学び、様々な場面を想定した会話やスピーチの聞き取り練習、個人やグループでの発話練習をします。  [留意点] オンラインプラクティスを行う際にテキスト付属のアクセスコードが必要になります。有効なアクセスコードが付いたテキストを用意してください。 5回を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなします。 遅刻2回で1回欠席、30分以上の遅刻は欠席とみなします。中途退室は遅刻同様に扱います。 テキスト忘れ、スマートフォンなど通信機器の使用 (必要)
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などの説明	シラバス、テキストの構成を確認する。
2	Unit 1 Nice to meet you!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
3	Unit 1 Nice to meet you! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
4	Unit 2 Work and Family	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
5	Unit 2 Work and Family (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
6	Unit 3 Time off	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
7	Unit 3 Time off (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
8	前半学習の確認	Unit 1-Unit 3 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。
9	Unit 4 House and Home	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
10	Unit 4 House and Home (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
11	Unit 5 Super U!	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
12	Unit 5 Super U! (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
13	Unit 6 Lessons in life	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
14	Unit 6 Lessons in life (2)	・語彙、文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワークを通して学ぶ	指定の範囲を学習する。
15	後半学習の確認	Unit 4-Unit 6 の内容について理解を深め、到達度を確認する。	既習の学習内容を整理、補足、復習を行うこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Headway 5th Edition Elementary Student's Book with Online Practice	Liz Soars, John Soars, Paul Hancock	オックスフォード大学出版局
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	クラスワーク (発表、グループワーク・ペアワークへの参加) : 60% テスト (理解度を確認する復習テスト) : 30% 課題 : 10%
学生への メッセージ	学習する姿勢を評価します。積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	授業の準備として、知らない語句や表現は辞書を使って意味・用例を確認しておくこと。 毎回の授業のための準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とします。 テストや課題に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は授業前後に教室で受け付けます。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萬田 恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN3409c2		

授業概要・目的	・英語で話したり聞いたりするための基礎的な知識と技術を身につけることを目的として、発話・聞き取りを中心とする演習授業を行う。 ・会話の想定場面は、自分に関わること (例. 自己紹介や専攻分野の紹介など) や英語をコミュニケーション手段としたキャンパス内での会話を中心とする。
到達目標	・基本的なフレーズや基礎的文法知識を確認し、発話・聞き取りの素地を強化する。 ・基本的文法知識や平易な表現を使って話せるようになる。 ・基本的なフレーズを聞き取り、理解できるようにする。
授業方法と留意点	・基本的なフレーズや文法事項を確認しながら、テキストに従って、個人、ペア、グループでの発話・聞き取り練習・ロールプレイを行います。題材によっては全体での発表もを行います。演習型の授業なので、授業内の学習活動に積極的に参加し貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 ・授業内で学んだ基本的なフレーズや文法事項について、翌週の小テストによって知識の定着を目指します。 ・授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了させることで良い学習リズムを作っていきましょう。 ・毎回授業の終わりにリアク
科目学習の効果 (資格)	・日常生活における英語を使った発話・聞き取り能力の向上 ・TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。 ・ペア・グループ等で自己紹介活動を行う。 ・リアクション・ペーパーを記入する。	テキストの音声ダウンロードしておく。 テキストの構成を確認する。
2	Unit 2 Getting to know your classmates	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
3	Unit 3 Talking about classes	・小テスト (前週の基本フレーズ・文法事項から出題。以下同じ) ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
4	Unit 4 Talking about your daily life	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
5	Unit 5 Talking about people: personality	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
6	Unit 6 Talking about people: appearance	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
7	Unit 7 Talking about last weekend	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit 2-Unit 6 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
8	達成度テスト①	Unit 2-Unit 7 の内容について理解を深め、達成度を確認する。 ・リアクション・ペーパーの記入	Unit2-Unit7 の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
9	Unit 9 Talking about going out on the town	・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
10	Unit 10 Talking about foods and recipes	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
11	Unit 11 Talking about travel	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
12	Unit 12 Talking about hometowns	・小テスト ・基本フレーズ・文法事項の確認 ・発話、聞き取り練習 ・ペア、グループワーク活動 ・リアクション・ペーパーの記入	小テストに向けて学習する。 指定範囲の予習と復習をする。
13	Unit 13 Talking about your	・小テスト	小テストに向けて学習する。

		opinions	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本フレーズ・文法事項の確認</li> <li>発話、聞き取り練習</li> <li>ペア、グループワーク活動</li> <li>リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	指定範囲の予習と復習をする。
	14	Unit 14 Talking about future plans	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト</li> <li>基本フレーズ・文法事項の確認</li> <li>発話、聞き取り練習</li> <li>ペア、グループワーク活動</li> <li>リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	Unit9-Unit14の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
	15	達成度テスト②	<ul style="list-style-type: none"> <li>Unit 9-Unit 14の内容について理解を深め、達成度を確認する。</li> <li>リアクション・ペーパーの記入</li> </ul>	Unit9-Unit14の学習内容について、整理、補足、復習を行う。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Time to Communicate	Eric Bray	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取り組み(ペア・グループ活動への参加姿勢、投げかける質問に対する応答、演習の解答や予習内容の発表など)、授業外学習課題(予習・復習)、リアクション・ペーパー・・・ 40%</li> <li>小テスト・・・ 20%</li> <li>達成度テスト①(ペーパーテスト/発表)・・・ 20%</li> <li>達成度テスト②(ペーパーテスト/発表)・・・ 20%</li> </ul> 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	みなさんそれぞれが「個性」や「文化」を持っておられて、その「個性」や「文化」が集い、同じ空間と同じ時間を共有しながら学ぶことが「授業」の醍醐味のひとつと感じております。さらに、演習型の授業では、自己表現の機会も多くなりますので、コミュニケーションの楽しさだけでなく、緊張や不安などの感情も巻き込んだ学習となります。それが「外国語」ともなると、母語でのコミュニケーション以上に色々な感情との出会いがあるかと思えます。お互いの個性を尊重しながら、「失敗しても大丈夫!」「今日出来なかったことは次こそ!」と次につな			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための学習(小テストに向けた学習、予習、復習、発表準備など)の総時間は、おおよそ30時間程度とします。 小テストや課題等に関するフィードバックは授業内で行います。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction Unit 0 Self introductions	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students and Units 0	Active participation
	2	Unit 1 Hobbies and Interests	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	3	Unit 2 Clothing	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	4	Unit 3 Healthy and Unhealthy Actions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	5	Unit 4 Locations and Directions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	6	Unit 5 Objects and Materials	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	7	Unit 6 Goals and Dreams	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	8	Mid-term speaking test	Mid-term speaking test on topics covered so far this semester (Unit 1-6)	Speaking test
	9	Unit 7 Past Activities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	10	Unit 8 Nature	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	11	Unit 9 Abilities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	12	Unit 10 Likes and Dislikes	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	13	Unit 11 Rules	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	14	Unit 12 Stories	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
15	Final speaking test	Final speaking test on topics covered during the second half of the semester (Unit 7-12)	Speaking test	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success (5th edition)	Mark Helgeson, John Wiltshier & Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グリーン キーラン
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit07: Food and Drink	授業の進め方の確認 履修上の注意の確認 クラス内ルールの確認 会話練習	シラバスを読む 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	2	Unit07: Food and Drink Learning Tips07	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	3	Unit08: Travel	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	4	Unit08: Travel Learning Tips08	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	5	Unit09: Education	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	6	Unit09: Education Learning Tips09	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	7	前半まとめ 確認課題 発表課題	前半まとめ 確認課題 発表課題	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	8	Unit10: Health	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	9	Unit10: Health Learning Tips10	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	10	Unit11: Numbers and Prices	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	11	Unit11: Numbers and Prices Learning Tips11	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	12	Unit12: People 発表準備	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	13	Unit12: People Learning Tips12 発表準備	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	14	後半まとめ 発表課題	後半まとめ 発表課題	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
15	確認テスト・まとめ	確認テスト・まとめ	今学期の復習	
関連科目				
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Voices 2 English as a Lingua Franca	Alastair Graham-Marr et al.	ABAX ELT Publishers
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	しっかり喋りましょう			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認	アンケートに答える Writing およびペアとの Speaking など	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Performance	ダイアログを覚えて発表する (ペア) Memory, Pronunciation, Emotion に気を付けて発表をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Review & TEST	Unit1~6の復習 まとめテストを受ける	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グリーン キーラン
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit01: You	授業の進め方 履修上の注意 クラス内ルール 会話練習	シラバスを読む 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	2	Unit01: You Learning Tips01	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	3	Unit02: Home	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	4	Unit02: Home Learning Tips02	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	5	Unit03: Daily life	文法説明 聴解練習 会話練習 小テスト 01	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	6	Unit03: Daily life Learning Tips03	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	7	前半まとめ 会話テスト	前半まとめ 会話テスト	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	8	Unit04: Neighborhood	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	9	Unit04: Neighborhood Learning Tips04	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	10	Unit05: Work	文法説明 聴解練習 会話練習 小テスト 02	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	11	Unit05: Work Learning Tips05	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	12	Unit06: Free time	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	13	Unit06: Free time Learning Tips06	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	14	後半まとめ 会話テスト	後半まとめ 会話テスト	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
15	確認テスト・まとめ	確認テスト・まとめ	今学期の復習	

関連科目  
教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Voices 2 English as a Lingua Franca	Alastair Graham-Marr et al.	ABAX ELT Publishers
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	しっかり喋りましょう			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオンラインにて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明 Unit 8 食品の保存①	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ユニット前半の問題演習(語彙、読解演習)	(事前) Unit 8の全体に目をとっておく Unit 8前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返しを行う
2	・Unit 8 食品の保存②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 8後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
3	・Unit 9 食の安全①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 9の全体に目をとっておく Unit 9前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
4	・Unit 9 食の安全②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 9後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
5	・Unit 10 菜食主義①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 10の全体に目をとっておく Unit 10前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
6	・Unit 10 菜食主義②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 10後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
7	・Unit 11 摂食障害①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 11の全体に目をとっておく Unit 11前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
8	・Unit 11 摂食障害②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 11後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
9	・Unit 12 健康的な日本料理の文化①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 12の全体に目をとっておく Unit 12前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
10	・Unit 12 健康的な日本料理の文化②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 12後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
11	・Unit 13 食事と妊娠生活①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 13の全体に目をとっておく Unit 13前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
12	・Unit 13 食事と妊娠生活②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 13後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
13	・Unit 14 Jamie Oliver の"Feed Me Better"キャンペーン①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 14の全体に目をとっておく Unit 14前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し

	14	・Unit 14 Jamie Oliver の "Feed Me Better" キャンペーン②	・読解演習、作文（語の並び替え）、ディクテーション	(事前) Unit 14 後半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
	15	・後期履修範囲の総復習	・Units 8-14 のまとめ（期末テスト）	(事前) 前期履修範囲全体の復習 (事後) 特になし
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Matter of Taste	津田晶子、Chris Valvona、大部正代	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 (積極性) ・小テスト成績 50% 期末テスト 50%			
学生への メッセージ	(1) テキストは必ず持参して授業に臨んでください。 (2) 毎回の授業の復習を丁寧に行い、分からない箇所は、すぐに尋ねて、解決するようにしてください。			
担当者の 研究室等	8号館 1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを旨
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 次回の授業内容の予習
	2	Chapter 7	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	3	Chapter 7	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	4	Chapter 8	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	5	Chapter 8	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	6	Chapter 9	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	7	Chapter 9	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	8	Chapter 10	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	9	Chapter 10	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	10	Chapter 11	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	11	Chapter 11	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	12	Chapter 12	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	13	Chapter 12	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	14	時事問題	ディスカッション	Quiz (小テスト) 30~60分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
15	総復習	前期の総復習と実力チェック対策	Final (実力チェック) 60分程度 ・ 全授業内容の復習	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	American English File Level 1 Student Book With Online Practice	Christina Latham-Koenig 他	オックスフォード大学出版局
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット (書く・話す) を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識 (単語・文法など) は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができますようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Introduction Unit 0 Self introductions	Explanation of the class, syllabus, rules & grading Introduction of students and Units 0	Active participation
	2	Unit 1 Hobbies and Interests	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	3	Unit 2 Clothing	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	4	Unit 3 Healthy and Unhealthy Actions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	5	Unit 4 Locations and Directions	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	6	Unit 5 Objects and Materials	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	7	Unit 6 Goals and Dreams	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	8	Mid-term speaking test	Mid-term speaking test on topics covered so far this semester (Unit 1-6)	Speaking test
	9	Unit 7 Past Activities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	10	Unit 8 Nature	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	11	Unit 9 Abilities	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	12	Unit 10 Likes and Dislikes	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	13	Unit 11 Rules	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	14	Unit 12 Stories	Vocabulary building, listening comprehension, listening dictation, speaking skills, speaking practice.	Active participation Quiz
	15	Final speaking test	Final speaking test on topics covered during the second half of the semester (Unit 7-12)	Speaking test

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success (5th edition)	Mark Helgeson, John Wiltshier & Steven Brown	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quiz (小テスト) ...40% 授業内外の課題 ...40% 実力チェック ...20%
学生への メッセージ	後期の授業では、よりアウトプット(書く・話す)を意識した訓練を行っていきます。相手に伝えたい内容が少し複雑だったりすると、「自分の英語力では無理だ」と諦めていませんか。皆さんが持っている英語の知識(単語・文法など)は、既に膨大な量です。それらをうまく組み合わせることで、複雑な内容でも簡単な表現で伝えることができますようになります。そのための様々な訓練を行っていきます。楽しみながら力をつけてください。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・授業概要の説明 ・ビジネス分野英語の背景	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ビジネス分野(そしてTOEIC)での食農関連会社と製品について知る。	(事前) テキストを持参しておくこと (事後) ビジネス分野内容を復習しておく
2	・Unit 7 Shopping (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 7 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 7 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
3	・Unit 7 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理1)	・Unit 7 の重要文法を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
4	・Unit 8 Entertainment and Sports (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 8 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 2 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
5	・Unit 8 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理2)	・Unit 8 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
6	・Unit 9 Environment (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 9 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 3 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
7	・Unit 9 の応用(文法を活かす) (食農分野:調理3)	・Unit 9 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 調理について興味をもち、身の回りの調理方法について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
8	・Unit 10 Email より (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 10 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 4 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
9	・Unit 10 の応用(文法を活かす) (食農分野:発酵)	・Unit 10 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 発酵について興味をもち、身の回りの発酵について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
10	・Unit 11 Email とビジネス文書 (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 11 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 5 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
11	・Unit 11 の応用(文法を活かす) (食農分野:食と健康1)	・Unit 11 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食と健康について興味をもち、身の回りの健康食品について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
12	・Unit 12 Email とビジネス文書 (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 12 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 6 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく

	13	・Unit 12 の応用(文法を活かす) (食農分野:食と健康2)	・Unit 12 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食と健康について興味をもち、身の回りの健康食品について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
	14	・TOEIC のテスト内容 (テキスト Unit 13-15 Reading)	・TOEIC Part 7 の内容理解・必要事項を説明する。 ・小テストを行う。	(事前) TOEIC について関心を持つ。そして自分なりに調べてみる。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
	15	・後期の応用 (食農分野より)	・後期で学んで来た事を振り返り、分野を決め、その内容についてリスニングを行う。後にサイト検索、そしてエッセイ英語で書く。 ・課題提出を行う	(事前) 後期で学んだことを復習しておく。 (事後) 特になし

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST READING 550	Hiroko Katanoda 他著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Exploring Agriscience 5th	Herren R.V.	CENGAGE
	2	Amazing Theme-based ESL Worksheets for beginners	Hunter Baye	Hunter publishing
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 小テスト 40% 授業課題 40%
--------------	--------------------------------------

学生への メッセージ	(1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了すること (2) 授業課題の締め切り日を厳守すること (3) テキスト持参必須 (4) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用
---------------	---

担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室
--------------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明 Unit 8 食品の保存①	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ユニット前半の問題演習 (語彙、読解演習)	(事前) Unit 8 の全体に目をとっておく Unit 8 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直しを行う
2	・Unit 8 食品の保存②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 8 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
3	・Unit 9 食の安全①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 9 の全体に目をとっておく Unit 9 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
4	・Unit 2 食の安全②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 9 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
5	・Unit 10 菜食主義①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 10 の全体に目をとっておく Unit 10 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
6	・Unit 10 菜食主義②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 10 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
7	・Unit 11 摂食障害①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 11 の全体に目をとっておく Unit 11 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
8	・Unit 11 摂食障害②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 11 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
9	・Unit 12 健康的な日本料理の文化①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 12 の全体に目をとっておく Unit 12 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
10	・Unit 12 健康的な日本料理の文化②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 12 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
11	・Unit 13 食事と妊娠生活①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 13 の全体に目をとっておく Unit 13 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
12	・Unit 13 食事と妊娠生活②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 13 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
13	・Unit 14 Jamie Oliver の "Feed Me Better" キャンペーン①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 14 の全体に目をとっておく Unit 14 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し

	14	・Unit 14 Jamie Oliver の "Feed Me Better"キャンペーン②	・読解演習、作文（語の並び替え）、デ ィクテーション	(事前) Unit 14 後半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
	15	・後期履修範囲の総復習	・Units 8-14 のまとめ（期末テスト）	(事前) 前期履修範囲全体の復習 (事後) 特になし
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Matter of Taste	津田晶子、Chris Valvona、大部 正代	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 受講態度 (積極性)・小テスト成績 30% 期末テスト 50%			
学生への メッセージ	(1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了してください。 (2) テキストは必ず持参して授業に臨んでください。 (3) 毎回の授業の復習を丁寧に行い、分からない箇所は、すぐに尋ねて、解決するようにしてください。			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 11: More Foreign Visitors-1	Unit 11 の精読	Unit 11 の予習、復習
2	Unit 11: More Foreign Visitors-2	Unit 11 の内容理解、議論	Unit 11 の復習 課題 (Unit13 の予習)
3	Unit 13: April Fools' Day in Japan-1	小テスト (Unit 11 の語彙・文法) Unit 13 の精読	Unit 13 の予習、復習
4	Unit 13: April Fools' Day in Japan-2	Unit 13 の内容理解、議論	Unit 13 の復習 課題 (Unit14 の予習)
5	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -1	小テスト (Unit 13 の語彙・文法) Unit 14 の精読	Unit 14 の予習、復習
6	Unit 14: Summer-Vacation Assignments -2	Unit 14 の内容理解、議論	Unit 14 の復習 課題 (Unit16 の予習)
7	Unit 16: Valentine's Day in Japan-1	小テスト (Unit 14 の語彙・文法) Unit 16 の精読	Unit 16 の予習、復習
8	Unit 16: Valentine's Day in Japan-2	まとめテスト (Unit 11, 13, 14 の読解等) Unit 16 の内容理解、議論	Unit 11, 13, 14 の復習 Unit 16 の復習 課題 (Unit17 の予習)
9	Unit 17: Smartphone Lock Screens-1	小テスト (Unit 16 の語彙・文法) Unit 17 の精読	Unit 17 の予習、復習
10	Unit 17: Smartphone Lock Screens-2	Unit 17 の内容理解、議論	Unit 17 の復習 課題 (Unit18 の予習)
11	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	小テスト (Unit 17 の語彙・文法) Unit 18 の精読	Unit 18 の予習、復習
12	Unit 18: YouTube vs. Normal TV-1	Unit 18 の内容理解、議論	Unit 18 の復習 課題 (Unit 20 の予習)
13	Unit 20: Translation Software-1	小テスト (Unit 18 の語彙・文法) Unit 20 の精読	Unit 20 の予習、復習
14	Unit 20: Translation Software-2	Unit 20 の内容理解、議論	Unit 20 の復習
15	Unit 16~Unit 20	小テスト (Unit 20 の語彙・文法) まとめテスト (Unit16, 17, 18, 20 の読解等) 速読 (Unit16, 17, 18, 20)	Unit16, 17, 18, 20 の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / 委文 光太郎	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% 80%の内訳 [課題: 30%、小テスト・まとめテスト: 50%、授業内活動(会話、聴解等): 10%、授業への取り組み: 10%]
----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明 Unit 1 主要な栄養素①	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ユニット前半の問題演習(語彙、読解演習)	(事前) Unit 1の全体に目をとっておく Unit 1前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直しを行う
2	Unit 1 主要な栄養素②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 1後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
3	Unit 2 健康補助食品①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 2の全体に目をとっておく Unit 2前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
4	Unit 2 健康補助食品②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 2後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
5	Unit 3 食物アレルギー①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 3の全体に目をとっておく Unit 3前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
6	Unit 3 食物アレルギー②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 3後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
7	Unit 4 肥満の時限爆弾①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 4の全体に目をとっておく Unit 4前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
8	Unit 4 肥満の時限爆弾②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 4後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
9	Unit 5 クラッシュダイエット①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 5の全体に目をとっておく Unit 5前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
10	Unit 5 クラッシュダイエット②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 5後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
11	Unit 6 糖尿病(生活習慣病)①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 6の全体に目をとっておく Unit 6前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し
12	Unit 6 糖尿病(生活習慣病)②	・読解演習、作文(語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 6後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見直し
13	Unit 7 食べ物は万能薬?①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 7の全体に目をとっておく Unit 7前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見直し

	14	Unit 7 食べ物は万能薬?②	・読解演習、作文（語の並び替え）、ディクテーション	(事前) Unit 7 後半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
	15	前期履修範囲の総復習	・Units 1-7 のまとめ（期末テスト）	(事前) 前期履修範囲全体の復習 (事後) 特になし
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Matter of Taste	津田晶子、Chris Valvona、大部正代	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度(積極性)・小テスト成績 50% 期末テスト 50%			
学生への メッセージ	(1) テキストは必ず持参して授業に臨んでください。 (2) 毎回の授業の復習を丁寧に行い、分からない箇所は、すぐに尋ねて、解決するようにしてください。			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 次回の授業内容の予習
	2	通じるレベルの発音	日本語母語話者が英語を話すときの特徴を知る	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	3	Chapter 1	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	4	Chapter 1	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	5	Chapter 2	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	6	Chapter 2	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	7	Chapter 3	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	8	Chapter 3	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	9	Chapter 4	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	10	Chapter 4	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	11	Chapter 5	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	12	Chapter 5	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	13	Chapter 6	基礎演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	14	Chapter 6	応用演習	Quiz (小テスト) 30~60 分程度 ・ 今回の授業内容の復習 ・ 次回の授業内容の予習
	15	総復習	前期の総復習と実力チェック対策	Final (実力チェック) 60 分程度 ・ 全授業内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	American English File Level 1 Student Book With Online Practice	Christina Latham-Koenig 他	オックスフォード大学出版局
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%
学生への メッセージ	入学おめでとう。これからの4年間、どんなことをやりたいですか。世の中が落ち着いたら、ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュも臆せず使えるようになります。海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ベンジャミン スミス
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業概要の説明	Quiz (小テスト)
	2	Unit 1 The Sky Lodge: An Unusual Hotel	休暇に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	3	Unit 1 The Sky Lodge: An Unusual Hotel	休暇に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	4	Unit 2 Japanese High School Life	学校生活に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	5	Unit 2 Japanese High School Life	学校生活に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	6	Unit 3 Sloth Calendar	人生観に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	7	Unit 3 Sloth Calendar	人生観に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	8	Unit 4 The Skate Brothers	趣味に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	9	Unit 4 The Skate Brothers	趣味に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	10	Unit 5 Picnic Snack Ideas	食に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	11	Unit 5 Picnic Snack Ideas	食に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	12	Unit 6 Volcano Adventure	科学技術に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	13	Unit 6 Volcano Adventure	科学技術に関する表現 応用演習	Quiz (小テスト)
	14	Unit 7 Crazy Rides	乗物に関する表現 基礎演習	Quiz (小テスト)
	15	Unit 7 Crazy Rides	乗物に関する表現 応用演習	Final (実力チェック)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Expanding Horizons	ブラウン/田邊	南雲堂
	2	英語の正しい発音の仕方 (基礎編)	岩村圭南	研究社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quiz (小テスト) ...40% 授業内外の課題 ...40% 実力チェック ...20%
学生へのメッセージ	これから始まる新学期、自身の殻を破り、ぜひ新しいことに挑戦していきましょう。英語学習が難しく感じることや、時に英語で発言するのが恥ずかしいと感じることもあるかもしれませんが、なるべくリラックスしてお互いにこの学習機会を役立てていきましょう。将来、世界を旅したり、海外で世界中から来た人達と共に勉強したり、働いたりしたいと思った時に、英語はコミュニケーションのカギとなり、あなたの視野を広げ、新しい機会や友情を作る橋渡しの役割を果たしてくれます。その時、あなたの文法が完璧であるかどうかや、語彙力が高い
担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・授業概要の説明 ・ビジネス分野英語の背景	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ビジネス分野 (そして TOEIC) での会社や部署について知る。	(事前) テキストを購入しておく (事後) ビジネス分野内容を復習しておく
2	・Unit 1 Modern Technology (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 1 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 1 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
3	・Unit 1 の応用 (文法を活かす) (食農分野:嗜好飲料)	・Unit 1 の重要文法を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 嗜好飲料について興味をもち、身の回りの嗜好飲料について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
4	・Unit 2 Traveling (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 2 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 2 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
5	・Unit 2 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 1)	・Unit 2 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りの食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
6	・Unit 3 Health (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 3 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 3 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
7	・Unit 3 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 2)	・Unit 3 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りの食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
8	・Unit 4 Work (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 4 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 4 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
9	・Unit 4 の応用 (文法を活かす) (食農分野:食材 3)	・Unit 4 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 食材について興味をもち、身の回りの食材について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
10	・Unit 5 Food (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 5 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 5 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
11	・Unit 5 の応用 (文法を活かす) (食農分野:土より)	・Unit 5 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 農作物が作られる土について興味をもち、身の回りの土や養分について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
12	・Unit 6 Headlines (ビジネス分野の英単語等)	・Unit 6 の内容理解・必要事項を説明する。 ・さらにリスニング、ビジネスシーンに必要な単語を知る。 ・小テストを行う。	(事前) テキスト Unit 6 の問題をあらかじめ予習する。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく

	13	・Unit 6 の応用(文法を活かす) (食農分野：野菜より)	・Unit 6 の重要事項を食農分野で応用する。食農分野の英単語を知りつつ知識やビジネスについて知る。 ・課題提出を行う	(事前) 野菜について興味をもち、身の回りの野菜やその育成について知る。 (事後) 課題が未完成なら完成させ、さらに興味を深める。
	14	・TOEIC のテスト内容	・TOEIC Part 1/2 の内容理解・必要事項を説明する。 ・小テストを行う。	(事前) TOEIC について関心を持つ。そして自分なりに調べてみる。 (事後) 小テストの間違ひについて確認しておく
	15	・前期の応用 (食農分野より)	・前期で学んで来た事を振り返り、分野を決め、その内容についてリスニングを行う。後にサイト検索、そしてエッセイ英語で書く。 ・課題提出を行う	(事前) 前期で学んだことを復習しておく。 (事後) 特になし

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC TEST READING 550	Hiroko Katanoda 他著	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Exploring Agriscience 5th	Herren R. V.	CENGAGE
2			
3			

評価方法  
(基準)

全学共通英語課題 20%  
小テスト 40%  
授業課題 40%

学生への  
メッセージ

- (1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了すること
- (2) 授業課題の締め切り日を厳守すること
- (3) テキスト持参必須
- (4) 参考図書は購入の必要なし。授業中の資料として出典として利用

担当者の  
研究室等

8号館1階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要の説明 Unit 1 主要な栄養素①	・授業の進め方、評価方法、小テスト、課題提出の方法などを説明する。 ・ユニット前半の問題演習 (語彙、読解演習)	(事前) Unit 1 の全体に目をとっておく Unit 1 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返しを行う
2	・Unit 1 主要な栄養素②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 1 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
3	・Unit 2 健康補助食品①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 2 の全体に目をとっておく Unit 2 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
4	・Unit 2 健康補助食品②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 2 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
5	・Unit 3 食物アレルギー①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 3 の全体に目をとっておく Unit 3 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
6	・Unit 3 食物アレルギー②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 3 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
7	・Unit 4 肥満の時限爆弾①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 4 の全体に目をとっておく Unit 4 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
8	・Unit 4 肥満の時限爆弾②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 4 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
9	・Unit 5 クラッシュダイエット①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 5 の全体に目をとっておく Unit 5 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
10	・Unit 5 クラッシュダイエット②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 5 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
11	・Unit 6 糖尿病 (生活習慣病) ①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 6 の全体に目をとっておく Unit 6 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
12	・Unit 6 糖尿病 (生活習慣病) ②	・読解演習、作文 (語の並び替え)、ディクテーション	(事前) Unit 6 後半の予習 (事後) 授業のなかで間違えた練習問題の部分の見返し
13	・Unit 7 食べ物は何万能薬? ①	・語彙、読解演習	(事前) Unit 7 の全体に目をとっておく Unit 7 前半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し

	14	・Unit 7 食べ物は万能薬? ②	・読解演習、作文(語の並び替え)、デ ィクテーション	(事前) Unit 7 後半の予習 (事後) 授業中に分かりづらかった箇所の見返し
	15	・前期履修範囲の総復習	・Units 1-7 のまとめ(期末テスト)	(事前) 前期履修範囲全体の復習 (事後) 特になし
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Matter of Taste	津田晶子、Chris Valvona、大部 正代	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 受講態度(積極性)・小テスト成績 30% 期末テスト 50%			
学生への メッセージ	(1) 全学共通英語課題は各自の責任の下、完了してください。 (2) テキストは必ず持参して授業に臨んでください。 (3) 毎回の授業の復習を丁寧に行い、分からない箇所は、すぐに尋ねて、解決するようにしてください。			
担当者の 研究室等	8号館1階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 芳子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などを説明	Unit 1の予習
	2	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -1	Unit 1の精読	Unit 1の予習、復習
	3	Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone -2	Unit 1の内容理解、議論	Unit 1の復習 課題 (Unit 2の予習)
	4	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -1	小テスト (Unit 1の語彙・文法) Unit 2の精読	Unit 2の予習、復習
	5	Unit 2: Studying in a Caf? vs. Home -2	Unit 2の内容理解、議論	Unit 2の復習 課題 (Unit 4の予習)
	6	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -1	小テスト (Unit 2の語彙・文法) Unit 4の精読	Unit 4の予習、復習
	7	Unit 4: Coming-of-Age Ceremonies -2	Unit 4の内容理解、議論	Unit 4の復習 課題 (Unit 5の予習)
	8	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -1	小テスト (Unit 4の語彙・文法) Unit 5の精読	Unit 5の予習、復習
	9	Unit 5: 24/7 Convenience Stores -2	Unit 5の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 1, 2, 4の読解等)	Unit 5の復習 課題 (Unit 7の予習)
	10	Unit 7: Point Cards -1	小テスト (Unit 5の語彙・文法) Unit 7の精読	Unit 7の予習、復習
	11	Unit 7: Point Cards -2	Unit 7の内容理解、議論	Unit 7の復習 課題 (Unit 8の予習)
	12	Unit 8 Disaster Volunteers-1	小テスト (Unit 7の語彙・文法) Unit 8の精読	Unit 8の予習、復習
	13	Unit 8 Disaster Volunteers-2	Unit 8の内容理解、議論	Unit 8の復習 課題 (Unit 9の予習)
	14	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -1	小テスト (Unit 8の語彙・文法) Unit 9の精読	Unit 9の予習、復習
	15	Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad -2	Unit 9の内容理解、議論 まとめテスト (Unit 5, 7, 8の読解等)	Unit 9の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Two Sides to Every Discussion 2	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80% 80%の内訳 [課題: 30%、小テスト・まとめテスト: 50%、授業内活動(会話、聴解等): 10%、授業への取り組み: 10%]
----------	--

学生へのメッセージ	予習、復習、課題、小テスト・まとめテストの準備を必ずしてください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はeメールやMoodleを利用して対応する。
----	---

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方向的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、講義内に練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入・講義の進め方について	授業の目的、進め方の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
	2	わかりやすい文章とは何か	わかりやすい文章とは何かを考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
	3	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
	4	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
	5	事実と意見	事実と意見、説明文の書き方	1時間の事前事後学習を目安とする。
	6	【課題1】意見文	意見文を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
	7	段落	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
	8	文章を引用方法 (直接引用)	文章を引用する (直接引用)	1時間の事前事後学習を目安とする。
	9	文章の引用方法 (間節引用・要約)	文章を引用する (間節引用) 要約	1時間の事前事後学習を目安とする。
	10	課題1のフィードバック	意見文を書く：フィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
	11	【課題2】のレポートの構成を考える	問題提起 テーマに関する資料を集める	1時間の事前事後学習を目安とする。
	12	【課題2】資料を引用し、意見を書く	問題提起を行ったうえで、資料を引用して意見を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
	13	【課題3】のテーマ説明	【課題3】のレポートのテーマの説明、構成を考える	1時間の事前事後学習を目安とする。
	14	【課題3】の作成	論説文を書く	レポートを作成する
	15	文章作成に関するまとめ	これまでの文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テストなど (30%) により評価する。 提出が必須の課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 2回の課題を提出し、最後にレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	授業終了後、フィードバックした内容を課題 1 に反映し見直しをすること (1時間)
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
10	意見を述べる 【課題 2】 論説文	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 論説文の構成を考える	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
12	フィードバック レポートの書き方 1・2	課題 2 のフィードバック レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	授業終了後、フィードバックした内容を課題 2 に反映し見直しをすること (1時間) 指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1時間)
13	【 レポート 】	レポートの構成、資料に取り組む	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと (1時間)
14	【 レポート 】	レポートを提出する	指定した教科書を (該当ページ) を事前に読んでおく、レポートを作成の準備をしておくこと (1時間)
15	レポートの講評	レポートについて講評する	授業終了後、フィードバックした内容をレポートに反映し見直しをすること (1時間)

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三, 加藤 裕介, 戴 容泰思, 藤井 毅, 藤林 真美, 山居 輝美, 北村 敦子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。 SDGs 1～17
到達目標	① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABD による読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs (Sustainable Development Goals) について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて、アクティブ・ブック・ダイアログ (ABD) 読書術を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。本授業は原則として、対面授業として行われるが、新型コロナ感染状況により、遠隔授業となる可能性も
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (9:20~10:50)	チームビルディングの研修プログラム (農学部・看護学部・薬学部合同) 枚方キャンパスの学生相互のワークを通して大学の学びについて考える。	
2	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (11:00~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
3	枚方 CP 学修キックオフ・セミナー 4月8日 (13:20~15:00)	チームビルディングの研修プログラム	
4	「星の王子さま」① 4月15日 (9:20~10:50)	アイスブレイク、授業のガイダンス 「星の王子さま」の指定箇所について読み、要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」についての調べ学習 (1) 著者やこの本が書かれた時代背景などを調べましょう。(2) 不明な語句などを調べましょう。(1)と(2)をノートに記録しましょう。 事前学習内容については、各授業日の始めに理解度確認テスト (moodle) として実施されます。
5	「星の王子さま」① 4月15日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの説明と実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」① 授業で学修した教科書の箇所を、最初から通して読んでみましょう。自分が気になった箇所や、著者の考え方などを自分のノートにメモしましょう。
6	「星の王子さま」② 4月22日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」② (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
7	「星の王子さま」② 4月22日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」② 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
8	「星の王子さま」③ 6月3日 (9:20~10:50)	「星の王子さま」の指定箇所について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。 読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前: 「星の王子さま」③ (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。
9	「星の王子さま」③ 6月3日 (11:00~12:30)	質問づくり (QFT) ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出 質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後: 「星の王子さま」③ 授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。
10	「未来の年表」① 6月10日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所 (人口減少カレンダー2033~2065 年前半) について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。	事前: 「未来の年表」① (1) 重要な箇所の書き出し。(2) 不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しまし

			読む力、まとめる力、表現する力を養う。	よう。																
	11	「未来の年表」① 6月10日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出  質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」①  授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	12	「未来の年表」② 6月17日 (9:20~10:50)	「未来の年表」の指定箇所(人口減少カレンダー2033~2065年後半)について読み、理解して要約し、サマリーシート作成、発表する。  読む力、まとめる力、表現する力を養う。	事前:「未来の年表」②  (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	13	「未来の年表」② 6月17日 (11:00~12:30)	質問づくり(QFT)ワークの実践、ふりかえりシートの作成と提出  質問力、判断する力、コミュニケーション能力を養う	事後:「未来の年表」②  授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
	14	「SDGs(持続可能な開発目標) SDGsのゲームの実践」 6月24日 (9:20~10:50)	「SDGs(持続可能な開発目標)」  SDGsゲームの実践	事前:「SDGs」  (1)重要な箇所の書き出し。(2)不明な語句などを調べる。(1)と(2)を記入して、ノートに記録しましょう。																
	15	SDGsにかかる最新事情 6月24日 (11:00~12:30)	サマリーシート作成、発表する。 また、発表後、グループ内で対話し、ふりかえりシート作成と提出	事後:「SDGs」  授業で学修した内容を、もう一度自分でノートにまとめてみましょう。																
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来の年表</td> <td>河合雅司</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫	2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ著(河野万里子訳)	新潮文庫																	
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
評価方法(基準)	サマリーシート(10%)、ふりかえりシート(10%)、理解度確認テスト(前10%:事前学習の評価、後10%:ABD実施による読書内容の理解度評価)、グループワーク取り組み姿勢の評価(20%:グループワークでの討論を踏まえた共同作業・成果を含む)、期末テスト(40%)  以上の評価点の合計で60%以上を合格する。																			
学生へのメッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																			
担当者の研究室等	喜多 大三(農学部8号館2F 225) 山居 輝美(看護学部7号館 研究室3) 大塚 正人(薬学部1号館5F 331) 北村 敦子(看護学部7号館 共同研究室3) 藤林 真美(農学部8号館3F 323) 加藤 裕介(農学部8号館3F 304) 戴 容泰思(農学部8号館2F 215) 藤井 毅(農学部8号館2F 204)																			
備考																				

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅲ	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business III
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一・田中 樹・中塚 華奈・濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2070a0		

**授業概要・目的**  
 本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修をより深めるために、わが国や世界の食料・農業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在と解決の方向について認識をさらに深めるとともに、専門的な知識と考え方を修得することを目的とする。具体的には、より専門的な文献をテキストにして、輪読、発表し、ディスカッションを行うことによって、テキストの内容に関する理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。  
 また、学外の地域、農業・食料関連の団体や施設等を対象としたエクサカーション、小グループを単位とした課題学習と成果発表等も行う予定である。使用する教材も含めて詳細は、Teams および第1回目のオリエンテーション時に説明するので、十分に注意すること。

**到達目標**  
 ① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識をより深めることができる。  
 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な専門的な知識と考え方を身につけることができる。  
 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。

**授業方法と留意点**  
 ① 学生を4つのグループ(クラス)に分け、それぞれ担当の教員(4名)を決めて、少人数ゼミナール形式で行う。  
 ② 教員が指定する文献の輪読、発表、ディスカッションを中心に行う。  
 ※ゲストスピーカーの招へい、ならびに学外でのフィールドワークを実施する予定。フィールドワークの日程は追って連絡する。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解 事後：次回取り上げる内容の確認
2	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
3	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
4	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
5	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
6	ディスカッションⅠ	わが国や世界の食料の現状と課題に関してディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
7	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
8	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
9	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
10	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
11	ディスカッションⅡ	わが国や世界の食料の現状と課題に関するディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
12	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
13	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
14	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
15	ディスカッションⅢ	わが国や世界の食料の現状と課題に関するディスカッションする。	事前：これまでの内容の振り返り

**関連科目** 食農ビジネス学基礎演習Ⅰ 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教員が指定する文献や資料		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	好奇心のアンテナを絶えず張りながら、農業、農村、地域を見つめる目を養いましょう！
担当者の 研究室等	北川：8号館318 田中：8号館213 中塚：8号館317 濱田：8号館217
備考	★第1回目は、2年生後期を迎えるにあたってのガイダンスも行う。

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅱ	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・成 善政・柳村 俊介・吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2069a0		

授業概要・目的	本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修を本格的に始めるにあたって、わが国や世界の食料・農業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在について認識を深めるとともに、基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「食料・農業・農村白書」をはじめとする基礎的な文献をテキストにして、輪読、発表、ディスカッションを行うことによって、理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。
到達目標	① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識を深めることができる。 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な基礎的な知識を身につけることができる。 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	① 学生を4つのクラスに分け、それぞれ担当の教員を決め、少人数のゼミナール形式で行う。 ② 各クラスの学生を4～5人ずつのグループに分け、グループ毎に文献の担当箇所を決めて、グループワーク、プレゼンテーションを行う。 ③ プレゼンテーションの行うグループ以外の学生も、文献を読了し、全員でディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解 (30分) 事後：次回取り上げる内容の確認 (30分)
2	世界の食料需給の動向と課題	テキストに基づいて、世界の食料需給と農産物貿易の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
3	わが国の食料消費の動向と課題	テキストに基づいて、わが国の食料消費の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
4	食の安全と消費者の信頼確保の課題	テキストに基づいて、食の安全と消費者の信頼確保についてプレゼンテーションし、理解を深める。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
5	食品産業の動向と課題	テキストにもとづいて、食品産業の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
6	ディスカッション・意見交換Ⅰ	以上3回の内容を踏まえて、食料の安定供給の確保のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了 (1時間)
7	農業生産の動向と課題	テキストに基づいて、農業生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了 (1時間)
8	農業経営の動向と担い手の確保の課題	テキストに基づいて、農業経営の動向と担い手の確保をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
9	主要農畜産物の生産の動向と課題	テキストに基づいて、主要農畜産物の生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所のふりかえりレポート作成 (1時間)
10	農業関連団体の動向と課題	テキストに基づいて、農協をはじめとする農業関連団体の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
11	ディスカッション・意見交換Ⅱ	以上4回の内容を踏まえて、農業の持続的発展のあり方と課題についてディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
12	都市と農村の共生・対流の現状と課題	テキストに基づいて、都市と農村の共生・対流の現状をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
13	農業・農村の多面的機能の維持・発揮	テキストに基づいて、農業・農村の多面的機能の維持・発展の取り組みをプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
14	ディスカッションⅢ	以上の2回の内容を踏まえて、農村の振興・活性化のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 (1時間) 事後：文献の該当箇所の復習とふりかえりレポート作成 (1時間)
15	演習のまとめ	食料・農業・農村のこれからのあり方と課題、その解決方法について、ディスカッションする。	事前：これまでの内容のふりかえり (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書	農林水産省	農林水産省HP
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室（小野）、農業経済学研究室（成）、農業経営学研究室（柳村）、食料・農業政策学研究室（吉井）			
備考				

科目名	食農ビジネス学基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和、副島 久実、谷口 葉子、戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1068a0		

授業概要・目的	大学における学修・研究活動や社会におけるビジネス活動において、PC の利用は一般的であり、また、様々な情報がインターネットを通じて簡単に取得できるようになっている。本演習では、情報を正しく利用するための情報リテラシー、情報倫理を学修し、PC を使用するための基本的な知識と技能 (特に、Word、Excel、PowerPoint の基本的操作方法) を修得するとともに、Excel による経済データの基礎的な加工方法について学修する。各演習では、学修内容を補完するための課題を出し、知識・技能の定着を目指す。
到達目標	① PC、ネットワーク、情報セキュリティ等の ICT の基本知識について理解する。 ② アプリケーションを操作して、文書作成、表計算処理、プレゼンテーション資料の作成が行える。 ③ 経済データの基本的な統計処理が行える。
授業方法と留意点	PC を用いた実習形式の授業を行う。毎回資料を配布し、授業の前半で資料の内容にそって練習課題を行い、その後各自で提出課題に取り組み、それを提出してもらう。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ</td> <td>PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Word による文書作成</td> <td>文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Word による文書編集</td> <td>段組&amp;オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Excel による作表</td> <td>文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Excel による表計算</td> <td>数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Excel によるグラフ作成</td> <td>グラフ作成の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Excel によるデータベース利用</td> <td>データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>度数分布表・ヒストグラムの作成</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>データの中心と散らばり</td> <td>データの代表値と散布度を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>時系列データ</td> <td>移動平均や成長率を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの標準化</td> <td>標準化変量や偏差値を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2変数のデータの取り扱い</td> <td>ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>2変数間関係</td> <td>2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Word の活用</td> <td>Word と Excel を連携してレポートを作成する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>PowerPoint の基本操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解	2	Word による文書作成	文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	3	Word による文書編集	段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	4	Excel による作表	文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	5	Excel による表計算	数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	6	Excel によるグラフ作成	グラフ作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	7	Excel によるデータベース利用	データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	8	度数分布表・ヒストグラムの作成	度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	9	データの中心と散らばり	データの代表値と散布度を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	10	時系列データ	移動平均や成長率を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	11	データの標準化	標準化変量や偏差値を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	12	2変数のデータの取り扱い	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	13	2変数間関係	2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	14	Word の活用	Word と Excel を連携してレポートを作成する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	15	プレゼンテーション	PowerPoint の基本操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解																																																														
2	Word による文書作成	文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
3	Word による文書編集	段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
4	Excel による作表	文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
5	Excel による表計算	数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
6	Excel によるグラフ作成	グラフ作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
7	Excel によるデータベース利用	データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
8	度数分布表・ヒストグラムの作成	度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
9	データの中心と散らばり	データの代表値と散布度を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
10	時系列データ	移動平均や成長率を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
11	データの標準化	標準化変量や偏差値を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
12	2変数のデータの取り扱い	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
13	2変数間関係	2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
14	Word の活用	Word と Excel を連携してレポートを作成する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
15	プレゼンテーション	PowerPoint の基本操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第5版 はじめよう 経済学のための情報処理</td> <td>山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第5版 はじめよう 経済学のための情報処理	山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也	日本評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	第5版 はじめよう 経済学のための情報処理	山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也	日本評論社														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Excel で読み取る経済データ分析</td> <td>橋本紀子</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる統計学II 経済統計編 第2版</td> <td>御園謙吉・良永康平 編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Excel による統計入門 第4版</td> <td>縄田和満</td> <td>朝倉書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Excel で読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社	2	よくわかる統計学II 経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房	3	Excel による統計入門 第4版	縄田和満	朝倉書店
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Excel で読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社														
2	よくわかる統計学II 経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房														
3	Excel による統計入門 第4版	縄田和満	朝倉書店														

評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容 (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	地域マネジメント研究室 (浦出)、農水産物・食品マーケティング研究室 (副島)、持続型フードシステム研究室 (谷口)、食品流通研究室 (戴)
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	戴 容 泰 思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の 効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 蒼政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の 効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	①講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ②個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。 ゲストスピーカーの招へい、定例の以外の日にフィールドワーク（学外見学）を実施することがある（日程は、速やかに連絡するので注意すること）
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。(1 時間) 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。(1 時間)
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
3	第 3 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
4	第 4 章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章を読んでおく。(1 時間) 事後：授業内容のふりかえり。(1 時間)	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：発表を踏まえた補足学習。(1 時間)	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。(1 時間) 事後：学外実習のまとめ。(1 時間)	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。(1 時間) 事後：発表のふりかえり。(1 時間)	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容のふりかえり。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。(1 時間) 事後：授業内容の振り返り。(1 時間)	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。(1 時間) 事後：レポート作成のための補足学習。(1 時間)	

	14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表資料の作成。	事前：発表資料の準備。(1時間) 事後：発表資料作成のための補足学習。(1時間)
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。(1時間) 事後：課題学習①～⑤のふりかえり。(1時間)
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	病気の予防と食生活	科目名 (英文)	Eating habit and prevention of chronic diseases
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂根 貞樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1066a0		

授業概要・目的	日本人の死亡原因では、脳卒中や虚血性心疾患（心筋梗塞など）の循環器疾患や、がん（悪性腫瘍）の割合が多くなっており、それら多くの病気に関わっているのが生活習慣である。生活習慣病とは、食事や運動、ストレス、喫煙や飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に深く関与する病気の総称で、日々の食事や運動、生活習慣の乱れが発症の要因とされる。本講義では病気の予防と食生活について、生活習慣病を中心に学修する。
到達目標	① 病気の予防と食生活との関係を理解する。 ② 生活習慣病に含まれる主要な疾患について特徴を知り、各疾患の発症予防と食生活との関係について理解する。 ③ 生体の生理機能と摂取する栄養素との関連について知識を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に従って、パワーポイント (PPT) を用いて講義し、必要に応じて DVD など動画を供覧しながら授業をすすめる。事前に講義で使用する PPT の主要な部分について、PDF を Teams にアップロードするので、予習・復習に利用すること。授業後に「まとめの小テスト」を出題し、Moodle で期限内の解答入力を求める。小テストの得点は期末成績に反映される。
科目学習の効果 (資格)	農学全般において、生活習慣、特に食生活が身体機能や病気の発症におよぼす影響について正確な知識を習得することが、専門知識の理解や研究への応用に、きわめて有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生活習慣病とは何か?	生活習慣病の意味、病気を診断するプロセス、診断学の概要や定期健診の意義について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
2	肥満、脂質異常症、メタボリックシンドローム	現代人の生活習慣と関連の深い、肥満と脂質異常症、メタボリックシンドロームについて学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
3	糖尿病	代表的な生活習慣病とされる糖尿病の概要、最新の治療と発症予防における食事療法の重要性について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
4	動脈硬化、心血管疾患と食事	動脈硬化に起因する心疾患（狭心症、心筋梗塞）や脳血管障害（脳卒中）について、その概要と食生活との関連について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
5	高血圧と食事	高血圧症と食生活、とくに塩分摂取にとの関連、高血圧症の予防と治療のための食事内容について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
6	がんと生活習慣	がんの発症要因、食事内容や喫煙など生活習慣との関連について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
7	飲酒と病気	アルコール摂取と病気の関係、高尿酸血症、アルコール中毒やアルコール依存症について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
8	加齢と老化 ① 認知症	加齢・老化に伴う深刻な問題の1つである認知症について学び、生活習慣との関連について考察する。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
9	加齢と老化 ② 骨粗鬆症、サルコペニア、フレイル	加齢・老化に伴う運動機能の低下を引き起こす、骨粗鬆症、サルコペニア、フレイルやロコモティブシンドロームの評価法と対策、食生活との関連について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
10	慢性呼吸器疾患の食事療法	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病態、慢性呼吸不全の治療と食事療法の意義について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
11	貧血と食生活	貧血の成因と分類、特に鉄分など貧血に関連の深い栄養素について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
12	ビタミン、ミネラル摂取と病気	ビタミン欠乏やミネラル欠乏で引き起こされる病気について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
13	免疫と感染	免疫システムと感染症の概要、感染予防と食生活について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
14	食中毒	摂取した食物が直接の病因となりうる食中毒について、その実態と予防について学ぶ。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答
15	総括：病気とは何か?	生活習慣、食生活を通して学んだ内容から、改めて「病気とは何か？」を考察する。	事前学習：Teams で該当する基礎的事項の予習 事後学習：授業内容の復習と Moodle で小テスト解答

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料 (PDF)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	別途、指示する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まとめのテスト（評価割合 60%）に、学期末課題についての評価（40%）を加え、合計 60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	病気と食生活について、身近な話題を含めて楽しく学びましょう。			
担当者の 研究室等	食品栄養学科 臨床医学研究室			
備考				

科目名	栄養と健康	科目名 (英文)	Nutrition and Health
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山田 徳広
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1065a0		

授業概要・目的	巷には食と健康に関する情報があふれているが、その情報が正しかどうかを判断する事は難しい。栄養とは何か、カロリーとは何かに始まり、食生活に影響する諸因子、食生活と病気との関係、各栄養素の特徴と過不足の害、各食品群の栄養、食物アレルギーへと講義を展開して行く。後半は健康になるためには栄養と運動と休養 (ストレス発散) が三本柱であることを学ぶとともに、栄養と健康に関する質問に答える。
到達目標	栄養と健康に関する基本的知識を修得し、健康に生きるためのスキルを身につける。
授業方法と留意点	スライドを中心に講義形式で授業を進める。適宜プリントも配布し、DVDを視聴してその内容に関する考えをまとめる課題もある。第15回ではアンケートを取り、身近な食と健康に関する疑問についてこたえる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	偏食の恐ろしさ②	DVD 視聴学習：スーパーサイズミー (後半)	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
3	栄養と食事について	栄養とは何か？カロリーとは何か？食事に影響する諸因子について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
4	食生活と病気について	糖尿病を中心に、食生活と病気との関係を説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
5	糖質、脂質、たんぱく質について	糖質、脂質、たんぱく質とは何かを説明し、その働きと過不足の害について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
6	ビタミンとミネラルについて	ビタミン、ミネラルとは何かを説明し、その働きと過不足の害について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
7	食物繊維やポリフェノールなどの機能性成分について	食物繊維やポリフェノールなどの機能性成分とは何かを説明し、その働きと過不足の害について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
8	食品の分類と穀類、イモ類	食品の分類を説明すると共に、穀類とイモ類の栄養について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
9	肉類と乳類	肉類、乳類の栄養について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
10	魚介類	魚の栄養について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
11	野菜と果物	野菜と果物の栄養について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
12	食物アレルギーについて①	食物アレルギーを理解するための免疫の基礎を説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
13	食物アレルギーについて②	各種食物アレルギーと対応方法について説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
14	食事と運動と休養と健康について	健康は食事と運動と休養の3つの柱であることを説明する。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。
15	質問に答えます	学生からの質問に答える。	次の授業までに行うべき予習・復習について指示する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1) DVD鑑賞のレポート、小テストおよび定期試験で評価する。 2) レポート(10%)、小テスト3回(45%)および定期試験(45%)で評価し、60%以上で合格とする。 ※皆さんの学習状況によって変更する場合があります。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	栄養とスポーツ	科目名 (英文)	Nutrition and Sports
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1064a0		

授業概要・目的	専門分野で学修した知識・技能を、人々の生活の質向上や健康社会の実現へと展開するために、栄養・スポーツ分野におけるエビデンスに基づいた情報を理解する。具体的には、健康の維持・増進のための栄養・スポーツの基礎知識、運動不足や栄養の過剰・不足がもたらす身体への影響、栄養摂取や運動トレーニングによる生体の適応およびそのメカニズムを理解する。さらに身体のみならずこころの健康のために望ましい運動や栄養、運動トレーニング法について理解し、さまざまなライフステージにおける心身の健康を維持・増進するための総合的学修を行う。
到達目標	① 運動不足や栄養不足・過剰が身体へ及ぼす影響について説明できる。 ② 栄養素の生理作用について説明できる。 ③ 食事内容や方法、一過性の運動による生体の応答、運動トレーニングによる生理的適応についてメカニズムを概説できる。 ④ 各ライフステージにおける望ましい栄養摂取と運動方法を理解し、説明することができる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に基づき、授業を展開する。教員による解説講義に加えて、学生が学習した内容について討論および発表を行う。教科書は用いず、適宜資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	栄養生理	ガイドランス 栄養が身体の諸機能へ及ぼす影響について説明する。 その後、グループワーク・理解度確認テストを行う。	【事後学習】 授業内容のまとめ
2	健康づくりのための運動	身体活動基準と身体活動指針について策定の経緯と内容について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
3	身体のリズム	身体諸機能の日内リズム・月内リズムについて説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
4	運動と食事のタイミング	トレーニング効果を上げるために望ましい食事摂取のタイミングについて説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
5	エネルギー産生と消費	身体活動におけるエネルギー産生と代謝の仕組みについて説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
6	運動と三大栄養素	運動時における三大栄養素の役割について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
7	運動と微量栄養素	運動時における微量栄養素の役割について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
8	ウェイトコントロールと食事	エネルギー収支バランス、ウェイトコントロールに適した運動方法・食事内容について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
9	スポーツ選手における栄養管理	スポーツ選手におけるトレーニング期・試合期・回復期の栄養内容とその管理について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
10	運動種目別の栄養管理	持久的運動・瞬発的運動・球技系運動など運動種目に分け、望ましい栄養管理について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
11	ジュニア期のスポーツ・運動と栄養	ジュニア期における運動と食事の役割、ジュニアスポーツと栄養について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
12	シニア期のスポーツ・運動と栄養	シニアスポーツと栄養について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
13	ロコモティブシンドローム、フレイルと運動・栄養	高齢期における運動と栄養の役割について説明する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ	
14	食事バランスガイド	食事バランスガイドの説明とその応用	【事前学習】 事前課題を行い、提出	

			について解説する。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事後学習】 授業内容のまとめ
	15	サプリメントとドーピング	サプリメントの種類と有効性、適切な摂取方法、さらにドーピングに関する説明を行う。 その後、グループワーク・プレゼンテーション・理解度確認テストを行う。	【事前学習】 事前課題を行い、提出 【事後学習】 授業内容のまとめ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題 (30%)</li> <li>・授業時間内の成果物 (30%)</li> <li>・小テスト (40%)</li> </ul> 合計 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	本科目は、皆さんが社会で活躍するための根幹にある健康の維持・増進のために必要な知識を学びます。 授業にはグループワークやプレゼンテーションなどを取り入れます。事前学習や授業時間内にインプットした知識をアウトプットし、学友との対話を通して理解を深めてほしいと考えています。 なお事前課題など提出物は、必ず期限までに提出してください。期限を遅れた提出は一切認めません（やむをえない理由がある場合は、教員へ申し出てください）。			
担当者の 研究室等 備考	8 号館 3 階 教員室 323			

科目名	旬の食材と薬膳	科目名 (英文)	Seasonal Foods and Meal Mixed with Chinese Medicine
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1063a0		

授業概要・目的	近年、少子高齢化や医療の高度化による医療費の増加は、国民健康保険制度などの医療保険体制の見直しや、国民一人ひとりが健康増進を図り、国民保健の向上することを目的とした健康増進法の施行にまで至っている。このような健康志向の状況下、健康維持や増進のための食事として、薬膳や漢方などの基礎にある中医学的捉え方を含めて、ヒトの体質、季節などに対応した健康を維持する食生活として注目されている。本講義では、身近な薬草および食薬の種類、効果、効能について中医学的捉え方を学修したうえで、薬膳や漢方方剤の知識を修得する。
到達目標	1) 中医学の基礎的な知識を身につける。 2) 五行説の基本的な考え方を説明できる。 3) 薬膳の基礎的な知識を身につける。 4) 旬の食材の五性と五味の捉え方を説明できる。
授業方法と留意点	本授業では受講者の主体的学びを通して、中医学的な捉え方を学び、旬の食材と薬膳の基礎知識、旬の食材の特性などを学修する。  具体的には、事前学習で、講義箇所の教科書の調べ学習をする。当日、講義前に理解度確認テスト1 (moodle) を行う。 当日の講義後、講義内容に関する理解度テスト2 (moodle) を行い、知識を身につける。  事後学習では、期日内に授業についてのふりかえりレポートを moodle に提出する。 第14回及び第15回でポスター作成・発表およびピア評価をします。  よって、この授
科目学習の効果 (資格)	農作物、食肉、乳製品、魚介類などの食材や、薬草、ハーブ類などの五性・五味などを知ることで、旬の食材を中医学的な捉え方で薬膳レシピ作成などの応用力が修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・「薬膳」ってなに？	・ガイダンス、薬膳ってなに？ ・薬膳の歴史 ・理解度確認テスト I 及び II の実施 (moodle)	・事前学習：教科書 (教) p74~77 を 閲読 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出 (moodle)
2	第一章 ・「中医学」、「漢方」を知る ・「陰」と「陽」を知る	・「中医学」、「漢方」を知る ・「陰」と「陽」を知る ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p8~11 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
3	・「五行説」の考え方	・自然を構成する 5 つの元素「五行説」 の考え方を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p12~15 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
4	・「証」について ・「八綱弁証」について	・個々の体質を知るものさし「証」及び 証を導き出すための 診断法「八綱弁証」を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p16~19 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
5	・気血水 (津) 弁証について	・不調の原因を探る「気血水 (津) 弁証」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p20~29 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
6	第三章薬膳入門 ・食材を知る「五性」 ・味を知る「五味」	・食材を知る「五性」、味を知る「五味」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p78~81 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
7	・「五味」と五臓六腑の組み 合わせ「帰経」	・食材を知る「五性」、味を知る「五味」 を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p82~85 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
8	・春と夏の養生法	教科書の五性別よく食べる食材などの 特性を用いた養生法の学習 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p86~105 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
9	・秋と冬の養生法	・教科書の五性別よく食べる食材などの 特性を用いた養生法の学習 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p86~105 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
10	・冷え性・便秘に良い薬膳を 中医学的視点から捉える	・今まで学習した食材の五性などを参考 に、冷え性・便秘に良い薬膳を中医学的 視点から捉える ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
11	・美肌に良い薬膳メニューの 特徴を中医学的視点から捉 える	・肌は五臓の働き・感情の変動・季節・ 飲食などに深く関わっていることを学 ぶ。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：提供される資料を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
12	第二章漢方入門 ・漢方は漢方薬だけじゃない ・漢方の歴史と現在 ・漢方の使い方 Q&A	・漢方は漢方薬だけじゃない ・漢方の歴史と現在を学ぶ ・漢方の使い方 Q&A を学ぶ ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p34~41 を閲読。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
13	・こんな人には漢方薬を (タ イプ別) ・風邪の症状別の漢方方剤な ど ・薬膳に関するポスター作成 について (ガイダンス・グ ループ分け)	・漢方薬を必要とする人のタイプと方剤 を学ぶ。 ・薬膳に関するポスター作成のガイダ ンスとグループ分けをおこなう。 ・理解度確認テスト I 及び II の実施	・事前学習：教 p56~72 を閲読.. ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
14	薬膳に関するポスター作成 (グループワーク)	授業から学んだ旬の食材がどのような 効能を発揮するのかを薬膳レシピも 踏まえて発表する。	・事前学習：グループまとめるテーマ (選考理由も 含めて) 提出。 ・事後学習：ふりかえりレポートの提出
15	発表会 (グループワーク)	各グループでの発表及び他のグループ	・事前学習：ポスター作成。

			をピア評価し、最も優れたポスターを選出する。	・事後学習：ふりかえり最終レポートの提出
関連科目	薬理学、調理学、食品加工学、食品学など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	漢方と薬膳の基礎知識	松田久司	淡交社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東方栄養新書	梁 晨千鶴	ISBN978-4-901767-18-7
	2			
	3			
評価方法 (基準)	理解度確認テストⅠ (15%)、理解度確認テストⅡ (15%)、ふりかえりシート (20%)、ポスター作成 (20%)、ポスター評価表 (10%)、ふりかえり最終レポート (20%) これらの評価の合計が60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	薬膳で取り扱う食材や薬草には、皆さんが普段食事で食しているものが多くあります。薬膳の知識を身につけることは、皆さんの健康維持に貢献すると思います。			
担当者の 研究室等	農学部食品栄養学科 研究室225			
備考				

科目名	食品の安全性	科目名 (英文)	Food Safety
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平原 嘉視
ディプロマポリシー (DP)	DP3〇		
科目ナンバリング	OAE1062a0		

授業概要・目的	食品は、貴重な栄養源でありヒトが生きていく上で欠かせないものである。食品の安全性を脅かす原因となる有害微生物や有害物質について学ぶ。また、輸入食品など日常的に食べている食品を例にして健康に悪影響を及ぼさないレベルにどのように安全性が評価・管理されているのかについて学ぶ。食品のリスクとベネフィットを踏まえて「食品のリスクを正しく恐れて貴重な食品を無駄にしない」考え方について考え、リスクコミュニケーションについて理解し食品の「安心」がどのように得られるのかを理解する。さらに、いわゆる健康食品と医薬品とを見分けるための標ぼうや安全性の違いについて学ぶ。
到達目標	① リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションに基づいて食品の安全性がどのように守られているのかを説明することができる。 ② ヒトの健康に悪影響を及ぼす食品中の有害微生物、有害物質について説明することができる。 ③ 医薬品と食品の見分け方、リスクの違いについて説明できる。 ④ 食品のリスクのバランスを考慮して食品の安全性を説明することができる。
授業方法と留意点	本講義は、対面授業方式により食品の安全性の基礎知識を深める。具体的には、授業ごとの到達目標を決め、教師が概説したのちそれに沿った簡単な演習問題を受講者各自で解き、その後、解答の解説を行う。また、グループで討議し、学生自らが食品の安全性を守るための解決策を見出す。講義後にはその日の内容の小テストや感想などをレポートとしてまとめて決められた日時までに提出する。その他、必要に応じて追加の課題を課し、その提出も授業出席の根拠として含める。
科目学習の 効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	食品の定義 食品のリスク①	食品の定義、食品のリスク、過去における食品による健康被害例を学ぶ。	事前：教科書の第1回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第1回の小テストを行う。	
2	食品のリスク②	リスク分析 (リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション) の概要について学ぶ。	事前：教科書の第2回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第2回の小テストを行う。	
3	食品のリスク③	リスク評価 (一生涯食べ続けても健康への悪影響がないとされる量：ADIの設定方法)、リスク管理、リスクコミュニケーションの具体例について学ぶ。	事前：教科書の第3回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第3回の小テストを行う。	
4	食品のリスク④ 食品の変質及びその防止法	食品による健康被害の実例や対応、食品の変質及びその防止法について学ぶ。	事前：教科書の第4回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第4回の小テストを行う。	
5	食品の安全対策①	食中毒の発生要因、食中毒予防3原則について学ぶ。	事前：教科書の第5回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第5回の小テストを行う。	
6	食品の安全対策②	食中毒の安全対策、食中毒予防3原則、食中毒の原因となる微生物のしくみについて学ぶ。	事前：教科書の第6回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第6回の小テストを行う。	
7	危害要因① 食中毒 (発生状況、細菌性、ウイルス性)	食中毒の発生状況、細菌及びウイルスによる食中毒の原因となる食品、予防法などについて学ぶ。	事前：教科書の第7回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第7回の小テストを行う。	
8	危害要因② 食中毒 (毒素型、ウイルス性食中毒、自然毒、動物・植物性食中毒)	毒素型食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、動物性食中毒 (ふぐ毒、貝毒)、植物性食中毒 (キノコ毒) などについて学ぶ。	事前：教科書の第8回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第8回の小テストを行う。	
9	危害要因③ 食品媒介感染症	経口 (消化器系) 感染症、食品や水を介して感染する寄生虫症、動物由来感染症 (牛海綿状脳症) について学ぶ。	事前：教科書の第9回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第9回の小テストを行う。	
10	危害要因④ 有害物質による食品汚染	マイコトキシン (カビ毒)、難燃性化学物質 (ダイオキシン、PCB)、有害金属 (鉛、カドミウム)、放射性物質など食品汚染物質について学ぶ。	事前：教科書の第10回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第10回の小テストを行う。	
11	危害要因⑤ 食品添加物	農薬、動物用医薬品、アレルゲン、異物、遺伝子組換え食品、ゲノム編集食品、食品添加物について学ぶ。	事前：教科書の第11回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第11回の小テストを行う。	
12	食品器具・容器包装、洗浄剤、乳幼児用玩具	食品の器具・容器包装、洗浄剤、乳幼児用玩具の種類、安全性について学ぶ。	事前：教科書の第12回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第12回の小テストを行う。	
13	食品表示①	食品表示法の概要、衛生事項及び品質事項に関する食品表示基準について学ぶ。	事前：教科書の第13回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第13回の小テストを行う。	
14	食品表示② 食薬区分、衛生管理	健康や栄養に関する表示、HACCPを取り入れた国際規格など農場から食卓に至る食品の安全管理について学ぶ。また、食薬区分に基づく食品と医薬品を見分けるための成分・標ぼうや安全性の違いについて学ぶ。	事前：教科書の第14回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第14回の小テストを行う。	
15	リスクコミュニケーション、 リスクのバランス	リスクコミュニケーション、食品のリスクとベネフィットのバランスについて学ぶ。	事前：教科書の第15回の内容に関わる箇所を読んでおく 事後：第15回の小テストを行う。	

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	食べ物と健康 -食品衛生学- 第2版	白尾美佳等	光生館
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栄養管理と生命科学シリーズ食品衛生学	後藤正幸、熊田薫、熊谷優子等	図工図書
	2	食品安全の事典	日本食品衛生学会編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	各講義の学習確認小テスト (20%)、グループ内での討論内容(20%)、振り返りシート (10%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業は自らが主体的に学ぶ科目ですので、事前・事後学修、小テストなどを通して、わからないところを解決して進んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス農学部 教員室320			
備考				

科目名	食品学入門	科目名 (英文)	Introduction to Food Science
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉井 英文
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1061a0		

授業概要・目的	食品学入門は、食品の一般的特質、その食品の栄養的価値並びに保存性を高めるためにどのような加工がなされているか、食品の栄養成分の構造、性質を学ぶものである。本講義では、食品の1次機能(食品成分の化学)、2次機能(嗜好成分の化学)、および3次機能(食品の生理機能性)について学ぶとともに、食品の加工法、貯蔵法を学習する。本講義と一般化学や生化学を並行に学ぶことにより、食品加工手法と食品の一般的知識を身につけることを目的とする。																																																																		
到達目標	① 食品科学の基礎的知識を習得し、食品の天然素材としての特質と加工品の特質を総合的に理解する。 ② 食品加工の手法や物理的、化学的特質などの基礎を養う。 ③ 食品成分の代謝、食品の機能について説明できる																																																																		
授業方法と留意点	講義を、プリントを用いて、食品の基礎、食品加工の基礎原理について講義する。各講義中課題を与える。受講者のグループ分けを行い、グループで一つの課題についてのレポートを作成しプレゼンを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>食生活と健康</td><td>食生活と健康管理</td><td>食習慣と健康について</td></tr> <tr><td>2</td><td>食糧と環境問題</td><td>食品の包装、特質と環境問題</td><td>食品の容器について</td></tr> <tr><td>3</td><td>食品の1次機能</td><td>栄養とは、サプリメントについて</td><td>食品の化学成分</td></tr> <tr><td>4</td><td>炭水化物</td><td>米、パン、糖</td><td>糖の化学構造</td></tr> <tr><td>5</td><td>脂質</td><td>油、脂質の重要性</td><td>脂質の構造</td></tr> <tr><td>6</td><td>蛋白質</td><td>蛋白質、ペプチ</td><td>蛋白質の変性</td></tr> <tr><td>7</td><td>食品の2次機能</td><td>嗜好成分の化学</td><td>おいしさとは</td></tr> <tr><td>8</td><td>食品中の水</td><td>水分活性</td><td>食品劣化について</td></tr> <tr><td>9</td><td>食品の色、におい</td><td>色素成分、フレーバー</td><td>フレーバー</td></tr> <tr><td>10</td><td>食品の3次機能</td><td>食品の代謝</td><td>食品の化学的変化</td></tr> <tr><td>11</td><td>油脂、調味料</td><td>食用油脂の分類、油脂の改変、調味料</td><td>甘味料、香辛料</td></tr> <tr><td>12</td><td>食品の物理的特質</td><td>食品の硬さ、柔らかさ</td><td>高齢化時代の食品</td></tr> <tr><td>13</td><td>乳化</td><td>食品の加工と化粧品加工</td><td>エマルジョン</td></tr> <tr><td>14</td><td>食品の化学的特質</td><td>機能性成分について</td><td>未来の食品産業</td></tr> <tr><td>15</td><td>食品の特質</td><td>食品にかかわる産業</td><td>食品科学</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	食生活と健康	食生活と健康管理	食習慣と健康について	2	食糧と環境問題	食品の包装、特質と環境問題	食品の容器について	3	食品の1次機能	栄養とは、サプリメントについて	食品の化学成分	4	炭水化物	米、パン、糖	糖の化学構造	5	脂質	油、脂質の重要性	脂質の構造	6	蛋白質	蛋白質、ペプチ	蛋白質の変性	7	食品の2次機能	嗜好成分の化学	おいしさとは	8	食品中の水	水分活性	食品劣化について	9	食品の色、におい	色素成分、フレーバー	フレーバー	10	食品の3次機能	食品の代謝	食品の化学的変化	11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料	12	食品の物理的特質	食品の硬さ、柔らかさ	高齢化時代の食品	13	乳化	食品の加工と化粧品加工	エマルジョン	14	食品の化学的特質	機能性成分について	未来の食品産業	15	食品の特質	食品にかかわる産業	食品科学
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	食生活と健康	食生活と健康管理	食習慣と健康について																																																																
2	食糧と環境問題	食品の包装、特質と環境問題	食品の容器について																																																																
3	食品の1次機能	栄養とは、サプリメントについて	食品の化学成分																																																																
4	炭水化物	米、パン、糖	糖の化学構造																																																																
5	脂質	油、脂質の重要性	脂質の構造																																																																
6	蛋白質	蛋白質、ペプチ	蛋白質の変性																																																																
7	食品の2次機能	嗜好成分の化学	おいしさとは																																																																
8	食品中の水	水分活性	食品劣化について																																																																
9	食品の色、におい	色素成分、フレーバー	フレーバー																																																																
10	食品の3次機能	食品の代謝	食品の化学的変化																																																																
11	油脂、調味料	食用油脂の分類、油脂の改変、調味料	甘味料、香辛料																																																																
12	食品の物理的特質	食品の硬さ、柔らかさ	高齢化時代の食品																																																																
13	乳化	食品の加工と化粧品加工	エマルジョン																																																																
14	食品の化学的特質	機能性成分について	未来の食品産業																																																																
15	食品の特質	食品にかかわる産業	食品科学																																																																
関連科目	生物、化学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>食品学 I, II</td><td>佐藤薫、中嶋肇編</td><td>化学同人</td></tr> <tr><td>2</td><td>食品学各論</td><td>津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修</td><td>中山書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>新しい食品加工学</td><td>小川正、的場輝佳</td><td>南江堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品学 I, II	佐藤薫、中嶋肇編	化学同人	2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店	3	新しい食品加工学	小川正、的場輝佳	南江堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品学 I, II	佐藤薫、中嶋肇編	化学同人																																																																
2	食品学各論	津田謹輔、伏木亨、本田佳子監修	中山書店																																																																
3	新しい食品加工学	小川正、的場輝佳	南江堂																																																																
評価方法 (基準)	3-4回の講義後に与えられた課題のレポート、およびグループ別のレポート結果、講義後提出する課題によって評価する。レポートの提出は、個人とグループの2種類とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等備考	農学部8号館3F 教員室(322)																																																																		

科目名	海洋生物とくらし	科目名 (英文)	Marine Organisms and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1060a0		

授業概要・目的	海洋は地球の表面積の約7割を占め、更に深海など人類にとって未踏の領域も含むフロンティアである。このように広大かつ深遠な領域に住む海洋生物は独自の世界を形成し、直接的或いは間接的に我々の暮らしと関わっている。「海洋生物とくらし」では、水圏の成り立ちから海洋生物の分類、生理、生態について概説し、特に我々の暮らしとの関わりが深い「魚介類」に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	海洋生物について、それを取り巻く環境、生態系から我々の食卓を彩る水産物としての側面について幅広く学び、理解すること。 海洋生物を含む、生物の分類の基礎について理解する。 身近な食品である水産物について、その分類上の位置と姿、形、味を結びつける。
授業方法と留意点	授業方法は、主としてパワーポイント、板書を用いる。海洋生物にまつわる興味深い事柄を紹介しつつ、日本人の食卓に欠かせない水産物についてその背景を含めた理解を深める。本講義は海洋、水圏の生物学に関する入門講座であるとの位置づけから、各回の講義内容を暗記することは求めない。ただし、授業の開始時に、受講者数名にその回のテーマについて受講前の印象を発表してもらう。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	水圏の成り立ち	水圏の形成とその変遷、現在の分布、我々の生活と水生生物	どんなことでも良いので、自分と水の生き物に関わる思い出、印象を整理する。
2	海洋の元素、化学物質	水圏の化学的背景。どのような元素がどのくらい存在するか。「塩」を考える。	事前：海の元素、塩に対する印象をプレゼン
3	水圏の物質循環	窒素、リン、その他の無機質に着目した海洋での物質循環と一次生産	環境とリン、窒素化合物について
4	海洋生物の基礎	水圏に棲む生物の概要と進化、分類。陸上生物との関係	好きな魚介類について考え、その分類上の位置について調べる。
5	水圏生物の分類	水圏生物の分類、市場の魚の素性を知る。明石魚の棚市場、黒門市場に見る季節の魚、貝、など	季節と魚介類に関する印象、好きな旬の魚介類は？
6	水圏の生態	水圏生物の生態系、物質循環との関わり。	講義内容に関する所感、印象の発表
7	水圏の生物資源	日本と世界の漁業生産、日本と世界のお魚事情について。	講義内容に関する所感、印象の発表
8	水産資源	日本と世界の水産資源、その分布と変動	講義内容に関する所感、印象の発表
9	食品としての水産物	日本と世界の水産物と食卓。水産食品色々。	講義内容に関する所感、印象の発表
10	水産食品の化学的背景	水産物の化学的背景とその利用。水産食品の今昔。	講義内容に関する所感、印象の発表
11	水産食品の味、匂い、色をもたらす成分	五感で感じる水産物。水産物の味、匂い、色について。	講義内容に関する所感、印象の発表
12	水産食品の主な成分	水産食品の成分。タンパク質、脂質、ビタミン、無機質など。	講義内容に関する所感、印象の発表
13	水産食品の加工と保存	水産物の加工・食品の劣化、食中毒	講義内容に関する所感、印象の発表
14	水圏生物由来の化学物質	水圏生物由来の化学物質・生理活性物質。毒と薬と	講義内容に関する所感、印象の発表
15	水圏生物と社会の関わり	まとめ。日本と世界の水産業が抱える諸問題と将来。	講義内容に関する所感、印象の発表

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	水圏生物科学入門	会田勝美	恒星社厚生閣
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 (レポート) 60%、出席 (発表) 40% とする。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	微生物とくらし	科目名 (英文)	Microorganisms and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1059a0		

授業概要・目的  
農学部の応用生物科学科以外に所属する学生に対して、有用微生物およびその利用に関して講義を行う。微生物には「バイ菌」という言葉に代表されるように、ネガティブなイメージがあるが、本講義では人類に役立つ微生物バイオテクノロジーについて広く述べる。具体的には、1)各種発酵食品製造における微生物の役割、2)有用物質生産の実例として微生物を用いたアミノ酸、核酸等の発酵生産および、抗生物質の発酵生産について、3)ニューバイオテクノロジーによる微生物機能の有効利用の事例として、遺伝子工学の利用によるタンパク質の生産、代謝工学等について、4)環境修復のためのバイオテクノロジーについて、などである。また、それらを自らが展開していくために必要な考え方、今後の発展の方向などについて講義する。

到達目標  
① 人間が利用する微生物の種類について、理解して概説できる。  
② 微生物を利用するための代謝に関する知識、微生物の育種の方法について理解し、概説できる。  
③ 各種発酵食品製造における微生物の役割について、理解し、概説できる。  
④ 代謝制御発酵によるアミノ酸、核酸等の発酵生産に関する理論と工業化の実際について、理解し、概説できる。  
⑤ 腸内フローラ、プレバイオティクスについて理解し、概説できる。  
⑥ 我々が微生物をどのように生活の中で利用しているのか、説明する際に修得内容を活用できる。

授業方法と留意点  
パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画視聴を行う場合がある。各講義後に、その日に講義した内容に関する小テストを実施する。また、応用微生物学に関わる実務に携わる外部の専門家にゲストスピーカーをお願いする場合がある。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微生物とくらし	イントロダクション、微生物の種類、応用微生物学の歴史	事後:小テストの復習
2	細菌とその利用	くらしに役立つ細菌類について	事後:小テストの復習
3	真菌とその利用	くらしに役立つ真菌類 (酵母、カビ) について	事後:小テストの復習
4	微生物の利用	微生物による物質生産の概説。発酵、酵素などの概念	事後:小テストの復習
5	微生物の代謝 I	微生物の同化と異化。デンプンからアルコールなど	事後:小テストの復習
6	微生物の代謝 II	微生物によるアミノ酸、核酸の生合成、物質生産との関連	事後:小テストの復習
7	発酵食品 I	食品製造に役立つ微生物その1. 酒、味噌、しょう油など	事後:小テストの復習
8	発酵食品 II	食品製造に役立つ微生物その2. 納豆、食品添加用酵素など	事後:小テストの復習
9	微生物の改良 I	古典的手法による微生物の品種改良。突然変異誘発法など	事後:小テストの復習
10	微生物の改良 II	遺伝子組換え法による微生物の品種改良	事後:小テストの復習
11	発酵生産 I	アミノ酸、核酸の発酵生産。代謝制御発酵など	事後:小テストの復習
12	発酵生産 II	抗生物質、遺伝子組換えタンパク質など	事後:小テストの復習
13	健康と微生物	プレバイオティクス、プロバイオティクスなど	事後:小テストの復習
14	農業と微生物	微生物農薬、植物共生菌など	事後:小テストの復習
15	低炭素社会と微生物	バイオエタノール、バイオプラスチックなど	事後:小テストの復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎生物学テキストシリーズ4 微生物学	青木健次	化学同人
2	バイオテクノロジーの教科書上	ラインハート・レンネバーグ	講談社
3	バイオテクノロジーの教科書下	ラインハート・レンネバーグ	講談社

評価方法 (基準)  
授業中の毎回の学修確認小テスト (20%、15回を各講義の最後に実施。Forms などを利用)、授業終了後レポート課題 (20%)、定期試験 (60%) で評価し、合計 60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ  
応用微生物学は微生物の機能を人に役立たせるための学問です。微生物の利用は古代から行われており、人間の生活と密接に関連しています。高校までの生物では「微生物は病気を引き起こす」「微生物は生態系では分解者」というイメージが強いですが、応用微生物学で微生物に対する新しい見方を修得して欲しいと思います。

担当者の研究室等  
応用生物科学科応用微生物学研究室 (8号館3階307教員室)

備考

科目名	動物とくらし	科目名 (英文)	Animals and Human Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1058a0		

授業概要・目的	我々のくらしは様々な動物と関係して成り立っている。例えば、日々の食事は家畜や家禽などの産業動物によって支えられており、犬や猫などのペット（コンパニオン・アニマル）は日々の安寧な暮らしの重要なサポート役となっている。「動物とくらし」では、我々のくらしに、産業動物やコンパニオン・アニマルがどのように関わっているのかを学ぶとともに、それぞれの動物の生態や生理について説明し、くらしで関わる動物に関する基本的な知識を身につける。
到達目標	① 産業動物とコンパニオン・アニマルの違いを概説できる。 ② 産業動物とコンパニオン・アニマルの暮らしとの関わり方を概説できる。 ③ 動物種毎の食性や消化管の違いを理解することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、獣医師などの外部講師による講義を取り入れ理解を深める。また、各講義後に、その日の講義内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ヒトのくらしと動物	くらしに関わる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	産業動物について（ウシ）	産業動物であるウシの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
3	産業動物について（ブタ）	産業動物であるブタの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
4	産業動物について（ニワトリ）	産業動物であるニワトリの生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
5	家畜伝染病について	日本、世界の家畜伝染病について	事前：事前学習課題の学習
6	コンパニオン・アニマルについて（定義）	コンパニオン・アニマルの定義とコンパニオン・アニマルに含まれる動物について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
7	コンパニオン・アニマルについて（動物種の特徴）	コンパニオン・アニマルに含まれる動物のうち、特にメジャーな動物の生態や生理について	事前：事前学習課題の学習
8	くらしと動物のいま	くらしの中の産業動物、またはコンパニオン・アニマルの現状について（可能な限り外部講師を招聘予定）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
9	動物の食性	動物の食性の違いについて	事前：事前学習課題の学習
10	食性と消化管の構造	食性の違いと消化管構造の関連性について	事前：事前学習課題の学習
11	食性と栄養吸収	食性の違いと栄養吸収方法の違いについて（腸内細菌について）	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
12	動物における免疫の基本	動物の免疫に関する基礎	事前：事前学習課題の学習
13	動物種の違い免疫	動物種毎に異なる免疫の特徴について	事前：事前学習課題の学習
14	異種移植について	異種動物間（産業動物→ヒト）の移植について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
15	動物福祉について	動物の福祉について	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	各授業の事前学習課題（10%）、授業中の講義の学習確認小テスト（20%）、事後課題（10%）、定期試験（60%）で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等備考	

科目名	生物の多様性と進化	科目名 (英文)	Biodiversity and Evolution
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一、井上 亮、谷村 文、和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1057a0		

**授業概要・目的**  
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農学、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
  - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
  - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
  - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
  - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
  - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
  - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

**授業方法と留意点**  
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

**科目学習の効果 (資格)**  
教員：教科及び教科の指導法に関する科目 (理科・中高)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から真核生物の出現まで (担当: 小保方 潤一)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物と生活史	陸上植物の主な系統と生活史など (担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習
4	植物の環境適応と進化	陸上植物の環境への適応と多様化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 谷村 文)	事前: 事前学習課題の学習

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、最終試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

**学生への**

メッセージ	
担当者の研究室等	ゲノム生物学研究室（小保方）、応用微生物学研究室（和田）、動物機能科学研究室（井上）、
備考	

科目名	ゲノムと生命	科目名 (英文)	Genome and Life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1056a0		

授業概要・目的	ゲノムとは何か？この問いに対する答えは一つではない。実は、ゲノムの定義は時代とともに何度も変わってきた。一口にゲノムと言っても、生物種、調べる現象、解析の技術や手法などによって、ゲノムのもつ様々な側面や性質が見えてくる。この講義では、ゲノムの一般的な性質や機能と、生命を操作する「ゲノム科学」の先端技術などを紹介するだけではなく、ゲノムの科学史、風変わりなゲノムを持つ生物、ゲノムに関わるユニークな現象などを紹介しながら、ゲノムとは何かを考え、ゲノム研究がこれからの人々や社会にどのような影響を与えていくのかを、自然観や生命観に対する影響も含めて、考察したい。																																																																		
到達目標	① ゲノムの一般的な定義を理解した上で、ゲノムに対する多面的な見方が出来るようになる。 ② 共生進化をもたらした生物の多様性について、例を挙げて説明することが出来る。 ③ ゲノムの塩基配列を解説することの重要性を、説明することが出来る。 ④ ゲノム編集などのゲノム操作技術が社会に持つ影響力について、説明することが出来る。 ⑤ ゲノムの研究が人々や社会の生命観にどのような影響を与えてきたか、また今後与えるかを、自分の言葉で説明出来る。																																																																		
授業方法と留意点	授業方法は、パワーポイントと板書、プリント資料、を併用して行う。基本的に、高校で生物学を選択しなかった学生でも内容を理解できるように、基礎的な部分から平易に説明するが、理解をより促すため、各回の講義テーマに応じて、事前学修課題やミニレポートの提出を求める。また、授業の冒頭で前回講義した内容に関する復習を行うとともに、後半には学生との質疑応答の時間を設ける。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゲノムとは何か？</td> <td>「昔のゲノム」と「今のゲノム」</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゲノムDNA</td> <td>C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>DNA配列を読む</td> <td>ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゲノムの進化</td> <td>原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>進化はどうやって進むのか</td> <td>突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>共生進化の意外な展開</td> <td>進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える</td> <td>ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>光を食べる動物たち</td> <td>植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>PCR法と環境ゲノム</td> <td>素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>進化の芽を探す</td> <td>進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ゲノム編集の衝撃</td> <td>新しい技術の登場とその波及効果</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ゲノムはゆるく読まれる</td> <td>ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ゲノムは助けあう</td> <td>海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ゲノムは一気に変わる</td> <td>ゲノムの進化速度を考える</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ゲノムの教え、ゲノムの未来</td> <td>ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する</td> <td>事前：事前学修課題の学修</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ゲノムとは何か？	「昔のゲノム」と「今のゲノム」	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出	2	ゲノムDNA	C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動	事後：ミニレポートの提出	3	DNA配列を読む	ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ	事前：事前学修課題の学修	4	ゲノムの進化	原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体	事後：ミニレポートの提出	5	進化はどうやって進むのか	突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム	事後：ミニレポートの提出	6	共生進化の意外な展開	進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、	事後：ミニレポートの提出	7	遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える	ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、	事後：ミニレポートの提出	8	光を食べる動物たち	植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎	事後：ミニレポートの提出	9	PCR法と環境ゲノム	素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた	事後：ミニレポートの提出	10	進化の芽を探す	進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学	事後：ミニレポートの提出	11	ゲノム編集の衝撃	新しい技術の登場とその波及効果	事前：事前学修課題の学修	12	ゲノムはゆるく読まれる	ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方	事後：ミニレポートの提出	13	ゲノムは助けあう	海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム	事前：事前学修課題の学修	14	ゲノムは一気に変わる	ゲノムの進化速度を考える	事後：ミニレポートの提出	15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ゲノムとは何か？	「昔のゲノム」と「今のゲノム」	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出																																																																
2	ゲノムDNA	C値パラドクスと反復配列、利己的DNA、利他行動	事後：ミニレポートの提出																																																																
3	DNA配列を読む	ゲノム解読技術の昔と今、土方仕事から情報科学へ	事前：事前学修課題の学修																																																																
4	ゲノムの進化	原核ゲノムと真核ゲノム、ミトコンドリアと葉緑体	事後：ミニレポートの提出																																																																
5	進化はどうやって進むのか	突然変異と中立進化、個人のゲノムと集団のゲノム	事後：ミニレポートの提出																																																																
6	共生進化の意外な展開	進化系統樹の謎と共生進化、二次共生、新しい系統樹、	事後：ミニレポートの提出																																																																
7	遺伝子を運ぶ、ゲノムを変える	ウイルス、プラスミド、トランスポゾン、	事後：ミニレポートの提出																																																																
8	光を食べる動物たち	植物の光適応、ミドリゾウリムシ、光合成ウミウシの謎	事後：ミニレポートの提出																																																																
9	PCR法と環境ゲノム	素晴らしいアイデアと技術が微生物学や産業を変えた	事後：ミニレポートの提出																																																																
10	進化の芽を探す	進化遺伝学、実験進化学、比較ゲノム学	事後：ミニレポートの提出																																																																
11	ゲノム編集の衝撃	新しい技術の登場とその波及効果	事前：事前学修課題の学修																																																																
12	ゲノムはゆるく読まれる	ゲノムと細胞分化、エピゲノムという新しい考え方	事後：ミニレポートの提出																																																																
13	ゲノムは助けあう	海藻のヒトエグサから見えてきた世界、生態系とゲノム	事前：事前学修課題の学修																																																																
14	ゲノムは一気に変わる	ゲノムの進化速度を考える	事後：ミニレポートの提出																																																																
15	ゲノムの教え、ゲノムの未来	ここまでの講義内容を整理してゲノムの意味を再考する	事前：事前学修課題の学修																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ひらく、ひらく「バイオの世界」</td> <td>日本生物工学会編</td> <td>化学同人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エッセンシャルキャンベル生物学</td> <td>池内、伊藤、菅本 監訳</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人	2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、菅本 監訳	丸善出版	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ひらく、ひらく「バイオの世界」	日本生物工学会編	化学同人																																																																
2	エッセンシャルキャンベル生物学	池内、伊藤、菅本 監訳	丸善出版																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	各授業の事前学修課題 (10%)、授業中の前回講義の学修確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等備考																																																																			

科目名	分子からみた植物の働き	科目名 (英文)	Molecular World of the Plants
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1055a0		

授業概要・目的	人類は、野生植物の役立つ性質を伸ばし、不要な性質を失わせたり変化させることで、野菜や作物を作り出してきた。これを野生植物の栽培化とよぶ。古代の人類はこれを経験的に行ったが、植物分子の知識が蓄積した現代は、望みの性質をもつ植物をデザインすることも可能になりつつある。本講義では、植物の様々な形質や機能に関する分子を紹介し、その働きを平易に解説する。また、植物の最も基本的な機能「光合成」の分子基盤もわかりやすく説明する。農業や食品に関する専門的な学習を始める前に、食糧生産の基盤となる植物の働きに関して分子レベルの知識を得ることを本講義の目的とする。
到達目標	① 植物の環境感知とストレス適応機構を理解する。 ② 植物の形作りの基礎を理解する。 ③ 野菜や作物の栽培化の分子基盤を知る。 ④ 光合成の分子基盤を理解する。
授業方法と留意点	教科書とプリント資料を使い講義を行う。授業に先立って教科書の指定部分を読み、基本事項に関する小テスト (Moodle 利用) を受験すること。また、毎回の授業では、事前に提示する「今週の討議課題」について意見交換する時間を設けるので、積極的に参加すること。講義内容の理解は、毎回の講義の「振り返り」と定期試験で評価する。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>すごい植物</td> <td>動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。</td> <td>事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>植物の光センサー</td> <td>植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>重力を感知するセンサー</td> <td>植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動く植物</td> <td>オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>気孔の戸締り</td> <td>気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>魅力的な花作り</td> <td>植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>光合成</td> <td>光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>光合成とストレス</td> <td>暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>光合成と地球</td> <td>光合成と地球の関係を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>植物の進化</td> <td>植物の起源と進化を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>草を野菜にする</td> <td>人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>農業と植物ホルモン</td> <td>農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>植物の分泌物</td> <td>天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>遺伝子組換え植物の虫退治</td> <td>遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ゲノム編集技術</td> <td>植物をデザインしよう</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	すごい植物	動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認	2	植物の光センサー	植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	3	重力を感知するセンサー	植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	4	動く植物	オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	5	気孔の戸締り	気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	6	魅力的な花作り	植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	7	光合成	光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	8	光合成とストレス	暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	9	光合成と地球	光合成と地球の関係を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	10	植物の進化	植物の起源と進化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	11	草を野菜にする	人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	12	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	13	植物の分泌物	天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	14	遺伝子組換え植物の虫退治	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認	15	ゲノム編集技術	植物をデザインしよう	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	すごい植物	動かない植物がみせる驚異の力を見てみよう。	事前：シラバスの確認 事後：学習課題の確認																																																														
2	植物の光センサー	植物の生活に大切な光環境を感知に働く光センサーについて、役割と働きを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
3	重力を感知するセンサー	植物の重力感知との分子機構を理解する。宇宙での植物の成長についても紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
4	動く植物	オジギソウや食虫植物など、動けない植物の動きについて紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
5	気孔の戸締り	気孔は昼間開き、乾燥すると閉じる。気孔を開け閉めする分子機構を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
6	魅力的な花作り	植物は魅力的な花を作り花粉を運ぶ昆虫を誘引している。花の形作りと色作りの分子基盤を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
7	光合成	光エネルギー変換の秘密 光エネルギーを化学エネルギーに変換する光合成の秘密を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
8	光合成とストレス	暗反応のキー酵素であるルビスコを中心に、ストレスと光合成について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
9	光合成と地球	光合成と地球の関係を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
10	植物の進化	植物の起源と進化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
11	草を野菜にする	人間は野生植物を多彩な作物として利用しやすい形に変えてきた。その過程で変化した重要な遺伝子について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
12	農業と植物ホルモン	農業では、植物ホルモンの力をうまく利用している。その実際を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
13	植物の分泌物	天然ゴムや漆など、人間生活に役立っている樹液の成分と合成機構を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
14	遺伝子組換え植物の虫退治	遺伝子組換え技術を使い、害虫抵抗性の植物を作る技術を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														
15	ゲノム編集技術	植物をデザインしよう	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の確認																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>植物の体の中では何が起きているのか</td> <td>嶋田幸久、萱原正嗣</td> <td>ベレ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	植物の体の中では何が起きているのか	嶋田幸久、萱原正嗣	ベレ出版														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、討議活動 (10%)、定期試験 (50%)
学生へのメッセージ	授業では、植物の面白い話題や、きれいな画像をできるだけたくさん紹介したいと思います。
担当者の	8号館3階教員室 303

研究室等	
備考	

科目名	生きている土壌	科目名 (英文)	Living Soil
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 修司
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1054a0		

授業概要・目的	作物の生産基盤として、土壌の役割は重要である。土壌中には微生物を含めて多くの生物が生息しており、物質循環をはじめとした機能面で役割を担っているほか、土壌自身も外部からの影響により変化しており、まさに土壌は生きているといえる。また、作物などの植物生育と関連していることから、他の生物の生命活動にも影響をおよぼしているほか、周辺環境のかかわりも深い。本講義では、上記の観点から、土壌自身の生物性、特性の変化、作物生育や周辺環境とのかかわりなど、幅広い観点から土壌の役割について講義する。																																																																		
到達目標	① 作物の生産基盤としての土壌の重要性を概説できる。 ② 土壌の生物性について概説できる。 ③ 土壌も人為的な管理や環境の変化により変化することを概説できる。 ④ 土壌と作物生育や周辺環境とのかかわりについて概説できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、DVDなどによる映像の上映や、プリントを配布し理解を深める。また原則毎回、事前学習として次回の講義内容に関するミニレポートの提出を求めるほか、事後学習の効果を高めるために前回講義した内容に関する振り返りシートの記入を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産基盤としての土壌</td> <td>講義の目的、生態系での土壌の役割など</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>土壌の生物性</td> <td>土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>土壌微生物</td> <td>土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>土壌動物</td> <td>土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>土壌病害</td> <td>土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>土壌生成</td> <td>土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>土壌劣化</td> <td>土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人為と土壌</td> <td>人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>土づくり</td> <td>土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>土壌と植物生育</td> <td>植物生育における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>土壌と食糧生産</td> <td>食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>有機農業</td> <td>有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>土壌と地域環境</td> <td>地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>土壌と地球環境</td> <td>地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最新の事例紹介</td> <td>講義に関連した最新の研究事例、実践例など</td> <td>事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入	2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入	15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	生産基盤としての土壌	講義の目的、生態系での土壌の役割など	事前：シラバスの理解 事後：振り返りシートの記入																																																																
2	土壌の生物性	土壌の生物性・化学性・物理性、生物性の位置付けなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
3	土壌微生物	土壌の微生物の種類、微生物の評価法、多様性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
4	土壌動物	土壌動物の種類、土壌中での生態系、土壌中の害虫など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
5	土壌病害	土壌病害の種類、土壌病害発生のメカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
6	土壌生成	土壌生成因子、気候による土壌の変化、メカニズムなど	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
7	土壌劣化	土壌劣化の種類、劣化のメカニズム、修復の実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
8	人為と土壌	人為による土壌の変化、農耕地土壌や造成土の特性など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
9	土づくり	土づくり資材、有機物による土づくり、土づくり実例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
10	土壌と植物生育	植物生育における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
11	土壌と食糧生産	食糧生産における土壌の役割、土壌とヒトの健康との関係など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
12	有機農業	有機農業、有機農業における土壌中の物質動態など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
13	土壌と地域環境	地域環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
14	土壌と地球環境	地球環境と土壌との関係、環境負荷低減における土壌の役割など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
15	最新の事例紹介	講義に関連した最新の研究事例、実践例など	事前：ミニレポートの提出 事後：振り返りシートの記入																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 土壌学の基礎</td> <td>松中照夫</td> <td>農文協</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新版 土壌学の基礎	松中照夫	農文協																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	ミニレポート (25%)、振り返りシート (25%)、定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	農業生産だけでなく環境面でも基盤となる土壌について、普段じっくりと目を向ける機会がないと思いますが、この講義を通じて土壌そのものへの理解のみならず農業生産性や周辺環境そして人の暮らしとのかかわりについても理解が深まることを目指します。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	作物とエネルギー生産	科目名 (英文)	Crops and Energy Production
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川崎 通夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1053a0		

授業概要・目的	作物は、人類が利用するエネルギーの重要な供給源の一つとなっている。「作物とエネルギー生産」では、(1)バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状および課題、(2)エネルギー作物における種類、生態・形態・生理的形質、栽培および利用、(3)バイオ燃料の種類、製造法および利用などについて概説する。作物とエネルギー生産との係わり合いやエネルギー作物に関する現状、重要性と課題を理解し、それらを説明する上で必要な基礎知識を身につける。
到達目標	①作物と人類が利用するエネルギーとの関係性を理解する。 ②バイオマスエネルギーにおける生産と利用の現状について説明できる。 ③主要なエネルギー作物における種類、植物学的形質、栽培、利用、展望と課題について理解する。 ④バイオ燃料の種類、製造法および利用について説明できる。
授業方法と留意点	配布する講義資料とパワーポイントを用い、且つ、板書を適宜行い講義を行う。各講義中に、講義した内容に関する小テストを実施する。また、各講義の後にはラーニングポートフォリオを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの生産と利用の現状	事前：シラバスの理解 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
2	作物とエネルギー	食用作物、油料作物、糖料作物、デンプン料作物	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
3	エネルギー作物	エネルギー作物とは？ エネルギー作物の要件	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
4	糖質系エネルギー作物：サトウキビ	糖質系エネルギー作物(サトウキビ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
5	糖質系エネルギー作物：テンサイ等	糖質系エネルギー作物(テンサイ、スイートソルガム等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
6	澱粉系エネルギー作物：トウモロコシ等	デンプン系エネルギー作物(トウモロコシ、コムギ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
7	澱粉系エネルギー作物：イモ類	デンプン系エネルギー作物(キャッサバ等のイモ類等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
8	セルロース系エネルギー作物：サトウキビ等	セルロース系エネルギー作物(サトウキビ、トウモロコシ)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
9	セルロース系エネルギー作物：エリアンサス等	セルロース系エネルギー作物(エリアンサス、ネビアグラス等)の植物学的形質、栽培および利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
10	エネルギー作物：イネ	エネルギー作物としてのイネの現状	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
11	バイオ燃料：バイオエタノール	バイオエタノールの製造と利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
12	バイオ燃料：バイオディーゼル等	バイオディーゼルとバイオジェット燃料の製造と利用	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
13	バイオ燃料：バイオペレット等	バイオペレットおよびバイオガスの製造と利用、バイオマス発電	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
14	エネルギー作物の生産システム	エネルギー作物における栽培とポストハーベスト	事前：事前学修課題の学習 事後：ラーニングポートフォリオ、小テストのための復習
15	エネルギー作物の展望、総括	エネルギー作物における展望と課題、ラーニングポートフォリオを用いた総括	事前：事前学修課題の学習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	エネルギー作物学	森田茂紀	朝倉書
	2	作物学の基礎Ⅱ 資源作物・飼料作物	中村 聡、後藤 雄佐、新田 洋司	農文協
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (50%)、および、ラーニングポートフォリオ (50%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	作物は食料として重要ですが、人類のエネルギー資源としても私たちの生活に欠かせないものとなっています。本授業を通じて、エネルギー作物の現状、重要性および課題などについて理解を深め、農学生としての素養を更に身に付けられるよう頑張ってください。
担当者の 研究室等	担当教員は作物科学研究室に所属しています。もし質問や相談などありましたら、枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟) 2 階の作物科学研究室 (208 号室) まで遠慮なくお尋ね下さい。
備考	

科目名	昆虫とくらし	科目名 (英文)	Insects and Human life
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 毅
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1052a0		

授業概要・目的	昆虫の祖先は約4億年前に地球上に現れ、今や地球上の全生物種の70%を超える種数を占めると言われている。この繁栄に成功した理由として、脊椎動物にはないムシが持つ昆虫独特の環境への適応能力が指摘されており、我々ヒトは、ある時はムシと作物を争い、ある時はムシの特性を学び応用することで生活をより豊かなものへと変えていくことに成功した。「昆虫とくらし」では、害虫と益虫というヒトの視点を通したムシの二面性について紹介し、ムシを通じて生態を中立的に見る目を身につける。
到達目標	①昆虫の環境への適応戦略が、ヒトに代表される哺乳動物と似ている点と異なる点を理解できる。 ②身近にいる昆虫の存在を実感し、特にヒトの暮らしと関わり合いの深い、ゴキブリに代表される害虫やカイコに代表される益虫の生活史の実体が分かる。 ③害虫や益虫はヒトの価値観に基づく呼称であることを知り、自然の中の生物を中立的な視点で見つめられるようになる。
授業方法と留意点	・パワーポイントによるスライドと教科書「昆虫科学読本(東海大学出版)」を用いた講義形式とする。 ・事後学習では各回の授業内容を踏まえた記述形式の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 神話に出てくるムシ	「昆虫とくらし」の紹介、古今東西神話に現れるムシの紹介と概説	事前：シラバスの理解 事後：今回の講義内容の課題
2	ムシのからだ	ムシと哺乳類の体の大きさや構造の違い～循環器と呼吸器を中心に～	事後：今回の講義内容の課題
3	地球史の中のムシ	ムシの発生と激変する環境への適応～古生代、中生代、新生代のムシ～	事後：今回の講義内容の課題
4	害虫と言われるムシ ゴキブリ	ゴキブリの生態、ヒトはなぜゴキブリをきらうのか？	事後：今回の講義内容の課題
5	害虫と言われるムシ イナゴ	イナゴの生態、イナゴと農作物	事後：今回の講義内容の課題
6	害虫と言われるムシ カ	カの生態、病気を媒介するカとその実例	事後：今回の講義内容の課題
7	害虫と言われるムシ ダニ	ダニの生態、指標生物としてのダニ	事後：今回の講義内容の課題
8	侵入害虫	日本に入ってくる昆虫の実例の紹介と生態系のかく乱	事後：今回の講義内容の課題
9	害虫とどう向き合うか	害虫とは何か？ 害虫を根絶するということ	事後：今回の講義内容の課題
10	モデル昆虫	生物学と関わり合いの深いムシたち	事後：今回の講義内容の課題
11	ハチとハチミツ	ハチの生態、ハチミツの起源	事後：今回の講義内容の課題
12	カイコと繊維利用	カイコとヒトの歴史、カイコの有用性	事後：今回の講義内容の課題
13	カイコとロボット	センサーとしてのカイコ	事後：今回の講義内容の課題
14	インセクトセラピー	好かれるムシ、嫌われるムシ	事後：今回の講義内容の課題
15	未来のヒトの暮らしとムシ	我々ヒトはこれからムシとどう付き合っていくべきか？	事後：今回の講義内容の課題

関連科目	生物学 (1年生後期)・多様性生物学(3年生前期)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	昆虫科学読本		東海大学出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	徹底図解 昆虫の世界	岡島秀治	新星出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席点(授業感想または簡単なアンケートを予定)90%、受講態度10%で評価する。定期考査は行なわない。
-----------	---

学生へのメッセージ	身近なのに意外と知らない虫のこと、多いのではないのでしょうか？ ムシが好きな人も嫌いな人も、一緒にムシの世界を覗いてみませんか？ 連絡は Teams で行ないますので、受講者は必ず本科目の Teams に登録してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	応用昆虫学研究室
------------	----------

科目名	植物の改良	科目名 (英文)	Plant Improvement
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛島 智一
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1051a0		

授業概要・目的	人は植物を食料として利用するだけでなく、家畜の飼料や観賞用、工業用原料、医薬品用原料などさまざまに利用している。そして、人は品種を作るという概念を持つ前から収穫量が多いものや病気に強いものなど、自然に存在する有用な形質を示す植物を選んできた。しかし、メンデルが遺伝の法則を発見したことにより、体系的に植物を改良することが可能となった。本講義では、改良の対象となる植物の形質について概説するとともに、従来おこなわれている植物改良の手法から、今日、注目を集めている遺伝子工学の技術を利用したゲノム編集までを解説し、植物の改良に必要な基礎的な知識を身につける。
到達目標	① 植物の特性を理解し、改良目的を探す力を身につける。 ② 植物改良の方法について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、講義内容により、問題を提起し、議論することで理解を深める。また、講義後のミニレポートの提出と定期的な小テストまたは小レポートを課す。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	植物の改良を行うには	植物による改良方法の違い、改良の対象になる形質など	事前:シラバスの理解 事後:ミニレポートの提出
2	植物の構造	植物細胞の構造、細胞小器官と役割	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
3	植物の発生と生理	植物器官の構造、植物の生活環	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
4	遺伝子と遺伝	遺伝子の構造、遺伝、連鎖、遺伝子発現	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
5	材料の収集と評価と保存	形質変化に利用可能な母本の収集	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
6	交配による改良	植物の生殖、交配	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
7	突然変異による改良	突然変異体の作製	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
8	倍数体を利用した改良	倍数体、異数体の作製	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
9	種間雑種を利用した改良、栄養繁殖植物の改良	種間交配、栄養繁殖植物	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
10	細胞工学を利用した改良	組織培養、細胞培養	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
11	遺伝子マーカーの利用	遺伝子座、マーカー選抜	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
12	遺伝子工学を利用した改良	遺伝子の単離、形質転換	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
13	ゲノム編集を利用した改良	ゲノム編集	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
14	データベースの利用	遺伝子情報、遺伝子発現情報、系統データベース	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出
15	品種の管理	種苗法、カルタヘナ法	事前:事前学習資料の理解 事後:ミニレポートの提出

関連科目 生物学、ゲノム分子生物学、植物遺伝子工学、ゲノムと生命など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	植物の遺伝と育種	米澤勝衛/向井康比古/福井希一	朝倉書店
2	植物育種学	北柴大泰、西尾剛 編	文永堂出版
3	エッセンシャル遺伝学・ゲノム科学	ダニエル・L・ハートル/中村千春・岡田清孝 監訳	化学同人

評価方法 (基準) 各授業の事前学習課題 (15%)、小テストまたは小レポート (10%)、事後課題 (15%)、レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ わからないときは遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等 8号館2階 植物遺伝育種学研究室

備考 事前事後学習に要する総時間の目安は30時間

科目名	植物の病気	科目名 (英文)	Plant Disease
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	飯田 祐一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1050a0		

授業概要・目的	<p>ヒトや動物が病気になるように植物も病気にかかる。様々な防除法が開発されているにも関わらず、いまだに約15%の作物は病原菌による被害を受け、毎年約8億人分の食料が損失している。地球上にはこれ以上、農業に適した土地がないとされ、病気や害虫から作物を保護することは人類の生存において欠かすことができない課題である。</p> <p>本講義では、有機栽培、化学合成農薬、薬剤耐性菌、ポストハーベスト問題など、現代社会において一般にも身近な問題について、各学科でこれまでに学修した農作物の持続的・安定的な供給、食品の安全・安心、国際的な食料の流通や消費などの知識をベースに幅広い視点で議論するアクティブラーニング型の講義である。</p>
到達目標	<p>① なぜ生物は病気になるのか、病原菌による感染の仕組みを概説できる。</p> <p>② どのように病気を防ぐのか、病害から植物を保護する方法について概説できる。</p> <p>③ 有機農業、耐性菌などの植物病に関するキーワードを説明できる。</p> <p>④ 農薬とはなにか、安全性や関連するシステムについて説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>反転講義、グループディスカッション、プレゼン、ロールプレイ、ジグソー法などアクティブラーニングを軸とした講義形式で、学生間の相互評価も取り入れる。</p> <p>第2回以降は与えられたテーマについて事前に学習し、グループディスカッションに備える。</p> <p>スマホ、タブレット、PCなどのデバイスは必携。</p> <p>時事問題や学生からの意見など授業計画にはないテーマも積極的に取り入れる。</p>

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	本講義のテーマや進め方、ルール、成績評価について説明	事前：シラバスの理解
2	なぜ病気になる？	ヒトも植物もなぜ病気になるのか？病気に強い品種、弱い品種は何で決まる？ また植物病のパンデミックについて考える。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
3	どうやって抑える？	どうやって植物の病気を防ぐのか？ヒトとは違い植物の治療は難しいことから予防（防除）が重要となる。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
4	どうやって病気になる？	微生物とは何か？ 病原菌はどこにいるのか？ どのように植物に感染するのか？ 微生物の違いや病原菌の感染について学ぶ。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
5	農薬は危険か？	なぜヒトが飲む医薬は安全で、農薬は危険と思われるのか？ 農薬の登録システムや歴史、安全性について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
6	耐性菌とは？	ヒトでも植物でも薬の効かない病原菌が問題となっている。その問題点と対策を議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
7	生物農薬	生物農薬とは何か？ また化学農薬と生物農薬のメリットとデメリットについて議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
8	有機栽培	有機栽培・特別栽培とは？ 2050年までに農業全体の1/4を有機農業にするという農水省の方針は実現可能か？	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
9	植物の病気と輸出入	食料自給率が40%を切る我が国は、多く農産物や肥料を輸入している。輸出入に関わるポストハーベスト病害、植物検疫、残留農薬基準について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
10	遺伝子組換え・ゲノム編集による病害防除	遺伝子組換えとゲノム編集技術の違い、従来の育種技術と比べたメリットとデメリットについて学修し、議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
11	植物疾病と貧困	化学農薬の散布にはコストがかかり、また植物病害の発生は経済的な損失となり貧困に直結する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
12	植物疾病と環境保全	近代農業は化学農薬の合成やビニール製の防除資材など石油産業への依存度が高いことから、地球環境への負荷の少ない植物病害の防除について議論する。	事前：テーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
13	総括	これまでの講義内容を総括し、議論する。	事前：中間テストの学習 事後：ミニッツレポートの提出	
14	中間テスト	これまでの講義内容から「植物の病気」に関する中間テストとその解説を実施する。	事前：プレゼンテーマに関する学習 事後：ミニッツレポートの提出	
15	あらためて考える今後の農薬	農薬とはなにか、安全性や関連する法律・検査システムなど、学生自身の意見を基に今後の農薬の在り方について説明・プレゼンする。	事前：プレゼンの準備 事後：授業アンケート、ミニッツレポートの提出	

関連科目	生命倫理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義での学生間相互評価 (60%)、教員評価 (20%)、中間テスト (20%) から 60%以上で合格とする。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	農業生産学科 植物病理学研究室 飯田祐一郎			
備考				

科目名	園芸の技術	科目名 (英文)	Horticultural Technique
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 祐人
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE1049a0		

授業概要・目的	我が国の果樹、野菜、花卉などの園芸作物生産は、限られた土地を有効活用し、なおかつ消費者のニーズに合った高品質な商品を生産するため、種々の特殊な技術を用いて行われている。この「園芸の技術」では、実際の園芸作物における生産流通現場で応用されている興味深い「技」に焦点を当てて紹介する。植物生理学的な背景に基づく各技術の概要と、それらの技術を用いることで得られる生産性の向上や市場における付加価値および経済効果について論じる。なお、授業担当者は地方自治体の試験場での実務経験を持ち、生産現場の実情なども交えて講義を行う。
到達目標	①園芸作物の生産現場で用いられている各技術の手法を説明できる。 ②各技術における対象作物、生産・流通上の効果、利用上の留意点などについて概説できる。
授業方法と留意点	授業は主にパワーポイントと配布資料による講義形式で行う。なるべく基礎的な解説は避け、栽培現場での実用例を多く取り上げて紹介する。授業後、理解を深めるためのミニレポートを定期的に提出させ、翌回の授業でその内容について議論する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	野菜・花卉の接ぎ木	野菜・花卉の接ぎ木法と効果 (耐病性、低温伸長性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
2	果樹の接ぎ木	果樹の接ぎ木法と効果 (耐病性、わい性など)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
3	果樹の整枝せん定	新梢の誘引、捻枝 (ブドウ)、摘心 (ウメ)、樹形改造	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
4	野菜の無核栽培	果菜類 (トマト、スイカなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
5	果樹の無核栽培	果樹 (ブドウなど) における無核化と単為結果	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
6	野菜の花芽分化誘導	温度 (春化) 処理、窒素制限による花芽分化 (イチゴ)	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
7	被覆資材利用	被覆資材による除草、保温、病虫害防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
8	植物ホルモン利用	植物成長調整剤 (ホルモン剤) による発芽促進、休眠打破など	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
9	果樹の高糖度栽培	果樹 (カンキツなど) の高糖度化技術	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
10	野菜・花卉の養液栽培	養液栽培によるイチゴ、トマト、花卉類の安定生産	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
11	被覆種子の利用	被覆種子による殺菌、播種の効率化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
12	鮮度保持	鮮度保持剤、冷蔵、CA貯蔵による果実、切り花の鮮度保持	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出
13	野菜の軟白栽培	アスパラガス、ニラなどの軟白栽培による高付加価値化	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
14	果実の追熟	エチレンによる果実の追熟処理、カキの脱渋	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関する課題提出
15	果樹病虫害の防除	有機栽培、天敵利用、フェロモン剤による害虫防除	事前: 授業内容についての調査 事後: 学習内容に関するミニレポート提出

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業技術体系 野菜編・果樹編・花卉編		農文協
2				
3				

評価方法 (基準)	授業後に提出を求める課題およびミニレポート内容 (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	園芸作物の栽培について、知っていると日常生活でも野菜や果物を見る目が少し変わるような知見を紹介したいと思います。ぜひ興味を持った項目は自分でも調べながら受講してください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	8号館2階 園芸科学研究室
------------	---------------

科目名	現代中国農業論	科目名 (英文)	Modern Chinese Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3048a0		

**授業概要・目的**  
 国土も人口も大きく、近隣諸国のなかでも多大な影響力を持つ中国では、急速な経済発展によって、食料需給や農村の社会構造が大きく変化し、集約的で多様な農業形態への移行が進行している。本授業では、日本のフードシステムに密接に関わってきた中国の農業の発展動向について学ぶ。食料・農産物の多くを中国に依存している日本の現状を省みると、中国の農業・農村の動向を正確に理解することが大きな意味を持つ。日本と中国は、地理的条件をはじめ、経済発展パターンや経済構造において共通性が強く、農業も家族経営が主で、経営規模は零細という点でよく似通っており、経済発展にともなう農業の比較優位の低下、農業人口の高齢化、食料自給率の低下など、中国農業が直面する問題も日本と相通するものになっている。中国の経済政策体制の基礎知識にふれながら、現代中国の農業・農村における特徴的な変化について分かり易く解説する。

**到達目標**  
 本授業を通して、学生は以下のことができるようになることを期待する。  
 ① 現代中国経済に関する概念的・事実に基づく知識の基礎を要約・記述できる。  
 ② 日本との共通点や相違点などに関連付けながら中国の農業事情について分析できる。  
 ③ ②を踏まえて、食農ビジネス学科で学んできた各論を適切に用いて現代中国の農村・農業の事象について評価できる。  
 ④ ①～③の一連の成果を適切な方法で正確にアウトプットできる。

**授業方法と留意点**  
 ○ MS Teams、Forms等を使用する。Teamsコードを用いて事前に授業チームに登録すること。  
 ○ 授業中の学習：要点などのメモを取りながらレクチャーに集中すること。積極的に学習活動に参加すること。  
 ○ 授業外の学習：  
 1) 毎回の学習資料を予習、復習に活用し、課題（小テストやふりかえりシート等）を完成させること。  
 2) 提出物を期限内までに提出すること。期限は延長しない。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】 現代中国農業論への招き	なぜ今中国農業論を学ぶのか？中国の農業を概説した上で、本授業のねらい、進め方、皆さんがこの授業で達成すべきゴールおよび成績の評価方法について共有する。	事前：シラバスの理解
2	中国農業と経済の基本背景	中国の農業を知るためにはまず、その経済・社会についてふれる必要がある。日本を含め、なぜ世界では中国理解が難しいのかについて解説する。また、現代中国の転換点である「改革開放」についても言及する。	事後：課題の完成
3	中国はいかにユニークか	中国の地理、人文、経済の概要について解説し、中国の農業・農村を捉える方法について考える。	事後：課題の完成
4	世界はどう中国を見ているか	中国に関する西洋の経済学者によるいくつかの代表的なセオリーをとりあげ、その問題点と課題について考える。	事後：課題の完成
5	食・農・人	中国における自然環境および、食と農と人の関係性について考える。	事後：課題の完成
6	現代中国人の食卓	現代中国人の食生活について、日本人の食生活の変遷に照らし合わせながら、理解を深める。	事後：課題の完成
7	中国の食料品小売市場	中国における生鮮食材を含む食料品の小売流通の再編について解説し、日本との違いについて理解する。	事後：課題の完成
8	中国の有機食品市場	持続的な農業や食品供給として展開される中国の有機食品市場の現状について解説し、その問題点と課題について考える。有機野菜の宅配ビジネスについて取り上げる。	事後：課題の完成
9	変貌する農民国家：中国にとって農業・農村問題とは何か	中国の社会経済に存在する固有の「三農問題」とはなにか、それらの問題は中国の経済・社会構造にどのように結びついているかについて考える。	事後：課題の完成
10	変貌する農民国家：農村・農業経済の変遷過程	現代中国の農村・農業・農民の特徴・特質について学ぶ。	事後：課題の完成
11	変貌する農民国家：食糧問題と農村・農業政策のあり方	中国の食糧問題と農業政策について解説し、中国が直面する農村改革における重要課題について理解する。農民の生計、農村の持続可能性、農業の安定発展に関わる問題について考える。戸籍制度をも取り上げる。	事後：課題の完成
12	WTO加盟と農業の国際化	農産物貿易の自由化などの国際化動向とそれが農業に与える影響について学び、グローバル化進展のなかにおかれている農業の現状を理解する。	事後：課題の完成
13	スマート農業の展開	新たな技術の応用が農業にもたらすメリットとデメリットについて考える。	事後：課題の完成
14	農業産業化と農民組織の展開	農産物流通の変容をふまえて龍頭企業による垂直統合の展開について解説し、その中における農民専業合作組織の役割などについて考える。中国の酪農と乳業を取り上げる。	事後：課題の完成

	15	中国農業の未来と日本	これまでの内容を簡単に総括し、日本ないし世界のフードシステムとの関連の視点をも用いて、中国の農業の将来性について考える。	事後：期末レポートの提出																
関連科目	国際農業論（2年次後期） グローバル農業演習（2年次集中） 現代韓国農業論（3年次後期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	課題 50%、期末レポート 50%で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	第1回のオリエンテーションでは授業の実際の進め方と評価方法などについて説明しますので、必ず出席してください。																			
担当者の 研究室等	8号館教員室215																			
備考	受講生の学習進捗状況に応じて授業の内容や難易度について調整する場合がある。																			

科目名	現代韓国農業論	科目名 (英文)	Modern Korean Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	成 蒼政
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3047a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、国際農業系の専門科目として位置づけられた選択科目の一つである。本講義では、主に、韓国農業の生産物、組織、そして政策等に関して、経済学的手法と理論からアプローチを行う。なお、韓国農業を理解するための韓国経済、社会、文化、政治などについても講義を行う。
到達目標	この授業では、①隣国である韓国について理解を深める。 ②韓国経済についての基礎的な知識を養う。 ③韓国農業を経済的なアプローチから理解を深める。 ④韓国農業と日本農業の類似点と相違点を理解する。
授業方法と留意点	講義室での講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて講義内容に関連したトピックも取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスと担当教員から提示された事前・事後学習を必ず行うこと。とくに注意事項として、レポートの配点が高い (60%) のので、提示されたテーマに対してしっかり調べ、レポートを作成・提出すること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (韓国と韓国農業)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、韓国農業の現状、韓国農業・農村地域活性化などについて講義する。	事前: シラバスの理解と韓国農業の現状などについて調べること。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	韓国の社会・生活 (I)	統計資料などを用いて韓国における社会と生活の特徴、社会人口の変化、動向などを講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
3	韓国の社会・生活 (II)	韓国における教育・労働・余暇・住居などの特徴と動向について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
4	韓国の政治・文化	統計資料などを用いて韓国の政治の歴史と現状を分析する。なお、日本と異なる韓国文化について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
5	韓国経済の現状	韓国経済の歴史、話題、そして最新の動向などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
6	韓国経済の特徴	漢江の奇跡と呼ばれた韓国経済の発展過程と特徴などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
7	韓国農業の基礎事項 (I)	統計資料などを用いて韓国農業の現状と展開などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
8	韓国農業の基礎事項 (II)	韓国農業の特徴と課題、可能性などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
9	韓国農業における生産物の分析 (I)	韓国農業の稲作、畑作、野菜などについて経済的手法を用いて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
10	韓国農業における生産物の分析 (II)	韓国農業における畜産物、水産物などについて経済的手法を用いて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
11	韓国農業における組織の分析 (I)	韓国農業における農業法人の現状と形態、発展課題などについて分析する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
12	韓国農業における組織の分析 (II)	韓国農業の農協の歴史、現状、問題点、そして展開などについて講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
13	韓国農業における政策の分析 (I)	韓国農業における政策の方向とその評価について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
14	韓国農業における政策の分析 (II)	韓国農業における農業保護政策と食料供給政策について講義する。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
15	韓国農業における政策の分析 (III) と総まとめ	韓国農業における 6 次産業化とスマート農業について講義する。そして、総まとめを行う。	事前: 担当教員より事前に提示された課題をやってもらうこと。 事後: 配布資料と今回の講義内容について熟知し、

				しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
関連科目	国際農業論、現代中国農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国農業経済論	成善政	学術出版会
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(40%)、レポート2回(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	積極的な姿勢で授業に臨み、質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	8号館3階教員室314			
備考				

科目名	農業開発論	科目名 (英文)	Agricultural Development
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3046a0		

授業概要・目的	人口増加や偏在（都市集中や過疎化）や人間活動の拡大、気候変動などを背景に、アジアやアフリカあるいは日本国内の地域社会は、貧困、水質や大気の汚染、生態系の劣化、自然災害、在来文化や相互扶助の仕組みの消失など数多くの問題に直面している。農業開発は、これらの諸問題の解決や未来社会の形成に関わる取り組みである。本講義では、農業開発の理論と系譜および世界各地の農業と生態環境との関わりを理解したうえで、農業開発をめぐる学術研究や社会実践の事例から問題解決や未来社会の形成に果たす農業の役割と可能性を考える。
到達目標	① 農業開発をめぐる理論や系譜、手法、課題を知る。 ② 国内外の生業システム（農耕、牧畜、漁労など）の成り立ちや現状、直面する諸問題や取り組むべき課題を知る。 ③ 農業開発に関する学術研究や社会実践の事例を参照し、問題解決に向けた視点や具体的な技術や手法を知る。 ④ グループ討論および総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開発の理論と系譜	地域開発の理論や手法を時代背景とともに整理し、「住民参加」とSDGsに結集する国際社会の動向に注目しつつその内容と特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパー
2	農業開発の課題	地域・地球環境問題や未来社会の形成に向けての課題、地域開発に求められる新たな視点（脆弱環境の管理、社会的弱者層の支援、自然・生業・文化の共生など）や社会実践の手法を知る。	事後：リアクションペーパー
3	乾燥地の農業開発	乾燥地の生業（遊牧、牧畜、オアシス農耕）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
4	半乾燥地の農業開発	半乾燥地の生業（牧畜、天水農耕、かんがい農業）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
5	湿潤地の農業開発	湿潤地の生業（水田耕作、屋敷林、内水面養殖）の類型や成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
6	寒冷地や山間地の農業開発	寒冷地や山間地の生業、プランテーション農業や小規模農業の類型と成り立ち、現状、社会・環境適合性、問題および農業開発の課題を知る。	事後：リアクションペーパー
7	開発と学術研究 (1)	農業技術、環境保全、地域開発に関する常識的な知識や定番技術の代表例を取り上げ、その適用限界や妥当性、検討の余地を考える。	事後：リアクションペーパー
8	開発と学術研究 (2)	西アフリカや東アフリカ、南アジアに見られるさまざまな在来知や経験則から地域開発の技術や方法論を形成するヒントを得る。	事後：リアクションペーパー
9	農業とイノベーション	国内外の地域農業のポテンシャルの発掘と活用、問題解決や地域活性化に向けた技術や取り組みの設計、それらの実践展開への取り組みを知る。	事後：リアクションペーパー
10	農業開発の実践事例 (1)	半乾燥地（西アフリカサヘル地域）における砂漠化や干ばつへの対処の事例から貧困削減や暮らしの安全保障、生態系保全のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
11	農業開発の実践事例 (2)	山間地や島嶼部（東アフリカ・タンザニア）での香辛料作物を軸とする屋敷林システムを参照しつつ、脆弱環境での暮らしの向上や生態系保全、社会的弱者層の支援のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
12	農業開発の実践事例 (3)	湿潤地（東南アジア・ベトナム）の自然災害常襲地での小規模農民による生業多様化を通じての暮らしの向上や生態系保全および自然災害への対処のあり方を考える。	事後：リアクションペーパー
13	グループ討論	任意の地域を設定し、資源・生態系・社会・経済などの特徴付け、問題構造の特定とその解決や地域活性化へのアイデアを出し合い、グループ内で討論し、総合討論への準備作業を行う。	事前：任意の設定地域についての予習 事後：リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	問題解決や地域活性化へのアイデアに関するグループ発表と質疑応答および	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：総合レポートの作成

			討論を行う。	
	15	総合討論 (2)	問題解決や地域活性化へのアイデアに関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：総合レポートの作成
関連科目	アグロ・エコロジー論、比較農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	参加型開発と国際協力	ロバート・チェンバース (著)、 野田直人・白鳥清志 (監訳)	明石書店
	2	援助する国される国－アフリカが成長するために－	服部正也 (著)	中央公論新社
	3	地球と存在の哲学－環境倫理を越えて	オギュスタン・ベルク (著)、篠 田勝英 (訳)	ちくま新書
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (60%) とプレゼンテーションおよび期末レポート (各 20%) で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	(1) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。授業時間を除く授業日 (午前、午後) をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。 (2) 国際協力 (特に青年海外協力隊や NPO/NGO) に関心のある方へのアドバイザーもできます。			
担当者の 研究室等 備考	枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213 号室)			

科目名	国際農業論	科目名 (英文)	International Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2045a0		

授業概要・目的	日本は世界有数の農産物輸入国であり、国民への食料供給を確保するためには、貿易交渉等を通じて、国内農業の生産力の維持と農産物輸入の安定化を図ることが重要である。また、世界の農産物貿易では、アメリカ、EU等の先進国が輸出・輸入ともに、主要なプレーヤーとなっており、先進国の農業事情や農業政策は世界の食料需給に大きな影響を与えている。本講義では、世界の食料需給、先進国の農業事情・農業政策、農産物に関する貿易交渉について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① アメリカ、EU等における農業の特徴・農業政策と農産物貿易交渉の内容を理解する。 ② アメリカ、EU等における農業政策の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。 ③ 農産物貿易交渉の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な海外の農業事情に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。 授業において外部講師による講演を聴取する(2回)。 ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。
科目学習の 効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	世界の食料需給	世界の食料需給の動向と世界人口の増加や地球温暖化等を考慮した将来予測について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	自由貿易と保護貿易	自由貿易と保護貿易に関する経済理論について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	農産物貿易交渉の歴史	GATT及びWTOにおける農産物貿易交渉の歴史と日本の交渉上の立場について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	FTA・EPAと多国間貿易交渉	FTA(自由貿易協定)・EPA(経済連携協定)と多国間貿易交渉の現状について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	アメリカの農業構造	アメリカの農業構造について、日本と対比して理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	アメリカ農業法の変遷	アメリカの農業政策の根幹をなす農業法の変遷について、背景となる農業事情を含めて理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	アメリカの経営安定対策	アメリカの価格・収入安定対策及び農業保険の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	アメリカの環境・栄養政策	アメリカの環境保全対策と低所得者等を対象とする栄養プログラムの仕組みについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	EUの農業構造	EUの農業構造について、日本・アメリカと対比して理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	EUの共通農業政策の変遷	EU加盟国の農業政策の根幹をなす共通農業政策とその変遷について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	EUの経営安定対策	EUの価格安定対策、直接支払い、国境措置等の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	EUの農村振興政策	EUの条件不利地域対策、農業環境政策、青年農業者の就農支援等の仕組みについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	フランス・ドイツの農業事情	EUの代表的な加盟国であるフランスとドイツの農業事情と農業政策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	先進国と途上国の農業政策	アメリカ・EU以外の先進国の農業政策、先進国と開発途上国における農業政策の違いについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	先進国農業政策の展開方向	アメリカの2018年農業法やEUの共通農業政策の推進状況に基づき、先進国の農業政策の今後の方向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目	食料・農業経済学、食料・農業・農村政策論
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて紹介する		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ	農業や食料は気候風土に根ざしており、世界各国は独自の食料・農業の問題を抱えています。日本の農業・食料の問題を考える上で、他国の事情も参考にしましょう。		
担当者の 研究室等	食料・農業政策学研究室（農学部2階214）		
備考			

科目名	比較農業論	科目名 (英文)	Comparative Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2044a0		

授業概要・目的	さまざまな気候・生態環境、文化・歴史、社会・経済状況を背景に、世界各地には多様な農業が見られる。本授業では、国内外の農耕文化の類型や特徴、系譜と変遷、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知り、それらを比較し相対化することでそれぞれの農業の成り立ちおよび気候や地域性を越えた共通性について理解する。多角的・多層的・俯瞰的に捉えることを通じて、農業や環境についての知識や理解を豊かにする。
到達目標	① 世界各地の農耕文化の特徴、成り立ち、系譜、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知る。 ② 地域・地球環境問題や未来社会の課題の本質や農業を通じての解決のあり方を知る。 ③ 農業と資源・生態環境との関わりや今日的な諸問題について、多角的・多層的・俯瞰的な視野で捉えられるようになる。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。

授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を行う。授業中は、幾つかの疑問を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	世界の農耕文化 (1)	世界各地 (日本を含む) の農耕文化の類型とその系譜を知る。	事前: シラバスの理解 事後: リアクションペーパー
2	世界の農耕文化 (2)	アフリカの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
3	世界の農耕文化 (3)	南アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
4	世界の農耕文化 (4)	中南米の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
5	世界の農耕文化 (5)	中東・地中海地域の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
6	世界の農耕文化 (6)	東アジア・中央アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
7	世界の農耕文化 (7)	東南アジア・オセアニアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。	事後: リアクションペーパー
8	世界の農耕文化 (8)	農耕文化複合の広域的な伝播と接触複合による生業システムの変容について理解する。	事後: リアクションペーパー
9	これからの農業 (1)	滅びた文明の背景と気候変動および農業との関わりを理解し、今日的課題と農業の未来を展望する。	事後: リアクションペーパー
10	これからの農業 (2)	農耕限界地 (乾燥地・半乾燥地) での地域・地球環境問題 (砂漠化、干ばつ) と解決への農業の役割を考える。	事後: リアクションペーパー
11	これからの農業 (3)	脆弱環境 (山間地や斜面地) での地域・地球環境問題 (土壌侵食、森林荒廃) と解決への農業の役割を考える。	事後: リアクションペーパー
12	これからの農業 (4)	未来社会が直面する諸問題 (人口変動、人間活動の拡大および高齢化、気候変動など) への対処のあり方考える。	事後: リアクションペーパー
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前: 抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後: リアクションペーパー
14	総合討論 (1)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成
15	総合討論 (2)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成

関連科目	アグロ・エコロジー論
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	栽培植物と農耕の起源	中尾佐助 (著)	岩波新書
	2	銃・病原菌・鉄 (上、下) 1万3000年にわたる人類史の謎	ジャレド・ダイヤモンド (著)、 倉骨彰 (訳)	草思社文庫
	3	農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド (著)、 田俊樹・佐藤洋一郎 (監訳)	京都大学学術出版会

評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (授業レポート、70%) と期末レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。授業時間を除く授業日 (午前、午後) をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。
-----------	--

担当者の	枚方キャンパス 8号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213号室)
------	------------------------------------

研究室等	
備考	

科目名	農村コミュニティビジネス論	科目名 (英文)	Rural Community Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	北川 太一・谷口 葉子・中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3043a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、食農共生・循環型農業系で学ぶ学生を対象として開講する。食農共生・循環型農業系で食と農の共生のあり方やしくみの構築について実践的に学修し、卒業研究を行うためには、農村コミュニティビジネスの実践事例から学ぶことが不可欠である。本講義では、農村コミュニティビジネスの基本的な考え方に対する理解を深めるとともに、代表的な実践事例を取り上げ、その実践の背景、目的、取り組みの過程と内容を調べ、その成果と意義について考察を行う。
到達目標	①農村コミュニティビジネスの実践に関する代表的な考え方を理解することができる。 ②農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例の背景、目的、取り組みの経過と内容を把握することができる。 ③農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例の調べ方、分析・考察の仕方を身につけることができる。
授業方法と留意点	①受講者全員を対象に、農村コミュニティビジネスの先進事例に関する文献・資料等の読解を行う。 ②個人またはグループで担当する事例を決め、事例の実践の背景、目的、取り組みを調べるとともに、成果と意義の考察を行う。 ③取り上げた実践事例について、全体で発表を行い、レポートを作成する。 ※ゲストスピーカーの招へい、ならびに学外に出かけてのフィールドワークを行うことがある。フィールドワークの実施日時は、追って連絡する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についてのガイダンス	事前：シラバスの確認 事後：担当教員の指示に基づく
2	実践事例に関する文献等の探索と読解	農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
3	実践事例に関する文献等の探索と読解	農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
4	実践事例に関する文献等の探索と読解	農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
5	実践事例に関する文献等の探索と読解	農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
6	実践事例に関する文献等の探索と読解	農村コミュニティビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
7	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
8	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
9	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
10	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
11	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
12	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
13	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
14	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
15	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成

関連科目	「食農共生論」「循環型農業論」「食農教育論」など、食農共生・循環型農業論系の専門科目
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	担当教員の指示に基づく		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (20%) と発表内容 (40%)、レポート (40%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	自身の問題関心を掘り下げる姿勢を持って、授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	北川 太一 (8号館教員室 318) 中塚 華奈 (8号館教員室 317) 谷口 葉子 (8号館教員室 316)			
備考	原則として、食農共生系の研究室 (食農共生研究室、環境農学研究室、食農教育研究室、持続型フードシステム研究室) に所属する学生が受講できる。			

科目名	有機農業論	科目名 (英文)	Organic Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3042a0		

授業概要・目的	本講義は、有機農業の起源や思想の系譜、有機農産物の品質や環境安全性、有機農業の流通や政策の現状といった、有機農業を取り巻く基礎的な事項について体系的な理解を得ることを目的とする。また、講義中のディスカッションを通して、答えのない問いに対する自らの考え方を整理し、論理的に説明する力を養う。
到達目標	① 有機農業にかかわる思想、歴史、品質、流通、政策に関するリテラシーを身につける。 ② 経済学的な見地より有機農業や有機農産物の生産や流通上の特性を理解する。 ③ 有機農業をめぐる科学的不確実性に関する自らの考え方を論理的に説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントと板書を用いた講義を行う。適宜、グループ・ディスカッションを実施する。予習用のプリント等を用いて事前学習を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	有機食品の生産・製造や流通の業務、有機認証等の業務に従事する際に役立つ知見となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	有機食品市場の現状と動向	有機農業の定義と生産・消費の現状を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
2	有機農業の起源と思想 (1) 有機農業の起源と経緯	有機農業の先駆者が提唱した思想や実践について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
3	有機農業の起源と思想 (2) 発展期	有機農業の制度化・産業化の経緯について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
4	有機農業の起源と思想 (3) 新たな潮流	有機農業を取り巻く新たな概念や思想について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
5	有機農業の起源と思想 (4) 様々な思想と実践	有機農業と類似する農業の思想と実践について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
6	有機農産物の優位性 (1) 安全性	有機農産物の安全性をめぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
7	有機農産物の優位性 (2) 栄養・機能性	有機農産物の栄養・機能性や美味しさをめぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
8	有機農産物の優位性 (3) 環境安全性	有機農業の環境安全性めぐる議論とその背景にある考え方や科学的根拠を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
9	有機農業の経済学 (1) 市場の失敗	経済学における「市場の失敗」と有機農業とのかかわりを学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
10	有機農業の経済学 (2) 情報と信頼	経済学における情報の不完全性と有機農業とのかかわりを学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
11	有機食品流通の特徴と動向 (1) 構造と契約	有機農産物に特徴的に見られる流通方法の仕組みや契約上の特徴について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
12	有機食品流通の特徴と動向 (2) 市場の実態	市場データに見られる有機食品の消費の実態について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
13	有機食品流通の特徴と動向 (3) 海外の動向	海外に見られる新たなビジネスや取り組み事例について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
14	有機農業の政策論：推進政策	欧米や日本における有機農業推進政策を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)
15	有機農業の政策論：認証制度	欧米や日本における第三者認証や参加型認証をめぐる議論を知る。	事前：配布プリント等による予習を行っておくこと (3時間) 事後：授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと (1時間)

関連科目	食と農の倫理、アグロ・エコロジー、循環型農業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有機農業の技術と考え方	中島紀一、金子美登、西村和雄	コモンズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題等の提出物（ルーブリック評価・50%）と期末試験（50%）で評価し、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	有機農業の思想や流通について体系的な理解を得たい方におススメする授業です。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室 316 持続型フードシステム研究室			
備考	成績評価では毎回の授業の予習とディスカッションへの取り組み姿勢を重視します。			

科目名	非営利協同論	科目名 (英文)	Non-Profit Organizations
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3041a0		

授業概要・目的  
近年、協同組合やNPOなど、非営利協同組織に対する関心が高まっており、実際に農村を中心とした地域づくり、農業や食に関わる分野も含めた地域経済に関わる事業を行う非営利協同組織や非営利協同組織どうしの連携（非営利協同組織間協同）の取組みが各地で展開しつつあります。本講義では、こうした非営利協同組織の問題を取り上げて、その活動が日本の農業・食料や農山村をはじめとする地域の経済・社会、さらには私たちのくらしの問題と密接に関わっていることを理解していきます。

到達目標  
① 非営利協同の考え方、関連する法制度を理解し、事業や活動の特徴を知る。  
② 非営利協同組織の一つである協同組合（本講義では、生協、労働金庫、中小企業組合、労働者協同組合等を取り上げる）とNPOについて、その特徴と実態を理解する。  
③ 農業や食の分野も含めた地域経済に関わる非営利協同組織間協同の取組みについて知り、非営利協同組織の連携が農業・農村振興や食の問題の解決するうえでどのような可能性があるのかを考える。

授業方法と留意点  
・授業形式：講義中心で、プリント（講義レジュメ、資料など）を配布して進めます。  
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用します。  
・現場の声を聴くために、ゲストスピーカーを呼ぶことがあります。  
・質問等がある場合は、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいので、授業後やオフィスアワーを積極的に利用してください。  
※「協同組合論」（2年後期配当）を履修していることを前提として講義を進めます。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	非営利協同に関する基礎的理解①（種類、世界的状況）	非営利協同組織の種類、世界的にみた現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	非営利協同に関する基礎的理解②（基本特性、法制度）	株式会社と比較した場合の非営利協同組織の基本特性、その法制度について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	生協の歴史	イギリス、フランス等を中心とした世界的にみた生協の歴史、ならびに日本の生協に関する歴史の変遷を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	生協の事業①（購買事業）	生協事業の中心をなす購買事業（店舗事業、無店舗事業）のしくみと現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	生協の事業②（産直事業）	生協と農協・漁協を中心とした産直事業の成り立ち、しくみ、現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	生協の事業③（福祉事業）	買物支援や生活支援事業など生協の福祉事業の役割と現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	NPOの組織・運営原則	NPO組織の特質、運営原則について、株式会社や協同組合との比較において理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	NPOの事業	NPOが行っている事業、特に食と農に関わるものおよび地域づくりに関わる事業の役割と現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	NPOのマネジメント	NPOマネジメントの特質、特に人材育成、経営管理、地域との関わりなどについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	非営利協同組織間協同の理念	非営利協同組織間協同の考え方について、歴史的経緯、協同組合原則や公共政策における位置づけ等について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	非営利協同組織間協同と労働	労働者協同組合による仕事づくりを中心とした非営利協同組織間協同の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	非営利協同組織間協同と金融	労働金庫、信用組合等による地域金融に関わる非営利協同組織間協同の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	非営利協同組織間協同と地域経済	中小企業等による地域経済に関わる非営利協同組織間協同の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	非営利協同組織間協同と農山村再生	協同組合やNPO、地域の関連団体等による、農山村再生をめざした非営利協同組織間協同の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、非営利協同組織が果たすべき社会的役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目  
食農共生論、協同組合論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの協同組合間連携	石田正昭編著	家の光協会
2	協同ではたらくガイドブック（実践編）	協同総合研究所	協同総合研究所	

	3		
評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回の予習確認小テストと授業後のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢 (50%程度) ②期末レポート (50%程度)		
学生への メッセージ	私たちの身の回りには多くの非営利組織が存在し、それらが連携することによって食や農の問題を解決しようとしている姿を実感してほしい願っています。		
担当者の 研究室等	8号館・教員室 318		
備考			

科目名	都市農業論	科目名 (英文)	Urban Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2040a0		

**授業概要・目的**  
都市農業とは、市街化区域内農地とその周辺で営まれる農業のことである。市街化区域内農地は、国内の全農地の約2%しかないが、都市農家の戸数や販売金額は全国の約10%を占めており、食料生産をはじめ、環境保全、景観形成、文化の継承、食農教育、防災空間、福祉との連携などにおいて様々な機能を有している。都市政策における都市農地の位置づけや税制措置は、高度経済成長期の「宅地化すべきもの」から、都市農業振興基本法が施行された近年では「都市にあるべきもの」へと目まぐるしく変化してきた。本講義では、都市農業の成立経緯や都市農業が有する多面的機能、都市農業の実践事例について大阪府の農業を中心に学び、ディベートやワークショップを通して、都市農業に対する自らの知見を深める。

**到達目標**  
① 都市および都市農業の定義や意義を理解する。  
② 都市政策および農業政策における都市農業の位置づけの変遷を理解する。  
③ 都市農業に対して自分の見解を述べるができる。

**授業方法と留意点**  
パワーポイント、板書によって行い、適宜、資料やプリントはTeamsにアップする  
課外活動で近隣の都市農家のところへ視察や農業体験に行くことを推奨する。  
(新型コロナウイルス感染拡大状況により、臨機応変に対応する)

**科目学習の効果 (資格)**  
歴史と現状を学び、自らの見解を示す知識と経験を、将来、地域政策の現場で活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	都市農業に関するプロローグ	都市や都市農業がどのように成立してきたのか、都市農業とは何かについて考える本講義の概要を把握する	事前：シラバスの理解 事後：FORMS
2	大阪とは？都市と農業の関係は？	さまざまな立場にたつて、都市農業の意義と今後の想いに対するディベートを行った後、都市と農業の関係について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
3	大阪における農耕の始まり	古代大阪の地形の変遷と縄文スピリットや農耕の始まりについて学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
4	大阪における治水と新田開発	大阪における日本初の治水事業と新田開発について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
5	戦時体制下の大阪農業	第二次世界大戦下の大阪農業について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
6	高度経済成長期の大阪農業	高度経済成長期、農業基本法制定時の大阪農業について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
7	バブル経済期の大阪農業	バブル経済時代の大阪農業について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
8	都市農業と食料供給	都市農業振興基本法成立の経緯と自治体の政策について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
9	都市農業と後継者・新規就農者	都市農業がこれからも存続するための後継者や新規就農者について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
10	都市農業と環境保全・防災・文化	都市農業が地域文化や歴史にどのような影響を及ぼしているか、また地域の防災や福祉とどのような関わりを有しているかについて理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
11	都市農業振興基本法と基本計画	都市農業振興基本法成立の経緯と自治体の政策について学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
12	淀川流域の大阪農業	淀川流域で育まれてきた大阪の農業について、淀川資料館の展示資料から学ぶ	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
13	ケーススタディ①東大阪市「E ペジで地消地守」	東大阪市における都市農業の実践事例について知識を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
14	ケーススタディ②枚方市・寝屋川市	枚方市や寝屋川市における都市農業の実践事例について知識を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
15	総括および理解到達度確認	都市農業に関する講義の総まとめと理解到達度の確認を行う。	事前：全学習範囲の復習 事後：FORMS

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域	後藤和子ほか	株式会社昭和田
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
授業中の FORMS による回答 60% 期末レポート 40% で評価し、60% 以上を合格とする。

**学生へのメッセージ**  
都市部における農業について、過去の歴史と現状を学び、今後の展望について自らの見解を示せるようになりましょう。

**担当者の研究室等**  
8号館 317号室

**備考**

科目名	協同組合論	科目名 (英文)	Co-operatives
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2039a0		

授業概要・目的	最近「農協改革」という言葉をよく耳にする。農協は民間の企業(株式会社)とは異なる「協同組合」だが、ではいったい協同組合とはどのようなものであるのか。本講義では、食料・農業・フードシステム等の問題と深い関わりがある農協(農業協同組合:JA)を中心に、協同組合の存在・役割が、日本の農業・食料や農山村をはじめとする地域の経済・社会、さらには私たちのくらしの問題と密接に関わっていることを理解する。
到達目標	① 協同組合が掲げる理念・原則を理解し、株式会社との違いを組織、事業、経営の面から理解する。 ② 日本の農協(特に総合農協)の特徴と実態を理解する。 ③ ①②を踏まえて、農協をはじめとする協同組合が社会的に果たしている役割、今後の課題や改善方法について考えることができるようになる。
授業方法と留意点	・授業形式:講義中心で、プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。 ・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を適宜活用する。 ・現場の声を聴くために、可能ならばゲストスピーカーを呼ぶことがある。 ・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワーを積極的に利用すること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	協同組合に関する基礎的理解①(種類、世界的状況)	協同組合の種類、法制度、世界的にみた協同組合の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	協同組合に関する基礎的理解②(基本特性、運営原則)	株式会社やNPOと比較した場合の協同組合の基本特性、協同組合原則について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	協同組合に関する基礎的理解③(歴史)	イギリス、ドイツ、フランスを中心とした協同組合の歴史の変遷を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	農協の組織①(「日本型総合農協」の成立)	「日本型総合農協」と呼ばれるわが国農協の特質について理解し、産業組合以来の成り立ちを知る。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	農協の組織②(組合員制度、組織活動)	農協の組合員制度(正組合員、准組合員の存在など)、女性組織や青年組織、生産部会の活動状況を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	農協の組織③(広域合併と連合組織問題)	農協の広域合併の変遷と組織の規模を概観し、連合組織(中央会、事業連)の存在形態と役割について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	農協の事業①(指導事業)	農協事業の基盤をなす、営農指導事業と生活指導事業のしくみと現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農協の事業②(経済事業)	農協の農畜産物販売事業および生産資材を中心とした購買事業のしくみと現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	農協の事業③(信用・共済事業)	農協の信用事業と共済事業の成り立ち、しくみ、現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	農協の事業④(厚生・福祉事業など)	農村における病院・健康管理や高齢者の生活支援など、農協の厚生・福祉事業の役割と現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農協の経営①(ガバナンス問題)	農協の経営管理のしくみとガバナンス(理事選出、組合員による関与、職員参加など)の特徴と現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	農協の経営②(経営収支構造)	農協の経営収支構造について、信共依存型経営と経済事業の採算性の側面から現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	これからの農協(創造的自己改革)	農協が抱える課題と今後の方向性について、農協が取り組む「自己改革」(農業者の所得増大など)の観点から理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	協同組合間協同	農協、漁協(漁業協同組合)、森林組合など、第一次産業に関わる協同組合どうしの連携(協同組合間協同)の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、協同組合、農協が果たすべき社会的役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食農共生論、非営利協同論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新 協同組合とは 四訂版 そのあゆみとしくみ	日本協同組合連携機構編	日本協同組合連携機構
2	農業協同組合論(第3版)	JA全中/北川太一・柴垣裕司編著	JA全中	
3	1時間でよくわかる SDGsと協同組合	日本協同組合連携機構	家の光協会	

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回の予習確認小テストと授業後のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢 (50%程度) ②定期試験もしくは期末レポート (50%程度) ※②については、今後の新型コロナの感染状況も見ながら判断し、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	食と農を結ぶ食農共生を実現していく上で、協同組合は重要な存在であり、行政や一般企業にはない特徴や役割を持っています。この講義を通じて、身近な存在として協同組合を意識するようになってもらえると嬉しいです。
担当者の 研究室等	8号館・教員室 318
備考	

科目名	食農教育論	科目名 (英文)	Dietary and Agricultural Education
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2038a0		

授業概要・目的	食農教育とは、「食」が有する多様な役割の大切さを伝える「食育」に、「食」を育む根本である農林水産業に関する知識や体験を含めた総合教育のことである。2005年に施行された食育基本法では、国民の「食」に関する考え方を育み、健全な食生活の実現を目標とし、都市と農山漁村の共生・対流をすすめ、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。本講義では、食農教育とは何かを理解し、自らで食農教育プログラムを企画する知識と経験を修得する。
到達目標	① 食農教育とは何かを理解する。 ② 食農教育で伝える内容を理解する。 ③ 自ら食農教育のプログラムを企画し、実行することができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書によって行い、適宜、資料やプリントはTEAMSのファイルにアップする。基礎知識を学んだあと、食農教育プログラムの企画立案、準備、資料作成をグループワークを通して行い、相互に発表をする。
科目学習の効果(資格)	自治体やNPOなどにおいて、地域農家と食農教育プログラムを企画する機会があれば、知識と企画力を活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食農教育とは	食育と食農教育の違いを理解し、食農教育とは何かを理解する。	事前：シラパスの理解 事後：リアクションペーパー
2	「バケツ稲」から学ぶ食農教育	食農教育で全国的に取り組まれている「バケツ稲づくり」の仕組みや狙いを学び、自らの「育てる」企画をたてる	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
3	食農教育における「食べ事」	食農教育において、食べものを「食べる」ということは何かをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
4	食農教育と食文化学	食農教育において、食文化の観点から何を食べるべきか、どのような食文化があるかということなどをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
5	食農教育と身体づくり	食農教育において、食べものと身体づくりの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
6	食農教育と土壌学	食農教育において、土壌とは何か、土づくりと食べものの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
7	食農教育と生物学	食農教育において、植物と動物の共生、生物多様性と食べものとの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
8	食農教育と環境学	食農教育において、環境と農業と食べものとの身体関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
9	食農教育と経済学	食農教育において、望ましい農業生産活動や消費行動を経済学的な視点からどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
10	食農教育と消費生活学	食農教育において、望ましい消費生活のありかたをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMSで回答
11	食農教育プレゼン企画立案	食農教育プログラムの企画立案を個別に行う。	事前：企画立案の情報収集 事後：企画実行準備
12	食農教育プレゼン企画準備	食農教育プログラムのプレゼンテーション資料を作成する。	事前：企画実行 事後：企画実行
13	食農教育プレゼン発表①	食農教育プレゼンテーションを実施する。データはTEAMSにアップし、相互に視聴できるようにする。	事前：プレゼン練習 事後：振り返り
14	食農教育プレゼン発表②	食農教育プレゼンテーションを実施する。データはTEAMSにアップし、相互に視聴できるようにする。	事前：プレゼン練習 事後：振り返り
15	振り返りと総合討議	全体の発表を振り返り、相互評価を行い、食農教育に関する討議を行う。	事前：プレゼン視聴 事後：振り返り

関連科目 食農ビジネス学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たべもの・食育絵本 野菜の教え	藤原 勝子	群羊社
2	NHK ためしてガッテン	NHK 科学番組部	汐文社	
3				

評価方法(基準) FORMSによる提出物50%、最終プレゼン資料50%。60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ	命を育む食は、単なるエネルギー源としてや身体づくりのための原材料としてだけでなく、地球環境や地域経済とも深い関わりがあります。オリジナルな食農教育プログラムを企画立案できるようになりましょう。
担当者の研究室等	8号館317号室
備考	毎回の課題はFORMSで回答・提出していただきます。個別質問は、メールにて受け付けます。

科目名	循環型農業論	科目名 (英文)	Issues in Sustainable Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2037a0		

授業概要・目的	農業やその川下のフードシステムにおける持続可能性の追求が国内外で重要性・緊急性を増してきている。本講義では、農業がもたらしてきた様々な環境問題を学ぶと共に、環境問題の解消や緩和のための循環型農業の取り組みについて、その効果、技術、関連政策の学修を通して深く理解することを目的とする。また、循環型農業に取り組む経営の学修を通して、環境に配慮した農業生産の技術の実際や施策の活用実態について理解を深める。
到達目標	① 食料生産が社会にもたらす環境問題について理解する。 ② 循環型農業の方法論とその環境保全効果を理解する。 ③ 循環型農業に関連する様々な概念や取り組み事例を知る。
授業方法と留意点	パワーポイントと板書を用いた講義を行う。適宜、グループ・ディスカッションを実施する。講義の開始前に予習用のプリント等を配布する。また、配布プリントの事前学習を行うこと。
科目学習の効果(資格)	企業のCSR活動やCSVの展開、SDGs達成のための諸活動、社会的起業を検討する際に役立つ知見が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	近代農法の環境負荷	近代農法がもたらしてきた環境問題を俯瞰し、循環型農業の発展の経緯を学ぶ。	
2	農業の多面的機能	農業に備わる環境保全機能を始めとする多面的機能について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
3	食料生産とエネルギー	食料生産におけるエネルギー使用の現状とそれを抑制する技術的・制度的対応策について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
4	食料生産と地球温暖化	食料生産における温室効果ガスの排出の現状とそれを抑制する技術的・制度的対応策について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
5	食料生産と生物多様性	食料生産における生物多様性への影響と循環型農業による生物多様性の保全効果を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
6	食料生産と窒素循環	食料生産における窒素循環と循環型農業による改善効果を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
7	農薬の安全性をめぐる議論	農薬の安全性をめぐる諸議論と農薬の残留基準や使用基準について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
8	遺伝子組み換え技術をめぐる議論	遺伝子組み換え技術が環境や人々の健康に与える影響をめぐる議論や考え方、関連する法規制について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
9	循環型農業における土づくり	循環型農業で用いられる土づくりの方法を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
10	循環型農業における除草と病害虫防除	循環型農業で用いられる除草と病害虫防除の方法を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
11	農業環境政策	循環型農業を推進するための環境直接支払い等の政策について、国内とEUにおける展開状況を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
12	循環型社会の形成に向けた政策	循環型社会の構築に向けた諸政策と食品廃棄物の再資源化の取り組みを知る。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
13	循環型園芸の取り組み事例	循環型農業に取り組む農家の事例を学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
14	持続可能性に配慮した食農ビジネスの取り組み事例	ビジネスの観点から食や農業の持続可能性について学ぶ。	事前:配布プリント等による予習を行っておくこと(3時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)
15	グループ発表	持続可能性に配慮した食農ビジネスの事例について取りまとめグループ内で発表する。	事前:発表準備を行うこと(10時間) 事後:授業終了時に示す課題に取り組んでおくこと(1時間)

関連科目 食と農の倫理、アグロ・エコロジー、有機農業論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有機農業の技術と考え方	中島紀一、金子美登、西村和雄	コモンズ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題等の提出物 (ルーブリック評価・60%) およびプレゼンテーション (40%) で評価し、60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	食料生産における持続可能性を取り巻く様々なトピックスについて学ぶ授業です。SDGs や循環型経済 (サーキュラーエコノミー) に関心のある皆さんへお勧めしたい科目です。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室 316 持続型フードシステム研究室			
備考	成績評価では毎回の授業の予習とディスカッションへの取り組み姿勢を重視します。			

科目名	食農共生論	科目名 (英文)	Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1036a0		

授業概要・目的  
近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、農業と食料問題の特性を理解したうえで、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結び食農共生の課題や方向性について考える。

到達目標  
① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。  
② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。  
③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。

授業方法と留意点  
・授業形式：講義中心で、補足プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。  
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。可能ならば、ゲストスピーカーによる講義を行う。  
・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワー、電子メールやICTツール等を積極的に利用すること。  
・事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、ほぼ毎回、予習確認小テストと振り返りシートの提出を課す。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学、食農ビジネス学における食農共生の問題	農学、食農ビジネス学を学ぶ上での食農共生の問題の位置づけ、重要性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	食と農の距離の拡大①(時間的・地理的距離の拡大)	農産物・食料の輸送・輸入距離をはじめとする、時間的・地理的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	食と農の距離の拡大②(段階的距離の拡大)	農産物・食料の流通・加工過程をはじめとする、段階的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	食と農の距離の拡大③(心理(意識)的距離の拡大)	農や食に関する消費者の意識をはじめとする、心理(意識)的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	地産地消・農産物直売所①(理念と背景)	地産地消の理念と歴史的背景、農産物直売所の運営原則などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	地産地消・農産物直売所②(現状と課題)	地産地消、農産物直売所の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	農商工連携①(理念と背景)	農商工連携の理念と歴史的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農商工連携②(現状と課題)	農商工連携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	産直・産消提携①(理念と背景)	産直・産消提携の理念と歴史的背景、制度や事業のしくみなどについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	産直・産消提携②(現状と課題)	産直・産消提携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農村都市交流・グリーンツーリズム①(理念と背景)	農村都市交流・グリーンツーリズムの理念と社会的・経済的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	農村都市交流・グリーンツーリズム②(現状と課題)	さまざまな種類の農村都市交流・グリーンツーリズムの取組み実態を知り、それらの役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	食農共生の主体形成	食農共生の主体形成(担い手づくり)について、農業者や消費者の組織化、民間事業者や自治体の取組み状況を知り、それぞれの役割を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	食農共生の政策	食と農を結ぶための政策の現状を理解し、これからの食農共生政策の課題と方向性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、私たちにとって食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食農ビジネス学概論、食と農の倫理、協同組合論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会	
3				

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①各回の予習確認小テストと授業後のリアクションペーパー、期間中に出题するレポート課題、担当教員やゲストへの質問など授業への積極的な姿勢（50%程度） ②定期試験もしくは期末レポート（50%程度） ※②については、今後の新型コロナの感染状況も見ながら判断し、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！
担当者の 研究室等	農学部3階 318 研究室
備考	

科目名	食品産業経営戦略論	科目名 (英文)	Food Business Strategy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	小野 雅之、副島 久実、戴 容泰思、濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3035a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、食品産業・流通系で学ぶ学生を対象として開講する。食品産業・流通系で実践的に学修し、卒業研究を行うためには、食品産業（食品製造業、食品卸売業、食品流通業、フードサービス産業）の経営戦略を学ぶことが不可欠である。本講義では、経営戦略の代表的な考え方に対する理解を深めるとともに、食品産業のなかから代表的な企業を取り上げ、その業界の構造と特徴を把握したうえで、企業の経営展開と経営戦略の具体的内容と、どのような経営成果が得られたのかを調べ、食品産業の経営の分析と考察を行う。
到達目標	① 企業の経営戦略に関する代表的な考え方を理解することができる。 ② 食品産業を構成する業界の構造と特徴を把握することができる。 ③ 企業の経営展開や経営戦略の調べ方、分析・考察の仕方を身につけることができる。
授業方法及び留意点	① 受講者全員を対象に、経営戦略に関する文献・資料等の読解を行う。 ② 個人またはグループで担当する企業を決め、企業の展開過程、経営戦略を調べるとともに、経営戦略の分析・考察を行う。 ③ 取り上げた企業の経営戦略について、全体で発表を行い、レポートを作成する。 授業の中で、アクティブラーニング（②反転授業、③ディスカッション・ディベート、④グループワーク、⑤プレゼンテーション、⑥実習・フィールドワーク）を取り入れる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についてのガイダンス	事前：シラバスの確認（15分）
	2	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
	3	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
	4	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
	5	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
	6	経営戦略に関する文献等の探索と読解	業界の構造分析の方法、代表的な経営戦略の考え方に関する文献を読解する。	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
	7	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	8	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	9	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	10	企業の経営戦略の調査・分析	個人またはグループで取り上げた企業の展開過程、経営戦略、経営分析を、担当教員の指導のもとで行う。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	11	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	12	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
	13	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
	14	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
	15	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた企業の経営戦略について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 授業に取り組む姿勢（ルーブリック評価・20%）と発表内容（40%）、レポート（40%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の 小野 雅之（食料・農業市場研究室）、濱田 英嗣（食品産業研究室）、副島 久実（農水産物・食品マーケティング研究室）、戴 容泰思（食品

研究室等	流通研究室)
備考	

科目名	女性起業論	科目名 (英文)	Female Entrepreneurship and Leaders
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3034a0		

授業概要・目的	農山漁村地域では地域資源を活かした起業活動が活発に繰り広げられている。中でも農山漁村女性による起業活動は地域活性化にも大いに期待されているものである。また、起業活動の中には、農水産物加工や直売、レストラン、体験事業、民宿など様々なタイプがある。本授業では、農山漁村女性による起業に着目し、その成立と展開、実態、課題等について実態分析を通じて理論的に学ぶ。さらに、女性起業家を外部講師として招き、実態を学ぶことで、理論と実態の両面について理解する。
到達目標	① 農山漁村女性起業の社会的・経済的意味について理解できる。 ② 農山漁村女性起業が行うビジネスやマーケティングの内容や特徴を理解する。 ③ 農山漁村女性起業が抱える課題を理解する。 ④ 農林水産物と地域をつなぐビジネスに必要な基礎知識を知る。 ⑤ 今後の農山漁村での地域資源を活かした起業活動のあり方を検討できるようになる。
授業方法と留意点	主にパワーポイントで講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても、小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	女性起業とは何か	女性起業とは何か、なぜ女性起業に注目するのかについて理解する。	事前：シラバスの理解 事後：forms
2	農業・農村と女性	農村女性の農業や農村における役割や位置づけ、抱える課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
3	林業・山村と女性	山村女性の林業や山村における役割や位置づけ、抱える課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
4	漁業・漁村と女性	漁村女性の漁業や漁村における役割や位置づけ、抱える課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
5	女性が起業する理由	農山漁村女性が起業する理由について、農山漁村や農林水産業などの特徴と関連付けて理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
6	様々なタイプの起業	様々なタイプの起業活動の内容や特徴、課題等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
7	女性起業の政策上の位置づけと支援策	農山漁村女性起業に関する政策上の位置づけや動向、支援策等について理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
8	農産加工	農産加工を行う女性起業について事例分析の内容を理解する (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：forms
9	水産加工	水産加工を行う女性起業について事例分析の内容を理解する (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：forms
10	直売	直売を行う女性起業について事例分析の内容を理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
11	レストラン	レストラン経営を行う女性起業について事例分析の内容を理解する。	事前：学習課題の予習 事後：forms
12	体験事業・民宿	体験事業や民宿経営を行う女性起業について事例分析の内容を理解する (外部講師 (予定))。	事前：学習課題の予習 事後：forms
13	経営ノウハウ	事業計画書、資金調達、経理、労務管理など起業や経営に必要なノウハウについて学び、事業計画書を自分たちで作成してみる (期末レポートとしての位置づけ)。	事前：学習課題の予習 事後：forms
14	事業計画書の発表	各自作成してきた事業計画書を発表する。	事前：発表の準備 事後：事業計画書の作成
15	女性起業のこれから	これからの女性起業のあり方について再考する。	事後：学習課題の学習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農村女性による起業と法人化	岡部守 編	筑波書房
2	社会的企業をめざす農村女性たち	澤野久美	筑波書房	
3	起業マニュアル	樋口恵子	女性労働協会	

評価方法	小課題 (クイズ、感想や授業内容についての質問を毎回 teams を通じて配布するフォームで提出) (30%)、発表 (30%)、期末レポート (事業計画
------	---

(基準)	書) (40%) で評価する予定です。合格は 60%以上とします。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	2F 教員室 216
備考	授業評価として授業中の態度や積極性も参考にします。

科目名	食品表示・認証論	科目名 (英文)	Food Labelling and Certification
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3033a0		

授業概要・目的	食品表示とは、農林水産業で生産された一次産品およびそれらの加工品を消費者が購入する時に、品質や内容を見極める重要な情報源である。我が国の食品の表示は、平成 27 年に施行された食品表示法およびそれに関連する検査・認証システムによって、一定のルールに基づいて付されている。現在の食品表示法は、消費者が食品を摂取する際の安全性及び一般消費者の自主的かつ合理的な食品選択の機会を確保することを目的とし、食品衛生法、JAS 法、健康増進法の食品表示に関する規定を統合した一元的な制度となっている。本講義では、情報経済学の理論を用いた食品表示の意義とその内容や検査・認証システム、その他、食品にまつわるシグナリングおよび海外の制度との整合性等について、専門的な知識を修得する。
到達目標	① 食品表示の意義を理解する。 ② 食品表示法で定められている表示基準の内容を理解する。 ③ 食品表示法における検査・認証システムの仕組みと意義を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書によって行い、適宜、資料やプリントを配布する。可能な範囲で、実際の食品表示が付されている食品を入手し、現物と資料を照らし合わせながら知識修得を行う。
科目学習の効果 (資格)	有機 JAS 制度の検査・認証機関での検査員および判定員が習得すべき内容を網羅している

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食品偽装事件と食品表示	現行の食品表示制度がなかった時代に勃発した事件を検証し、シグナリングとしての食品表示および制度施行の意義を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：FORMS
2	食品表示法の意義と動向	日本の食品表示法の概要や目的、基準内容や CODEX 等、国際基準の動向について理解する。	事前：食品表示の情報収集 事後：FORMS
3	JAS 法とは	JAS 法で定められている生鮮食品および加工食品の表示基準と内容、その意義について理解する。	事前：食品表示の情報収集 事後：FORMS
4	特別な生産・加工方法の食品表示制度	特別な生産・製造方法の食品の表示制度である特定 JAS 規格やそれらの認証制度の仕組みについて理解する。	事前：食品表示の情報収集 事後：FORMS
5	遺伝子組換え食品の表示制度	遺伝子組換え食品とは何かを踏まえ、その表示制度について理解する。	事前：食品表示の情報収集 事後：FORMS
6	有機食品の表示制度の歴史と必要性	有機食品および特別栽培農産物の表示制度の変遷およびその必要性について学ぶ。	事前：有機食品表示の情報収集 事後：FORMS
7	有機農産物の日本農林規格	有機農産物の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前：有機食品表示の情報収集 事後：FORMS
8	有機農産物加工食品の日本農林規格	有機農産物加工食品の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前：有機食品表示の情報収集 事後：FORMS
9	有機畜産物・飼料の日本農林規格	有機畜産物・飼料の日本農林規格の基準および検査認証システムを理解する。	事前：有機食品表示の情報収集 事後：FORMS
10	有機 JAS 制度の仕組みと認定基準	有機食品の検査・認証制度の仕組みおよび認証の技術的基準を理解する。	事前：有機 JAS 認証システムの情報収集 事後：FORMS
11	海外の有機食品の認証動向と同等性	海外における有機食品の基準・認証制度の策定動向や日本との整合性を理解する。	事前：海外の有機表示の情報収集 事後：FORMS
12	PGS (参加型認証) とは	生産者、消費者、小売業者など多くのステークホルダーで生産方法を確認する PGS ができた背景とその意義や動向について理解する。第三者認証と二者認証についてのディベートを行う。	事前：PGS に関する情報収集 事後：FORMS
13	GAP や HACCP とは	GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) や HACCP の仕組みやこれらが必要となった時代背景や動向について理解する。	事前：GAP や HACCP に関する情報収集 事後：FORMS
14	食品にまつわる様々なシグナリング	国産農林水産物の消費拡大の取り組みであるフード・アクション・ニッポンのプロジェクト、和食の PR、スマイルケア食など、食品にまつわる様々なシグナリングについて理解する。	事前：食品のシグナリングの情報収集 事後：FORMS
15	総括および理解到達度	食品表示および検査・認証システムに関する講義の総まとめと理解到達度の確認を行う。	事前：総復習 事後：FORMS

関連科目 食農ビジネス学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	とくに指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っておきたい食品の表示		消費者庁

	2			
	3			
評価方法 (基準)	FORMS30% 定期試験 70%で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	食品表示の専門的な知識をつけることで、普段の食品選択や食品関連の就職時に役立てましょう			
担当者の 研究室等	8号館 317号室			
備考				

科目名	農水産物マーケティング論	科目名 (英文)	Marketing of Agricultural and Fishery Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3032a0		

授業概要・目的	これまで構築されてきたマーケティング理論は「作った製品を売るのではなく、売れる製品を作る」という発想からなされてきた。そのため、農水産物にはなじまないという指摘もある。しかし、たとえ農水産物にはなじまない側面があるとしても、基本的なマーケティングの考え方と基本的な理論を理解していなければ、そうした側面に気づくことができない。そこで本授業ではマーケティングの考え方と基本的な理論を学ぶことを通じて、随時、農水産物マーケティングの事例を盛り込み、農水産物マーケティングのあり方について検討していく。
到達目標	① マーケティングの基本概念について理解できる。 ② マーケティングのマネジメントについて理解する。 ③ 関係のマネジメントについて理解する。 ④ マーケティングの発想を身につける。 ⑤ 農水産物のマーケティングのあり方について理解する
授業方法及び留意点	主にパワーポイントを用いて講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。 対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング発想の経営</td> <td>マーケティング発想の経営について学ぶ。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マーケティング論のなりたち</td> <td>マーケティング論とは何か、マーケティングの誕生と発展について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>マーケティングの基本概念</td> <td>マーケティングの基本概念 (STP や 4P) 等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>戦略的マーケティング</td> <td>経営戦略とマーケティング戦略、戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ・マトリックス等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>製品のマネジメント</td> <td>製品のマネジメント (製品戦略、市場機会の分析、アイデアの創出とスクリーニング、製品設計、生産工程設計、市場導入、製品ライフサイクル管理等) について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>価格のマネジメント</td> <td>工業製品と農水産物の価格の組み立ての違いを理解しながら価格のマネジメントについて学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>広告のマネジメント</td> <td>消費者対応、競争者対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス等から広告のマネジメントについて学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>チャネルのマネジメント</td> <td>工業製品と農水産物の流通経路の違いを理解し、チャネル選択、チャネル管理等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>サプライチェーンのマネジメント</td> <td>サプライチェーンとは何かについて学び、工業製品と農水産物のサプライチェーンマネジメントの共通性と差異性について理解する。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>営業のマネジメント</td> <td>営業活動の重要性とマネジメントについて学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>顧客関係のマネジメント</td> <td>顧客関係の構築、ジレンマ、顧客マネジメント等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>顧客理解のマネジメント</td> <td>顧客を理解するためのマーケティング・リサーチやマネジメントについて学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ブランド構築のマネジメント</td> <td>ブランドとは何か、ブランドの機能、ブランドの効果、ブランド組織、地域ブランド、農水産物のブランド化の現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>マーケティングと労働、ジェンダー</td> <td>管理する者と管理される者、男と女という、議論の多い2種類の社会関係を機軸にマーケティングのあり方について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>企業の社会責任と社会が変わるマーケティング</td> <td>マーケティングと企業が行う社会責任活動とがどのように結びつくのか、「社会が変わるマーケティング」とは何かについて学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	マーケティング発想の経営	マーケティング発想の経営について学ぶ。	事前：シラバスの理解	2	マーケティング論のなりたち	マーケティング論とは何か、マーケティングの誕生と発展について学ぶ。	事後：学習課題の学習	3	マーケティングの基本概念	マーケティングの基本概念 (STP や 4P) 等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	4	戦略的マーケティング	経営戦略とマーケティング戦略、戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ・マトリックス等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	5	製品のマネジメント	製品のマネジメント (製品戦略、市場機会の分析、アイデアの創出とスクリーニング、製品設計、生産工程設計、市場導入、製品ライフサイクル管理等) について学ぶ。	事後：学習課題の学習	6	価格のマネジメント	工業製品と農水産物の価格の組み立ての違いを理解しながら価格のマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習	7	広告のマネジメント	消費者対応、競争者対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス等から広告のマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習	8	チャネルのマネジメント	工業製品と農水産物の流通経路の違いを理解し、チャネル選択、チャネル管理等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	9	サプライチェーンのマネジメント	サプライチェーンとは何かについて学び、工業製品と農水産物のサプライチェーンマネジメントの共通性と差異性について理解する。	事後：学習課題の学習	10	営業のマネジメント	営業活動の重要性とマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習	11	顧客関係のマネジメント	顧客関係の構築、ジレンマ、顧客マネジメント等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	12	顧客理解のマネジメント	顧客を理解するためのマーケティング・リサーチやマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習	13	ブランド構築のマネジメント	ブランドとは何か、ブランドの機能、ブランドの効果、ブランド組織、地域ブランド、農水産物のブランド化の現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事後：学習課題の学習	14	マーケティングと労働、ジェンダー	管理する者と管理される者、男と女という、議論の多い2種類の社会関係を機軸にマーケティングのあり方について学ぶ。	事後：学習課題の学習	15	企業の社会責任と社会が変わるマーケティング	マーケティングと企業が行う社会責任活動とがどのように結びつくのか、「社会が変わるマーケティング」とは何かについて学ぶ。	事後：学習課題の学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	マーケティング発想の経営	マーケティング発想の経営について学ぶ。	事前：シラバスの理解																																																														
2	マーケティング論のなりたち	マーケティング論とは何か、マーケティングの誕生と発展について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
3	マーケティングの基本概念	マーケティングの基本概念 (STP や 4P) 等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
4	戦略的マーケティング	経営戦略とマーケティング戦略、戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ・マトリックス等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
5	製品のマネジメント	製品のマネジメント (製品戦略、市場機会の分析、アイデアの創出とスクリーニング、製品設計、生産工程設計、市場導入、製品ライフサイクル管理等) について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
6	価格のマネジメント	工業製品と農水産物の価格の組み立ての違いを理解しながら価格のマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
7	広告のマネジメント	消費者対応、競争者対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス等から広告のマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
8	チャネルのマネジメント	工業製品と農水産物の流通経路の違いを理解し、チャネル選択、チャネル管理等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
9	サプライチェーンのマネジメント	サプライチェーンとは何かについて学び、工業製品と農水産物のサプライチェーンマネジメントの共通性と差異性について理解する。	事後：学習課題の学習																																																														
10	営業のマネジメント	営業活動の重要性とマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
11	顧客関係のマネジメント	顧客関係の構築、ジレンマ、顧客マネジメント等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
12	顧客理解のマネジメント	顧客を理解するためのマーケティング・リサーチやマネジメントについて学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
13	ブランド構築のマネジメント	ブランドとは何か、ブランドの機能、ブランドの効果、ブランド組織、地域ブランド、農水産物のブランド化の現状と課題等について学ぶ (外部講師 (予定))。	事後：学習課題の学習																																																														
14	マーケティングと労働、ジェンダー	管理する者と管理される者、男と女という、議論の多い2種類の社会関係を機軸にマーケティングのあり方について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														
15	企業の社会責任と社会が変わるマーケティング	マーケティングと企業が行う社会責任活動とがどのように結びつくのか、「社会が変わるマーケティング」とは何かについて学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
番号	書籍名	著者名	出版社名														

	1	1からのマーケティング	石井淳蔵、廣田章光	中央経済社
	2	マーケティング論	保田芳昭	大月書店
	3	社会が変わるマーケティング	フィリップ・コトラー、ナンシー・リー	英治出版
評価方法 (基準)	成績は主に期末レポート(50%)と小課題(クイズ、感想や授業内容についての質問を毎回 teams を通じて配布するフォームで提出)(50%)で評価し、60%以上で合格とします。			
学生への メッセージ	講義内容の理解を深化させるため、日ごろから新聞やニュース等を通じて、関連するトピックについて常に興味を持って情報を集めることや調べることをお勧めします。			
担当者の 研究室等	2F 教員室 216			
備考	成績評価では授業態度や積極性についても参考とします。			

科目名	水産物流通論	科目名 (英文)	Distribution and Marketing System of Fishery Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2031a0		

授業概要・目的	水産業の現状と課題、水産物の商品特性、水産物流通の仕組みを学び、水産物流通の特徴（産地市場と消費地市場の制度や機能等）や現代的な特徴（市場外流通の拡大、産地販売力の強化、水産物ブランド化の取り組み、6次産業化、量販店における水産物販売の動向等）について理解する。また、現代的な水産物消費の動向とその背景や要因、水産物流通・消費の中の輸入水産物の浸透等についても学び、これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討していく。																																																																		
到達目標	① 水産業の基本的な構造を理解できる。 ② 水産物の商品特性や水産物流通の仕組み、特徴等について理解する。 ③ 水産物流通の現代的な特徴を理解する。 ④ 水産物消費の動向とその背景・要因、輸入水産物の関係等について理解する。 ⑤ これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討できるようになる。																																																																		
授業方法及び留意点	主にパワーポイントを使って講義を行い、必要に応じて資料をPDFでTeams上に配布します。対面か非対面かについては、大学の方針に従います。対面で授業を実施する場合においても小課題の提出等、授業の中でteamsを使用する予定です。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水産物と水産業の特徴</td> <td>水産物と水産業の特徴について理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水産業の現状と課題</td> <td>水産業の現状と課題について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水産物消費</td> <td>水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>水産物流通のしくみ</td> <td>水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>産地市場の仕組みと機能</td> <td>産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費地市場の仕組みと機能</td> <td>消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>市場外流通</td> <td>水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>水産物の輸出入</td> <td>水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>量販店における水産物販売</td> <td>量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>水産物の加工品の特徴</td> <td>水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>水産加工業の現状と動き</td> <td>水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水産物のブランド化</td> <td>水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ（外部講師（予定））</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>新しい水産物流通</td> <td>6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際的な水産物需給の動向</td> <td>諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：forms</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水産業のこれから</td> <td>一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。</td> <td>事前：全学習範囲の復習 事後：forms</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	水産物と水産業の特徴	水産物と水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解 事後：forms	2	水産業の現状と課題	水産業の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	5	産地市場の仕組みと機能	産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	6	消費地市場の仕組みと機能	消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	7	市場外流通	水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	8	水産物の輸出入	水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	9	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	10	水産物の加工品の特徴	水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	11	水産加工業の現状と動き	水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	12	水産物のブランド化	水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ（外部講師（予定））	事前：学習範囲の予習 事後：forms	13	新しい水産物流通	6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	14	国際的な水産物需給の動向	諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。	事前：学習範囲の予習 事後：forms	15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事前：全学習範囲の復習 事後：forms
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	水産物と水産業の特徴	水産物と水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解 事後：forms																																																																
2	水産業の現状と課題	水産業の現状と課題について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
5	産地市場の仕組みと機能	産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
6	消費地市場の仕組みと機能	消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
7	市場外流通	水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
8	水産物の輸出入	水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
9	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
10	水産物の加工品の特徴	水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
11	水産加工業の現状と動き	水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
12	水産物のブランド化	水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ（外部講師（予定））	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
13	新しい水産物流通	6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
14	国際的な水産物需給の動向	諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。	事前：学習範囲の予習 事後：forms																																																																
15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事前：全学習範囲の復習 事後：forms																																																																
関連科目	農畜産物流通論、フードシステム論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	特に指定しない																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ポイント整理で学ぶ水産経済</td> <td>廣吉勝治・佐野雅昭 編</td> <td>北斗書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食料・農産物の流通と市場</td> <td>日本農業市場学会 編</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポイント整理で学ぶ水産経済	廣吉勝治・佐野雅昭 編	北斗書房	2	食料・農産物の流通と市場	日本農業市場学会 編	筑波書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポイント整理で学ぶ水産経済	廣吉勝治・佐野雅昭 編	北斗書房																																																																
2	食料・農産物の流通と市場	日本農業市場学会 編	筑波書房																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	成績は主に期末レポート（50%）と小課題（クイズ、感想や授業内容についての質問を毎回 teams を通じて配布するフォームで提出）（50%）で評価する予定で、60%以上で合格とします。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	農学部 2階教員室 216																																																																		
備考	成績評価では授業態度や積極性についても参考とします。																																																																		

科目名	農畜産物流通論	科目名 (英文)	Distribution of Agricultural and Livestock Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	戴 容 泰 思
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2030a0		

**授業概要・目的**

TPP やメガ EPA など関税削減・撤廃の動きは、より多くの安価な海外産農畜産物が日本に輸入されることを意味する。消費者にとって安価かつ多様な食材が手に入るという安易な考え方もある。しかし中長期的にみれば、食料自給率のさらなる低下に拍車がかかり、日本農業がほぼ完全に国際競争にさらされ、国内の食料生産基盤が存続の危機に直面することが、次世代の食卓に関わってくる重大な問題である。特に関税収入などによる補助金支援の下で成り立っている畜産部門が大きな衝撃を受ける。畜産物のフードシステムは、採れた状態で流通できる青果物と異なり、繁殖や肥育、と畜、搾乳などの工程を必要のため、加工流通業者など非農業資本の企業的動きが大きな影響をもたらす。本授業では、こうした背景と特徴をもつ農畜産物とりわけ食肉や卵、牛乳・乳製品など皆さんにも馴染みのある品目の流通システムについて理解する。海外の畜産流通についてもふれる。

**到達目標**

① 日本における農畜産物流通の現状と背景について理解し、自分の言葉をもって説明・記述できる。  
 ② 授業で取り上げた品目別の生産・流通・消費の特徴を理解し、自分の食生活や日常経験などに関連付けて説明できる。  
 ③ ①と②を踏まえて、国際市場に取り込まれている日本の農畜産物流通の現状と課題に対する自分（いち消費者 or 将来的に食農分野に従事したい者などとして）の意識と行動がどうあるべきかを考え、説明できる。

**授業方法と留意点**

- MS Teams, Forms 等を使用する。Teams コードを用いて事前に授業チームに登録すること。
- 授業中の学習：要点などのメモを取りながらレクチャーに集中すること。積極的に学習活動に参加すること。
- 授業外の学習：
  - 毎回の学習資料を予習、復習に活用し、課題（小テストやふりかえりシート等）を完成させること。
  - 提出物を期限までに提出すること。期限は延長しない。
  - 農業、食品工場、スーパーやコンビニなど身近な産業、そして自分自身の「食卓」に、どんな商

**科目学習の効果（資格）**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	【オリエンテーション】今日の食料・農業と食品の流通を見る視点	私たちの食生活と流通と関連して説明しつつ、農産物・食品の流通に求められる視点について理解する。また、本授業のねらい、進め方、皆さんがこの授業で達成すべきゴールおよび成績の評価方法について共有する。	事前：シラバスの理解 事後：課題の完成
2	食品流通のしくみと価格形成	農畜産物・食品の商品としての共通した特性、流通組織体など食品流通の基本的しくみと、需給曲線や価格弾力性など価格に関する理論の基本部分を学ぶ。	事後：課題の完成
3	農畜産物・食品の流通機構	商業と流通組織の展開をふまえ、農産物・食品流通の現段階的特質と展開方向について学ぶ。	事後：課題の完成
4	青果物の流通と卸売市場	生鮮の野菜、果物など、私たちの食生活に欠かせない青果物の流通の仕組みとその変化について学ぶ。	事後：課題の完成
5	加工食品の流通と食品卸売業	現代人の食事を大きく支える加工食品の流通とその担い手について解説し、食品卸売業の市場の特徴について理解する。	事後：課題の完成
6	日本の生乳流通と乳業	牛乳・乳製品の原料となる生乳の市場構造の変化メカニズムについて解説し、日本の酪農・乳業の特徴について理解する。	事後：課題の完成
7	牛肉のフードシステム	欧米との比較分析からみる日本の牛肉のフードシステムについて学び、現段階の国産牛肉市場の問題点について検討する。	事後：課題の完成
8	豚肉は食卓から消えるのか？	豚肉の生産・流通に取り巻く環境と差額関税の問題点について解説し、豚肉の安定供給と国内養豚産業の存続の課題について考える。	事後：課題の完成
9	鶏：システムティック生産と流通	消費者にとっても手頃なイメージをもつ鶏肉と鶏卵を、誰か、どのように生産・流通されているかについて学び、その特徴について理解する。	事後：課題の完成
10	日本人はどう肉を食べているのか？	我々が誇る和牛への思いとかけ離れた日本食肉市場の現実とその特徴的な傾向を、いくつかの衝撃的なエビデンスをもって示し、日本の食肉市場の立ち位置を再確認する。	事後：課題の完成
11	農畜産物流通に係る人々	農畜産物の加工や物流を担う人々の存在がなければ、フードシステムが成り立たない。とりわけ畜産物加工・流通業の労働者の社会的地位や現状について説明し、これらの人々の役割とその重要性について理解する。	事後：課題の完成
12	【プレゼンテーション】「私」の食卓を支える農畜産物の流通①	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらおう。受講者数を4回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出
13	【プレゼンテーション】	自分自身の食生活に関連づけながら、こ	事前：発表スライドの作成と提出

		「私」の食卓を支える農畜産物の流通②	の授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。受講者数を4回に分けて行う。	事後：期末レポートの提出																
	14	【プレゼンテーション】 「私」の食卓を支える農畜産物の流通③	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。受講者数を4回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出																
	15	【プレゼンテーション】 「私」の食卓を支える農畜産物の流通④	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。受講者数を4回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出																
関連科目	食料・農業市場論（2年次前期） 食品産業論（2年次前期） 水産物流通論（2年次後期） 農水産物マーケティング論（3年次前期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農産物・食品の市場と流通</td> <td>日本農業市場学会</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	プレゼンテーション（20%）、課題（30%）、期末レポート（50%）で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	<p>(1) 第1回のオリエンテーションで授業の実際の進め方と評価方法などについて説明しますので、必ず出席してください。</p> <p>(2) 本科目は選択科目であるが、流通は商学にも属しているため、ビジネスを考える上で避けておれない分野である。これから食農ビジネス関連の仕事に従事したい場合は、この授業で学んだことが役に立つ。</p>																			
担当者の 研究室等	8号館2階215教員室																			
備考	解説内容に応じて授業内容を調整する場合がある。また、農畜産物流通現場の実務者をゲストスピーカー（外部講師）として授業に招く場合がある（最大2名）。																			

科目名	食料・農業市場論	科目名 (英文)	Food and Agricultural Market
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2029a0		

授業概要・目的  
今日の市場経済のもとでは、農業経営や食品製造業、さらには消費者も、さまざまな側面で市場との関係を持っており、食農ビジネス学を学ぶうえで、食料・農業市場に関する知識を身につけることが必要である。本講義は、食料・農業市場に関して、第一に、食料・農産物の市場と流通に関する基礎理論を踏まえて、その特徴と構造、現状について講義するとともに、第二に、農業経営に関連する諸市場の構造の特徴と、生産資材流通の現状について講義する。さらに、食料・農業市場の今後のあり方について講義する。  
授業担当者は、地方自治体の農林技術部門における実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標  
① 食料・農業の市場と流通に関する理論的な考え方を身につけることができる。  
② 食料・農産物の市場構造と流通の現状について理解することができる。  
③ 農業経営をとりまく諸市場の構造と現状について理解することができる。  
④ これらの知識をもとに、食農ビジネスの課題を発見し、これからの食農ビジネスのあり方を考えるために応用できるようになる。

授業方法と留意点  
配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。  
授業内容の理解を深めるために、毎回の授業内容への理解を深めるため、小テストや小レポートを実施する。小テスト・小レポートの解答結果については、次回の授業で解説を行う。  
授業の一部に反転授業やグループ・ディスカッションを取り入れる。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、食料・農業市場のとらえ方	事前：シラバスの理解 事後：食料・農業市場のとらえ方の確認、小テスト・レポートの作成・提出
2	I 食料・農産物の市場と流通 1. 農産物の市場と流通	農業生産の特徴と農産物の市場構造、農産物の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
3	2. 加工食品の市場と流通	食品製造業の構造と特徴、加工食品の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
4	3. 流通のとらえ方	流通の必要性と役割、流通の機能	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
5	4. 流通チャネル	流通チャネルの多様性とその要因	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
6	5. 流通の担当者	流通における卸売業者・小売業者・物流業者の役割	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
7	6. 生産者・消費者と流通	生産者・消費者にとっての流通の役割、流通活動と流通コストの考え方	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
8	II 農業と農業市場 1. 農業経営に関連する諸市場	農業経営に関連する市場の種類と役割	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
9	2. 農産物の市場	農業経営にとっての農産物市場の役割、農産物流通の流通経路	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
10	3. 農業機械市場	農業機械産業の構造と特徴、農業機械流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
11	4. 農薬市場	農薬産業の構造と特徴、農薬流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
12	5. 肥料市場	肥料産業の構造と特徴、肥料流通の特徴の現状	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
13	6. 飼料市場	畜産農業経営と飼料市場、飼料供給の構造と特徴、飼料流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
14	7. 農地市場	農地市場の特徴、農地の権利移動の現状	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出
15	講義のまとめ	食料・農業市場の課題と今後のあり方	事前：学習範囲の予習 事後：小テスト・レポートの作成・提出

関連科目 フードシステム論, 食品産業論, 農畜産物流通論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	毎回講義資料等を配付する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて紹介する		
2			
3			

評価方法 (基準) 中間テスト・毎回の小テスト (60%) と期末定期試験 40% で評価し、60% 以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 食料・農業市場研究室 (8号館2階, 教員室218)

備考

科目名	食品産業論	科目名 (英文)	Food Industry
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2028a0		

授業概要・目的	農漁業、食品製造業、外食産業、食品流通業等で構成される食品産業の就業者数は我が国産業全体の約20%を占め、重要な産業として位置している。本講義では食品産業の多様性や特徴について、個別業種の技術革新や競争構造さらに市場戦略などを含め総合的に学び、食品ビジネスに関する理解を深める。また、食生活に密着した食品産業の特色として、その盛衰が消費者ニーズの変化に大きく関係していることから、家庭・家族の変容(単身世帯・高齢化・女性の社会進出等)や食生活の変化に食品産業がどのように対応してきたかについても学ぶ。																																																																		
到達目標	① 戦後から高度経済成長を経て低成長に至った日本経済について理解する。 ② 日本経済の状況変化の中で、家族・家庭と食生活がどう変化したのか理解する。 ③ 家族・家庭構造の変化とともに、食品産業がどう推移したのか理解する。 ④ 食品市場が文化的消費から合理的な文明的消費に推移したか、説明できる。 ⑤ 食品産業が近代的な食品産業に推移していることが理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を中心に授業を行う。授業はわかり易い講義を心がける。講義の理解度をはかるために、授業終了後毎回課題を提示し、レポートを作成すること(1時間)。また、事前に次回の学習内容を告知し準備すべき点を指示するので予習を行うこと(1時間)。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品産業の構成主体</td> <td>食品産業の枠組を理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>産業構造の変化</td> <td>日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>核家族化</td> <td>社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食の簡便化</td> <td>食生活の全般的推移を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>業種から業態への移行</td> <td>食品スーパーの成長を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>肉食比率の低下</td> <td>外食・中食の成長を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>原料調達先の変化</td> <td>加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>個別業種(小麦製粉業界)</td> <td>小麦粉製造業の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>個別業種(パン業界)</td> <td>製パン業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>個別業種(ビール業界)</td> <td>ビール業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>個別業種(清酒業界)</td> <td>清酒業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>個別業種(即席ラーメン業界)</td> <td>即席麺業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>個別業種(カマボコ業界)</td> <td>水産練製品業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>個別業種(加工ノリ業界)</td> <td>加工海苔業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>食品産業の盛衰と展望</td> <td>食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。また、近年のフードテックの動向から食品産業の未来を展望する。</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	食品産業の構成主体	食品産業の枠組を理解する。	事前：シラバスの理解	2	産業構造の変化	日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	3	核家族化	社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	4	食の簡便化	食生活の全般的推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	5	業種から業態への移行	食品スーパーの成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	6	肉食比率の低下	外食・中食の成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	7	原料調達先の変化	加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	8	個別業種(小麦製粉業界)	小麦粉製造業の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	9	個別業種(パン業界)	製パン業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	10	個別業種(ビール業界)	ビール業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	11	個別業種(清酒業界)	清酒業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	12	個別業種(即席ラーメン業界)	即席麺業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	13	個別業種(カマボコ業界)	水産練製品業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	14	個別業種(加工ノリ業界)	加工海苔業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	15	食品産業の盛衰と展望	食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。また、近年のフードテックの動向から食品産業の未来を展望する。	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	食品産業の構成主体	食品産業の枠組を理解する。	事前：シラバスの理解																																																																
2	産業構造の変化	日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
3	核家族化	社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
4	食の簡便化	食生活の全般的推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
5	業種から業態への移行	食品スーパーの成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
6	肉食比率の低下	外食・中食の成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
7	原料調達先の変化	加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
8	個別業種(小麦製粉業界)	小麦粉製造業の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
9	個別業種(パン業界)	製パン業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
10	個別業種(ビール業界)	ビール業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
11	個別業種(清酒業界)	清酒業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
12	個別業種(即席ラーメン業界)	即席麺業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
13	個別業種(カマボコ業界)	水産練製品業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
14	個別業種(加工ノリ業界)	加工海苔業界の歴史と特徴、企業間競争を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
15	食品産業の盛衰と展望	食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。また、近年のフードテックの動向から食品産業の未来を展望する。	事後：レポートの提出																																																																
関連科目	フードシステム論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品産業新展開の条件</td> <td>山本博信</td> <td>農林統計出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品産業新展開の条件	山本博信	農林統計出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品産業新展開の条件	山本博信	農林統計出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(70%)、レポート課題(30%)。																																																																		
学生へのメッセージ	様々な地域に様々な規模の食品企業があることを学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等	8号館2階 食品産業研究室(217)																																																																		
備考																																																																			

科目名	フードシステム論	科目名 (英文)	Economics of Food System
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1027a0		

授業概要・目的	農漁業から、それら生産物を取り扱う流通業を経由して、川下の食品小売業、外食産業さらに最終需要者である消費者に至る食料品全体の流れをフードシステムとして理解する。生産現場から食卓に至る過程を社会的分業という視点にたつて、フードシステムを構成している生産者、中間流通業者、小売業者それぞれがどのような役割(機能分担)を演じているのかを総合的に学ぶ。さらに、魚離れ問題に代表される日本人の食生活・食文化の崩壊・食品需要の縮減の中で、新たに組み込まれている農水産物の輸出や消費者に対する食育や和食文化についても理解を深める。
到達目標	① フードシステム(生産者、中間流通業者、小売業者)それぞれの役割分担が理解できる。 ② 一次産業の現状について理解できる。 ③ なぜ、食料品の価格変動が工業製品に比べ激しいのか、需給構造等から説明できる。 ④ 魚屋などの家族経営が減少し、食品スーパーなどに小売業が移行したことが理解できる。 ⑤ 食の外部化のメリット、デメリットについて説明することができる。 ⑥ 和食文化の核である出汁や醤油、和包丁や箸の起源と特徴を理解できる。
授業方法と留意点	講義内容に沿って必要資料などを組み込み、わかり易い授業を心がける。 講義の理解度を高めるため授業終了時に適宜課題を提示するので、レポートを作成すること(1時間)。また、事前学習内容と準備すべき点を毎回指示するので予習を行うこと(1時間)。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	フードシステムの概要	我が国のフードシステムを構成する業種・業態の概要(社会的分業)を説明する。	事前: シラバスの理解
	2	農漁業に関する諸問題	一次産業の衰退とその背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	3	低い食料自給率	輸入農水産物の流入経緯と一次産業への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	4	中間流通の基本的仕組み	卸売市場流通の誕生とその仕組みを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	5	中間流通の変化	市場外流通の進展と卸売市場の変容を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	6	家族経営型専門小売店の衰退	家族経営型専門小売店の衰退とスーパーチェーンの成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	7	スーパーチェーンの成長理由	スーパーチェーン組織の仕組みと運営からスーパーの成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	8	スーパーチェーンの取引実態	スーパーチェーンの売買取引と価格形成への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	9	中食・外食産業の誕生と成長	中食・外食産業の誕生の経緯とその成長メカニズムを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: レポートの提出
	10	食生活の変貌	文化的消費から文明的(記号価値)消費への移行を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	11	社会問題としての食料消費	飽食・豊食と食育の必要性を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	12	和食文化	肉食文化と米・魚食文化の比較と背景を理解する。また、出汁や和包丁など日本料理のオリジナリティを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	13	トレーサビリティ	食の安全・安心につながるトレーサビリティについて理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	14	食育基本法	食生活の乱れに対し、国が制定した食育基本法について理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
	15	食をめぐる生産・流通・消費の展望	フードシステム問題の総括	事後: 学習課題の学習

関連科目	食品産業論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版株式会社
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 30%
----------	-------------------

学生へのメッセージ	フードシステム論で身近な食を色々な観点から深く学びましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等備考	8号館2階 食品産業研究室(217)
------------	--------------------

科目名	食農ビジネス実践論	科目名 (英文)	Food and Agriculture Business Practice
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修A(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介、浦出 俊和、成 善政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE3026a0		

授業概要・目的	食農ビジネス学科の選択必修科目Aの一つであり、農業経済・経営・政策系で学ぶ学生を対象として開講する。農業経済・経営・政策系で実践的に学修し、卒業研究を行うためには、食農ビジネスの実践事例から学ぶことが不可欠である。本講義では、フィールドワークをつうじて食農ビジネスの経営に関する基本的な考え方に対する理解を深めるとともに、先進的な実践事例を取り上げ、その実践の背景、目的、取り組みの過程と内容を調べ、その成果と意義について考察を行う。
到達目標	① 食農ビジネスの実践に関する代表的な考え方を理解することができる。 ② 食農ビジネスの先進的な実践事例の背景、目的、取り組みの経過と内容を把握することができる。 ③ 食農ビジネスの先進的な実践事例の調べ方、分析・考察の仕方等を身につけることができる。
授業方法と留意点	① 受講者全員を対象に、食農ビジネスの先進事例に関する文献・資料等の読解を行う。 ② 個人またはグループで担当する事例を決め、事例の実践の背景、目的、取り組みを調べるとともに、成果と意義の考察を行う。 ③ 取り上げた実践事例について、全体で発表を行い、レポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についてのガイダンス	事前：シラバスの確認
2	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
3	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
4	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
5	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
6	実践事例に関する文献等の探索と読解	食農ビジネスの先進的な実践事例に関する文献・資料等の探索と読解	事前：文献等の探索・読了 事後：講義の内容の確認
7	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
8	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
9	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
10	実践事例の取り組みの把握・分析	個人またはグループで取り上げた事例の取り組みの背景、目的、取り組みの内容を把握し、成果と意義の考察を、担当教員の指導のもとで行うとともに、発表内容を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
11	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
12	発表の準備	発表内容を検討し、資料を作成する。	事前：担当教員の指示に基づく 事後：担当教員の指示に基づく
13	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
14	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成
15	調査・分析結果の発表	個人またはグループで取り上げた事例の実践について発表し、意見交換を行う。	事前：発表の準備 事後：レポートの作成

関連科目 農業経営管理論, 6次産業経営論, 地域マネジメント論, 都市農業論, 食農ビジネス最前線, 社会調査論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (ルーブリック評価・20%) と発表内容 (40%)、レポート (40%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	柳村 (315), 成 (314), 浦出 (313)
備考	

科目名	地域マネジメント論	科目名 (英文)	Rural Resource Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3025a0		

授業概要・目的	社会経済構造の大きな変化により、地域における複雑かつ多様な諸問題に対して、地域の「自立」「活性化」の重要性が高まっている。そこでは、地域資源を見直し、その適正な利用・管理、すなわち、マネジメントが必要である。 本授業では、地域マネジメントの考え方とその対象が有する特質を整理した上で、農村地域における活性化への具体的な取組み（グリーン・ツーリズム、地域ブランド化、バイオマスの利活用）について、地域マネジメントの視点から考察する。
到達目標	①地域マネジメントに関する基本的な知識を習得する。 ②農村地域が抱える諸問題について理解する。 ③それら諸問題を解決する取組みの特徴と課題を理解する。 ④農村地域における活性化について、問題と課題を整理し、解決策を考える能力を身につける。

授業方法と留意点	授業方法は、板書を主に講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。また、視聴覚教材（ビデオ）を用いた授業や、外部講師による授業を受講して、グループまたはクラス全体でのディスカッションも行う。講義の理解度をはかるために、ミニレポートを実施するとともに、授業のための事前調査の課題を課すことがある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地域概念	地域概念の整理を通じて、地域の捉え方を理解する。	事前：シラバスの理解
2	地域マネジメントとは？	地域マネジメントの定義とその重要性を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
3	地域マネジメントのフレームワーク	地域マネジメントのフレームワークについて理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
4	地域資源の特質	地域資源の特質を整理するとともに、特に、ローカル・コモンズをめぐる諸問題について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
5	多様な地域経営主体の特質	地域経営主体について、その多様性と特徴を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
6	ニュー・パブリック・マネジメント	ニュー・パブリックマネジメントにおける地域マネジメントのあり方について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
7	グリーン・ツーリズムの展開	グリーン・ツーリズムの変遷を通じて、その展開と農村地域へ及ぼした影響について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
8	グリーン・ツーリズムにおける地域マネジメント	グリーン・ツーリズムが展開した地域を取り上げ、当該地域における地域マネジメント上の課題を学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
9	地産地消活動の実態	地産地消活動の実態を学ぶとともに、地産地消運動が抱える諸問題を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
10	地域ブランド化戦略	地域ブランド化とは何かを理解するとともに、地域マネジメントにおけるその戦略について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
11	農村コミュニティビジネスの展開	農村コミュニティビジネスの実態とその展開を学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
12	農村コミュニティビジネスにおける地域マネジメント	農村コミュニティビジネスを展開する上での、地域マネジメントの役割について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
13	バイオマスの利活用	農村地域におけるバイオマスの利活用の実態と、それによる地域内循環型社会の構築の重要性について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
14	バイオマスの利活用における地域マネジメント	農村地域におけるバイオマスの利活用を促進するための地域マネジメントの役割について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
15	地域マネジメントと地域戦略	地域マネジメントにおける地域戦略の重要性を理解するとともに、そのあり方について学ぶ。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読

関連科目	食料・農業・農村政策論・農業経営管理論・6次産業経営論・農村社会学・社会調査論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域ブランドと魅力あるまちづくりー産業振興・地域おこしの新しいかたち	佐々木一成	学芸出版
	2	都市農村交流の経済分析	大江 靖雄	農林統計出版
	3	農村コミュニティビジネスとグリーン・ツーリズム	宮崎 猛	昭和堂

評価方法 (基準)	授業中に指示するミニレポート課題 (60%) およびプレゼンテーション (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生への	
------	--

メッセージ	
担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室
備考	

科目名	6次産業経営論	科目名 (英文)	Sextiary Industry Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	成 春政
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2024a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、農業経済・経営分野の専門科目として位置づけられた選択科目の一つである。本講義では、主に、日本農業における大きな可能性ともいえる6次産業（1次産業：生産物の生産×2次産業：農産加工・製造業など×3次産業：生産物や外注加工品の流通その他の利用など）を対象にさまざまな経営学的手法と理論からアプローチを行う。そして、6次産業の制度的仕組み、政策的支援、実態と課題、今後の可能性などについて講義を行う。
到達目標	① 6次産業経営のための基礎的経営理論を理解できる。 ② 農の6次産業化の制度的仕組みと実態が理解できる。 ③ 付加価値を高めることで、所得と雇用の場を確保し、農村地域の活性化という6次産業化の目的を理解できる。 ④ ケーススタディの手法について理解できる。
授業方法と留意点	講義室での講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて講義内容に関連したトピックも取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスと担当教員から提示された事前・事後学習を必ず行うこと。とくに注意事項として、レポートの配点が高い（60%）ので、提示されたテーマに対してしっかり調べ、レポートを作成・提出すること。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (6次産業化と日本農業・地域活性化)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、日本農業の現状、6次産業化による農業・農村地域活性化などについて講義する。	事前：シラバスの理解と日本農業の現状などについて調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
2	6次産業化の理解 (I) - 背景、概念 -	日本における6次産業化が必要な根拠、背景、発想の根拠、概念などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
3	6次産業化の理解 (II) - 政策、現況、課題 -	6次産業化に対する国の政策と支援、現況、主な基本課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
4	6次産業のビジネスモデル	ビジネスモデルに対する概念的考察、ビジネスモデルの開発、6次産業化のビジネスモデルをコミュニティタイプ、プランチャイズタイプ、そしてネットワークタイプに分けて、その適用などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
5	6次産業経営組織論	6次産業経営を対象にし、そのモチベーション、リーダーシップ、組織デザイン、組織構造、組織文化と意思決定、組織学習などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
6	6次産業戦略論 (I) - ブランド戦略 -	経営戦略の基礎、ブランドの概念と地域ブランドの構築とその手法、特徴、課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
7	6次産業戦略論 (II) - 成長戦略 -	成長戦略に関する基礎概念、市場での優位性の確保、新製品・サービスの開発の手法と課題、新市場の開拓、新規価値の創造などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
8	事業計画書の作成	事業計画の動機（資源、市場と分野、事前調査）、事業アイデア、実際の計画書の作成、注意事項、良い例、悪い例などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
9	6次産業化と商品開発	商品開発の概念、プロセス、マネジメント、デザイン、商品開発の求められるスキルなどについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
10	6次産業化と知的財産	知的財産に関する基本概念（定義、分類、必要性）の考察、6次産業に対する知的財産の評価手法（間接的評価手法と直接的評価手法）の考察、知的財産評価の事例分析（背景、管理体制、課題など）などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
11	ケーススタディ (I) - 地域自給向上型 -	地域自給向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
12	ケーススタディ ((II) - 農業経営向上型 -	農業経営向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
13	ケーススタディ (III) - 地域食品産業発展型 -	地域食品産業発展型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケース	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）

			タディを行う。	
	14	第4次産業革命と6次産業経営	第4次産業革命の概要、農業・農村コミュニティに及ぼす影響、とくに、6次産業経営への影響、具体的な対応策と課題、展望などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
	15	総まとめと定期試験対策	6次産業経営論の総まとめと定期期末試験の対策などを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
関連科目	農業経営学、農業経営管理論、食品産業論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域からの六次産業化	室屋 有宏	創森社
	2	農の6次産業化と地域振興	熊倉 功夫	春風社
	3	六次産業化の実践	高橋 信正	筑波書房
評価方法 (基準)	課題3回(40%)、レポート2回(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	積極的な姿勢で授業に臨み、質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	8号館3階教員室314			
備考				

科目名	農村社会学	科目名 (英文)	Rural Sociology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2023a0		

授業概要・目的  
 イエとムラを軸に形成された我が国の伝統的な農村社会は長期にわたる安定性を示し、日本社会の基層をなしてきた。このような我が国農村の特質を海外と比較しながら認識するとともに、急激な変化を示す農村の実態をとらえること、そして政府の政策を含め、新たな農村づくりに向けた諸々の取り組みについて理解を深めることが本講義の目的である。イエとムラをどのように理解するかは、長い歴史をもつ我が国農村社会学の最大のテーマであり、多くの研究蓄積がある。これら学説の要点を説明しながら、我が国の伝統的な農村社会を説明する。一方、このような伝統社会は安定的であったがゆえに、変化が始まるとその速度は急である。変化の諸相を説明しながら農村コミュニティの近未来像を考える。農村の内外にわたる多様な主体が農業と農村社会に関わりながら、農業・農村の多面的機能を維持・発展させるためにつくられる仕組みを考察する。

- 到達目標
- ① 農村社会学が扱ってきた問題群と代表的な学説を理解する。
  - ② 我が国の農村社会を構成してきたイエとムラについて深い認識をもつ。
  - ③ 我が国と海外における農村社会の変化とそこで生じる問題についての知識をもつ。
  - ④ 農村コミュニティの近未来像について、その主体・組織・仕組みについて考える力をもつ。

授業方法と留意点  
 毎回の授業はテキストを1章ずつ熟読する。各章は10前後の項目に分かれる。各項目について担当者を割り当て、要約を中心に報告してもらう。また教員から事前にポイントを示すので、各章の担当者のグループはそれについて調べ、考察を深める。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農村社会学の課題	農村社会学が誕生した背景に触れながら、海外および我が国における農村社会学の課題について解説する。	事前：シラバスの理解
2	農村の空間と資源	都市と分離された農村空間の特質を説明した上で、農村資源の種類とその利用や保全に関する諸特徴について論じる。	事後：学習課題の学習
3	農業・農村の多面的機能	「農業・農村の多面的機能」が注目されるようになった背景を説明し、その価値評価や保全方法・政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	伝統的農村家族	伝統的農村家族が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えて我が国のイエについて解説する。	事後：学習課題の学習
5	農村家族の変容	農村家族の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のイエの変容について詳しく論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農村の伝統社会	農村伝統社会のあり方が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えてイエと結びついた我が国のムラについて解説する。	事後：学習課題の学習
7	農村伝統社会の変容	農村伝統社会の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のムラの変容について、イエの変容と関連させて論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業近代化と農村政策	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では、農業近代化と農村政策について一般的な説明をした後、1961年の農業基本法前後の農政について詳しく論じる。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業構造調整と農村政策	農業近代化のみならず、農業構造調整の課題は広範囲に及ぶ。その観点から、EUを中心とする海外と我が国の農村政策の動向を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農村女性問題	伝統的農村社会が克服すべき問題のひとつとして農村女性問題が挙げられる。問題の構図、農村での取り組み、政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	高齢化する農村と福祉問題	顕著に高齢化によって表面化したのが高齢者福祉問題である。問題構図を説明した上で、その対応方向について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農村移住と新規農業参入	農村社会と農業の担い手を確保するために外部からの人材確保が重要な課題となっている。その取り組みについて解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農村環境問題	農業近代化はしばしば深刻な環境問題を引き起こす。農村環境問題を網羅的に説明し、その改善と環境保全について論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業・農村問題に対する消費者との連携	農業・農村問題に対する消費者の関心が高まっており、問題解決に向けて消費者との連携が不可欠である。リスク社会論や食料社会学等の近接分野の成果を紹介しながら、消費者との連携について論じる。	事後：学習課題の学習
15	新たな農村コミュニティの形成	本講義のまとめとして、農村社会における多様な主体、消費者やNPO、企業等と	事後：学習課題の学習

			の連携を含む、新たな農村コミュニティのあり方を論じる。	
関連科目	地域マネジメント論、社会調査論、農村コミュニティビジネス論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域人材を育てる手法	中塚雅也、山浦陽一	農山漁村文化協会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	むらの社会を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	2	むらの資源を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	3	農山村は消滅しない	小田切徳美	岩波書店（新書）
評価方法 (基準)	授業中の発表，毎回の小テスト，期末のレポートで成績を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	テキスト1冊をじっくり読みます。特に批判的な読み方を身に着けてください。			
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室315			
備考				

科目名	農業経営管理論	科目名 (英文)	Farm Business Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2022a0		

**授業概要・目的**  
現代の農業経営は、家業の継続にとどまらず、周到かつ発展的な経営戦略を確立し、それを実行することが求められている。その基礎をなすのが経営管理である。本講義では、経営の基本となるモノ・ヒト・カネに関わる管理分野を取り上げ、経営管理問題が顕在化した背景と経営管理の課題・方法について解説する。農業経営管理は1990年代以降に論じられるようになった領域である。企業の農業経営が広がり、積極的な事業展開が見られるようになったことが、農業経営管理論の創成を促した。本講義では、1990年代以降の農業経営の動向に注意を払いながら、一般経営学における経営管理論と共通する領域と農業経営の特質を反映した独自の領域とを識別し、農業経営管理を体系的に論じる。

**到達目標**  
① 農業経営学(必修科目)に加え本講義を履修することにより、農業経営活動の実際について深く理解する。  
② 農業経営管理の重要分野であるモノ・ヒト・カネの管理問題を体系的に理解し、農業経営管理の全体像を把握する。  
③ 経営管理の観点から、実際の農業経営が抱える問題を分析し、経営改善の方向を考えることができる。  
④ 農業経営管理を担う経営者の機能を理解し、明確な農業経営者像を示すことができる。

**授業方法と留意点**  
毎回の授業で資料を配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。授業内容の理解を深めるために下記の参考図書に目を通すとともに、農業専門雑誌・新聞等を通じて最近情報を得ることが望まれる。授業内容の理解度ををはかるための問題を含めたレポートを中間・期末の2回行う。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営管理論の課題	農業経営管理が重視されるようになったのは比較的最近である。その背景を概観し、農業経営管理論の課題を解説する。	事前：シラバスの理解
2	農業生産の特質とその管理	農業生産の特質をふまえ、工業生産と対比した農業における生産管理の特徴とその重要項目を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	生産技術の進歩と新たな生産管理	近年におけるICTを活用した農業技術と生産管理手法を学び、今後の可能性について考える。	事後：学習課題の学習
4	農産物のマーケティング	農産物マーケティングの特徴や最近の動向について学び、農業経営が取り組むべき課題を考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	農業労働力の特質	長期的な動向を視野に入れながら、農業労働力の調達と従事、関連する法制度等の基本事項を学ぶ。	事後：学習課題の学習
6	農業者の能力形成の特徴	経営者能力と技能の観点から農業者の能力形成を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	農業における人的資源管理の課題	伝統的家族経営と比較しながら、近代的家族農業経営および農企業における人的資源管理の課題を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業経営の資金循環	経営と家計が未分離状態にある農家経済を取り上げ、農業経営の資金循環の一般的状況を理解する。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業経営と金融システム	農業経営を取り巻く金融システムについて概説したうえで、我が国における農業金融システムの動向を説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農業経営の財務・資金管理の課題	農業経営と金融システムの双方が変貌する下で必然化する、農業経営の財務・資金管理に関する新たな課題を論じる。	事後：学習課題の学習
11	農業法人制度の推移	諸外国との比較を交えながら、我が国における農業法人制度の変遷について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農業経営の企業形態選択	農業経営の企業形態が多様化する下で、経営管理の課題として企業形態の選択問題が浮上している。問題の捉え方について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	地域農業の諸タイプ	農業経営の事業は個別経営の内部で完結せず、周囲の農業経営との共同や農協等の共・公セクターが重要な要素となる場合が多い。国・地域によってその様相は異なるので、地域農業の諸タイプを整理する。	事後：学習課題の学習
14	地域農業のマネジメント	地域農業のマネジメントが農業経営における重要な管理課題となるので、その要点を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業における経営戦略	講義のまとめとして、農業経営戦略の考え方とその構築について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

**関連科目** 農業経営学、農業簿記・会計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**参考書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略的農業経営	渋谷征男	日本経済新聞社
	2	動き始めた「農企業」	小田滋晃・長命洋佑・川崎訓昭	昭和堂
	3	アグリビジネス進化論	トーマツ農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社
評価方法 (基準)	中間試験，期末試験をおこなう。また，授業内容の復習のための毎回，小テストをおこなう。合計100点満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室315			
備考				

科目名	食料・農業・農村政策論	科目名 (英文)	Food, Agriculture and Rural Area Policy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2021a0		

**授業概要・目的**  
日本をはじめ、アメリカやEU等の先進国では、国内総生産に占める農業の割合は低くなっているものの、農業・農村を守るため、多額の予算が投入されている。食料自給率が4割を下回り、農業従事者も減少・高齢化する等、日本の農業は様々な課題を抱えているが、一方で良質で安全安心な農産物の供給や地域社会の維持・活性化に寄与している。本講義では、わが国の食料・農業・農村の現状を把握した上で、諸問題に対応するために講じられている政策について、内容を整理し、経済的効果を考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

**到達目標**  
① 日本の食料・農業・農村の基本的な特徴や主な食料・農業・農村政策の内容を理解する。  
② 日本の食料・農業・農村政策の変遷とその背景にある食料・農業・農村の状況の変化を理解する。  
③ 国際的な視点から、日本の食料・農業・農村の動向と食料・農業・農村政策を理解する。  
④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業・農村政策に関する基礎知識を身につける。

**授業方法と留意点**  
資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。  
授業において外部講師による講演を聴取する(2回)。  
ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。  
質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業基本法と農政の変遷	農業基本法の下で展開されてきた食料・農業・農村に関する施策の変遷と食料・農業・農村基本法について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	食料消費構造と食料自給率	食料消費構造の変化と食料自給率の低下の要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	農業の担い手と農業構造	農業経営体、農地面積等の動向や望ましい農業構造について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	農産物価格政策と経営安定	農産物の価格安定を図る制度及び農業経営を安定させる制度の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	米政策の変遷	農政の中心に位置してきた米政策の変遷と経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	農地政策と農業農村整備	農地の確保及び有効利用のための政策の変遷・仕組みと農業生産性向上のための基盤整備事業について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	担い手政策と農村振興	担い手の育成・確保対策と多面的機能の発揮を促進するための施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農業技術革新	コスト削減や高付加価値化のための技術革新・IT農業について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	農産物流通・食品安全政策	農産物流通における卸売市場の機能と食品の安全性確保対策・食品表示について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	農業団体	農業協同組合、農業委員会、農業共済組合等の農業団体の機能について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	アメリカの農業と農業政策	アメリカの農業構造と農業法に基づく農業政策の変遷について、日本と対比しながら理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	EUの農業と農業政策	EUの農業構造と共通農業政策の変遷について、日本と対比しながら理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	農業保護と国際交渉	これまでの国際交渉における農業保護政策の取り扱いについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	輸出促進と知的財産	日本の農産物貿易の動向・輸出促進のための施策と地理的表示保護制度等の知的財産保護について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	農業予算と政策評価	農業予算の変遷と食料・農業・農村政策に対する政策評価手法について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

**関連科目** 食と農の近現代史、食農共生論、フードシステム論、食料・農業経済学、食農ビジネス学基礎演習II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
2	その他、必要に応じて紹介する			
3				

評価方法 (基準)	①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
担当者の 研究室等	食料・農業政策学研究室（農学部2階214）
備考	

科目名	食料・農業経済学	科目名 (英文)	Food and Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2020a0		

授業概要・目的	食料は人間が生きていく上で必要不可欠であるが、個人の消費能力には限界がある。このような食料の必需性と飽和性、さらには自然条件に左右される農業生産の不安定性や乏しい貯蔵性等から、農業や食料関連産業は、一般の商工業とは異なる特徴を有している。本講義では、このような食料・農業の特殊性を踏まえながら、食料消費の動向、農業及び食料関連産業の現状と問題点・課題等について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を有しており、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食料・農業経済学で用いられる基本概念と経済理論を理解する。 ② 食料・農業経済の活動を生産から消費までのフードシステムとしてとらえて理解する。 ③ 経済学に基づく分析には、理論的な定量的な分析とデータを用いた定量的な分析の両方が必要であることを理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業経済学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。教科書や配付資料等により、予習・復習を行うこと。 ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	食料需要の経済理論	ミクロ経済学を用いて、食料需要の決定メカニズムや食料の特性について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	食料消費構造の変化と要因	食の外部化、簡便化等の食料消費構造の変化とその要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	人口・世帯構成と食料消費	人口構成・世帯構成の違いや変化が食料消費に及ぼす影響について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	食料供給の経済理論	ミクロ経済学を用いて、完全競争市場と独占市場における生産量の決定メカニズムについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	食品製造業の現状と特徴	食品製造業の産業としての特徴について、製造業一般と比較しながら、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	生鮮食料品の流通と市場	生鮮食料品の流通における市場の役割と食品流通業の産業として特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	外食産業の現状と特徴	外食産業の産業としての特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	食の外部化と中食産業	食の外部化に伴う中食産業の成長について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	世界食料需給と食料自給率	世界の人口・食料生産・食料消費と各国の食料自給率の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	米の生産と流通・消費	米の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	野菜・畜産物の生産と流通・消費	野菜・畜産物の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	農林水産物・食品の貿易	農林水産物・食品の輸入及び輸出の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	食品の安全性と表示	食品の安全性と表示に関する規制について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	食品ロスと環境問題	食品ロスと廃棄物のリサイクルについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目	基礎経済学、ミクロ経済学、食農共生論、フードシステム論、食農ビジネス学基礎演習Ⅱ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ, 荏開津 典生, 中嶋 康博	医歯薬出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
2	その他、必要に応じて紹介する			
3				

評価方法(基準)	①定期試験・期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	食料・農業政策学研究室(農学部2階214)
----------	-----------------------



科目名	農業経営学	科目名 (英文)	Farm Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2019a0		

授業概要・目的	農業経営のあり方は、商工業と異なる特徴をもつとともに、国や地域の個性があらわれる。農業経営に関する多様な事象を認識するためには一般理論が欠かせない。本講義では、現代の農業経営の発展に関する理論を解説することを第一の目的とする。ただし、農業経営学を学ぶ目的は実際の農業経営活動やそこにひそむ問題を認識することであり、理論はそのためのものである。また、実態認識に裏付けられてこそ理論に対する深い理解が可能になる。そこで、我が国や諸外国を題材に農業経営に関わる様々な事象を取り上げ、実態と理論の関係を重視して講義をすすめる。
到達目標	① 農業経営学で用いる基本概念を理解できる。 ② 農業経営の企業形態、経営規模、経営組織、経営計画等の諸理論を学び、農業経営学の体系を認識する。 ③ 商工業と対比した農業経営の特徴、国・地域・時代によって異なる多様な農業経営のあり方を理解できる。 ④ 我が国の農業経営の動向と問題に関する認識を深め、課題解決の方向を体系的に考察できる。
授業方法と留意点	毎回資料を配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。授業内容の理解を深めるために下記の参考図書に目を通すことが望ましい。さらに参考図書以外にも農業専門雑誌や新聞等を通じて最近情報を得るように努めて欲しい。授業内容の理解を促し、その達成水準を把握するために定期試験に加え中間試験を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営学の課題	我が国における農業経営の動向を概説しながら、農業経営学の課題を論じる。	事前：シラバスの理解
2	農業技術と生産力の動向	我が国の稲作を例に農業技術の変化を説明し、農業統計を用いて稲作生産力の動向を把握する。	事後：学習課題の学習
3	農業技術の特徴と農業経営	農業経営活動の基礎となる農業技術の特徴を説明した上で、近年のICTを活用した技術進歩に伴う農業経営の新たな可能性について考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	家族農業経営と農企業	農業経営の主流をなす家族経営と、近年注目を集める農企業について理論的に対比する。	事後：学習課題の我が国農業の企業形態
5	我が国農業の企業形態	農企業の事例を紹介しつつ、企業形態の多様化という点で、我が国農業が急激に変化していることを説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農業経営の費用と収益①	費用と収益に関する基礎を学ぶ。そのうえで農林水産省が実施している農業経営統計調査に基づいて、農業経営の費用と収益に関する諸概念を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	農業経営の費用と収益②	同上	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業経営統計の利用	農業経営統計調査の結果を利用して、農業経営の収支および主要農産物の生産費の動向を把握する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	中間試験/農業経営の規模	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では農業経営規模のとらえ方について学ぶ。	事前：第1回～8回の復習 事後：学習課題の学習
10	農業経営の規模拡大と集約化	農業経営の規模拡大と集約化の概念を解説する。また、規模および集約度の指標について説明し、それらを用いた経営分析の方法を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	農業経営組織のとらえ方	農業経営組織を把握する際に用いる諸概念について解説する。	事後：学習課題の学習
12	農業経営組織の形成	農業経営組織の形成に関する理論を解説する。また、農業経営組織の統計的把握、農業経営方式・農法等の関連事項について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農業経営の多角化	農業経営の多角化についての基礎知識を学ぶ。その上で、農業経営の複合化や6次産業化に関する最近の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業経営の計画	農業経営計画の意義について理解した上で、農業経営の部門の組み合わせに関する線形計画法と資本回収法を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業経営と政策	農業経営に関する政策について解説する。政策の対象や効果に関する一般的知識とともに、我が国農政の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目	農業経営管理論、農業簿記・会計学、食農ビジネス最前線、食農ビジネス実践論
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	農業経営概論	大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか	実教出版
	2	新版 キーワードで読みとく現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝編	昭和堂
	3	食料・農業・農村白書（各年度版）	農林水産省 編	農林統計協会
評価方法 (基準)	中間試験と期末試験を実施する。そのほかに授業内容の復習のために毎回小テストをおこなう。合計 100 点を満点とし、60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8 号館・3 階・教員室 315			
備考				

科目名	食農ビジネス最前線	科目名 (英文)	Frontier of Agri-Food business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3018a0		

授業概要・目的  
今日の食料や農業に関しては、農林水産物の生産や加工食品の製造と流通に関わる農林漁業者と食品産業（食品製造業、食品流通業、フードサービス業）に加えて、都道府県と市町村の行政、農林漁業者や消費者の協同組合など、さまざまな主体が関係している。そのため、食農ビジネスについて実践的に学ぶためには、これらの主体が現在どのような取り組みを行っているのかを知ることが重要である。また、就職先を考えるうえでも、食農ビジネスの最前線で活躍している人たちが行政、協同組合の職員の活動に触れることは有益である。本講義は、農林漁業者や食品産業の社員、都道府県や市町村の職員、協同組合の職員など、食農ビジネスの最前線で活躍している人たちをゲストスピーカーとして招き、その経験や現在の取り組みについて講義を行う。

到達目標  
① 農林漁業者、食品産業、都道府県・市町村、協同組合などの活動や現在の取り組みを知ることができる。  
② 食農ビジネスの最前線での取り組みを知ることができる。  
③ 食農ビジネスでの仕事の内容を知ることができ、就職先を考える際、参考にすることができる。

授業方法と留意点  
① 農林漁業者、食品産業、都道府県・市町村、協同組合などからゲストスピーカーを招き、講義する。  
② 配付資料やパワーポイントを用いて講義する。  
③ 毎回の講義についてリアクションペーパーをまとめる。  
④ 講義の振り返りのディスカッションと、まとめのレポートを作成する。  
授業のなかでアクティブラーニング（ディスカッション・ディベート）を取り入れる。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらい、講義の進め方と計画	事前：シラバスの確認
2	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
3	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
4	農業者の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている農林漁業者をゲストスピーカーとして招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
5	農業者の先進的な取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第2回～第4回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
6	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
7	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
8	食品産業の先進的な取り組み	先進的な取り組みを行っている食品産業からゲストスピーカーを招き、実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
9	食品産業の先進的な取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第6回～第8回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
10	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	先進的な取り組みを行っている地方自治体からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
11	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	先進的な取り組みを行っている地方自治体からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
12	地方自治体の食農ビジネス支援の取り組み	講義内容のふりかえりとディスカッション。次回の講義の進め方と計画	事前：第10回・11回授業のふりかえり（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
13	協同組合の食農ビジネスの取り組み	先進的な取り組みを行っている協同組合からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
14	協同組合の食農ビジネスの取り組み	先進的な取り組みを行っている協同組合からゲストスピーカーを招き、食農ビジネス支援の実践を紹介していただく。	事前：事例の概要の把握（1時間） 事後：リアクションペーパー（1時間）
15	講義のまとめ	講義全体の内容のふりかえりとディスカッション	事前：講義内容全体のふりかえり（1時間） 事後：最終レポート作成（2時間）

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回のリアクションペーパー (60%) と最終レポート (40%) によって評価し、60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (8号館2階, 教員室218)
備考	

科目名	社会調査論	科目名 (英文)	Social Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 圭三
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE3017a0		

授業概要・目的	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。この講義では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例をとりあげつつ解説していく。
到達目標	調査研究の全体的な流れが説明できる。質問紙調査をおこなう際の諸問題について説明できる。標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、学生同士のディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	社会調査の全体的な流れが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか。	配布資料を用いた復習
2	社会調査の全体的な流れ	研究の企画から報告書の執筆までの流れ	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
3	調査を始める (1)	問いと仮説の設定、概念の明確化	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
4	調査を始める (2)	調査方法の種類	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
5	調査票を作成する (1)	ワーディング	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
6	調査票を作成する (2)	回答選択肢の作成	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
7	調査票を作成する (3)	調査票全体の設計	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
8	調査の実施 (1)	調査票の配布と回収の方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
9	調査の実施 (2)	全数調査と標本調査、標本数の決定	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
10	調査の実施 (3)	サンプリングの諸方法	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする
11	データの作成 (1)	コードブックの作成と入力作業	(事前) 事前に指示されている内容について下調べをしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1時間を目安とする

	12	データの作成 (2)	コーディング・エディティング・データ クリーニング	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1 時間を目安とす る
	13	データ分析の基礎 (1)	度数分布、代表値	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1 時間を目安とす る
	14	データ分析の基礎 (2)	変数間の関係の分析	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (事後) 授業時の説明について、一般的な説明との 整合性を確認する ※事前学習時間+事後学習時間=1 時間を目安とす る
	15	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	(事前) 事前に指示されている内容について下調べ をしておく (0.5 時間) (事後) 配布資料全体の精読をする (2 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 10%、課題及び試験 90%			
学生への メッセージ	社会調査の知識は、今やどこに行っても必要とされるものです。関心のある学生はぜひ受講して下さい。			
担当者の 研究室等				
備考	授業の実施と運営の方法について、詳細は授業内で指示する。			

科目名	農業簿記・会計学	科目名 (英文)	Agricultural Bookkeeping and Accounting
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2016a0		

授業概要・目的	農業経営を営む主体にとって、現在の経営の状態を正確に把握することは必須であり、それを計数で把握するためのツールが農業簿記であり、農業簿記・会計は、経営活動を取引として記録・分類・計算・整理に加えて、それらを評価して財務諸表を作成することを対象としている。本授業では、複式農業経営簿記を取り上げ、農業簿記会計に関する基礎的知識とその意義、農業特有の取扱いを踏まえた簿記記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成・分析について学ぶ。																																																																		
到達目標	① 農業経営における簿記・会計の役割と意義を理解する。 ② 複式簿記の記帳原理と計算方法を理解する。 ③ 複式簿記の記帳手続きを修得する。 ④ 決算手続きを修得し、財務諸表の作成が行える。 ⑤ 財務諸表に基づく経営分析方法を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	主に、板書による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前回授業の復習を行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農業経営と農業簿記</td> <td>農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>農業簿記の概要</td> <td>農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>取引と勘定</td> <td>取引と勘定について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>仕訳と転記</td> <td>簿記記帳方法を修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>試算表</td> <td>試算表の目的・機能・限界を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>勘定科目</td> <td>農業簿記における勘定科目について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>収益と費用</td> <td>収益・費用の仕訳について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固定資産</td> <td>固定資産の評価と仕訳について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>決算の意義と手続き</td> <td>決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>財務諸表の作成</td> <td>帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>農産物の原価計算</td> <td>原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>農業経営分析の意義と方法</td> <td>農業経営分析の意義と方法を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>収益性・生産性分析</td> <td>収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成長性分析・総合評価</td> <td>成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>キャッシュ・フロー計算書とその分析</td> <td>キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	農業経営と農業簿記	農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。	事前：シラバスの理解	2	農業簿記の概要	農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	3	取引と勘定	取引と勘定について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	4	仕訳と転記	簿記記帳方法を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	5	試算表	試算表の目的・機能・限界を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	6	勘定科目	農業簿記における勘定科目について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	7	収益と費用	収益・費用の仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	8	固定資産	固定資産の評価と仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	9	決算の意義と手続き	決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	10	財務諸表の作成	帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	11	農産物の原価計算	原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	12	農業経営分析の意義と方法	農業経営分析の意義と方法を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	13	収益性・生産性分析	収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	14	成長性分析・総合評価	成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	15	キャッシュ・フロー計算書とその分析	キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	農業経営と農業簿記	農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。	事前：シラバスの理解																																																																
2	農業簿記の概要	農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
3	取引と勘定	取引と勘定について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
4	仕訳と転記	簿記記帳方法を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
5	試算表	試算表の目的・機能・限界を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
6	勘定科目	農業簿記における勘定科目について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
7	収益と費用	収益・費用の仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
8	固定資産	固定資産の評価と仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
9	決算の意義と手続き	決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
10	財務諸表の作成	帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
11	農産物の原価計算	原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
12	農業経営分析の意義と方法	農業経営分析の意義と方法を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
13	収益性・生産性分析	収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
14	成長性分析・総合評価	成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
15	キャッシュ・フロー計算書とその分析	キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代農業簿記会計概論</td> <td>古塚秀夫・高田理</td> <td>農林統計出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代農業簿記会計概論	古塚秀夫・高田理	農林統計出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代農業簿記会計概論	古塚秀夫・高田理	農林統計出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト (60%)、中間試験及び定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	地域マネジメント研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	マクロ経済学	科目名 (英文)	Macroeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	成 着政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2015a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた選択必修科目である。マクロ経済学は個別経済主体の相互作用の結果で発生する国民経済の総体的な現象を研究対象とする経済学の一分野で、分析対象は国民経済、または国家経済全体である。したがって、「基礎経済学」「ミクロ経済学」受講後となる本講義では、まずマクロ経済学的視点で、経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義する。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を農学の視点から養う。そして、現実経済において非常に重要なテーマである株式や投資信託などへの投資、公的年金、医療などの社会保障などについても講義と分析を行う。
到達目標	① マクロ経済理論の修得により経済全体の動きが理解できる。 ② 上記①により、経済理論を現実経済に応用(適用)する力を身につけることができる。 ③ 食料と農業(産業)を対象に、マクロ的な視点で経済分析ができる。
授業方法と留意点	講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて(できる限り、毎回)講義内容に関連したトピック(経済常識と時事問題など、主に、日本経済新聞の記事)も取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。そして、講義日の日本経済新聞を読み、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べておくこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(国民経済とマクロ経済学)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、マクロ経済学の視点と対象、さまざまなマクロ経済モデル、マクロ経済学の研究方法などについて講義する。	事前:シラバスの理解と日本経済の現状について調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	国民所得の測定(GDP)	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利子率と名目利子率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	金融システム	米国と日本経済における金融機関、国民所得勘定における貯蓄と投資、貸付資金市場などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	ファイナンスの分析手法	貨幣の現在価値の計算方法、リスクの概念と管理、保険市場の役割、資産評価、市場の合理性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	失業と景気	失業の概念と識別、職探しと公共政策、最低賃金法、労働組合、効率賃金理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
9	貨幣システムと中央銀行	貨幣の意味と機能、貨幣の種類、中央銀行、銀行と貨幣供給、中央銀行による貨幣供給調節手段などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	インフレーション理論	インフレーションの古典派理論、インフレーションのコスト、インフレーションの現実経済への影響などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	為替市場・株式市場	為替の概念、為替相場と為替市場、証券取引所の仕組み、株式の仕組み、為替相場決定理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかりと調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知することと、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	財政政策と金融政策	財政政策と金融政策などの政策手段が市場(現実経済)に与える影響、年金・医療などの社会保障の経済分析などについて詳しく説明する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
14	マクロ経済政策	マクロ経済政策をめぐる6つの主要な	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べ

			論争（経済政策と経済の安定化、景気後退と減税、金融政策におけるルール、中央銀行の使命、財政均衡、貯蓄の促進）について講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
15	総まとめと日本と世界経済の行方		マクロ経済学の総まとめ、日本と世界経済の行方についての講義、そして定期期末試験の対策などを行う。	事前：テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。（4時間）
関連科目	基礎経済学、ミクロ経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学	吉川 洋	岩波書店
	2	マクロ経済学・入門	福田 慎一	有斐閣
	3	入門マクロ経済学	井堀 利宏	新世社
評価方法 (基準)	小テスト3回(60%)、レポート2回(40%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための基礎になる専門科目である。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teams などを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	農業経済学研究室（8号館3階教員室314）			
備考				

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Microeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1014a0		

授業概要・目的	経済学とは、現実の経済（生きるために必要な財・サービスを生産し、分配し、消費すること）を説明する学問であり、特にミクロ経済学では、個々の企業や家計といった経済主体の行動の分析や、市場における需要と供給の分析を通じて、現実の経済を理解する。本講義では、需要および供給の特質、市場における需要と供給の調整のしくみ、経済主体である家計および企業の行動を学ぶとことを通じて、ミクロ経済学の基本的知識と考え方を農学の視点から理解することを目的とする。
到達目標	① 経済循環と個々の経済主体（家計・企業・政府）の活動について理解する。 ② 需要と供給の特質を理解する。 ③ 市場における需要と供給の調整メカニズムについて理解する。 ④ 市場取引や市場均衡の意義を理解する。
授業方法と留意点	主に、板書による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前回授業の復習を行うこと。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学で学ぶ内容や考え方を理解する。	事前：シラバスの理解
2	経済循環と経済主体	個々の経済主体との活動と経済循環構造との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
3	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の定義とその意味を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
4	市場均衡	市場メカニズムによる需要と供給の調整を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
5	需要曲線と供給曲線のシフト	需要曲線と供給曲線のシフト要因と市場価格変動を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
6	価格規制	価格規制が市場に及ぼす影響について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
7	価格弾力性	需要および供給の価格弾力性の定義とその決定要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
8	需要の価格弾力性の応用	需要の価格弾力性と支出額、税負担との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
9	経済余剰分析	消費者余剰、生産者余剰の定義と市場均衡における経済余剰について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
10	経済余剰分析の応用	経済余剰について、税金と補助金、関税と数量割当の比較を行う。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
11	市場の失敗	市場の失敗の意味とその要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
12	消費者行動の基礎	消費者行動に関する仮定と無差別曲線、効用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
13	需要曲線の理論的背景	予算制約と効用最大化に基づいた需要曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
14	生産者行動の基礎	生産者行動に関する仮定と等量曲線、生産関数、費用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
15	供給曲線の理論的背景	利潤最大化条件に基づいた供給曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学をつかむ	神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 著	有斐閣
2	マンキュー経済学 ミクロ編	N・グレゴリー・マンキュー 著	東洋経済新報社
3			

評価方法（基準） 講義内容についての学習確認小テスト（40%）、中間試験および期末試験（60%）で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 地域マネジメント研究室

備考

科目名	食と農の近現代史	科目名 (英文)	Modern History of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1013a0		

**授業概要・目的**  
 今日のわが国の農業・農村社会や食生活・食料消費は歴史的に形作られてきたものであり、その現状の特徴や課題を理解するためには、農業・農村社会や食生活・食料消費の歴史的な変遷について理解することが必要である。  
 本講義では、近現代のわが国の農業・農村社会と食生活・食料消費の歴史的な変遷を画期区分し、それぞれの段階における経済・社会の状況、農業と食生活の状況と特徴、課題について、特に現代（第2次世界大戦後）を中心に講述する。そのことにより、今日の食料・農業の姿が形づくられてきた歴史的な経過に関する理解を深めることを目的とする。  
 授業担当者は、地方自治体の農林技術部門における実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

**到達目標**  
 ① わが国の経済社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。  
 ② わが国の農業・農村社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。  
 ③ わが国の食生活・食料消費の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。  
 ④ これらの知識をもとに、今日の農業や食生活・食料消費の姿が形づくられた経緯を理解することができる。  
 ⑤ これらの知識を、これからの農業や食生活・食料消費のあり方を考えるために応用できるようになる。

**授業方法と留意点**  
 配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。  
 毎回の授業内容の理解を深めるために、小テストや小レポートを実施する。小テスト・小レポートの解答結果については、次回の授業で解説を行う。  
 なお、授業の一部に反転授業、グループ・ディスカッションを取り入れる。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	わが国の農業と食生活の画期	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、農業と食生活の画期区分	事前：シラバスの理解 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
2	近世の社会と農業・農村	近世（江戸時代）の社会、近世の農業と農村の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
3	明治・大正期の経済・社会と農業・農村、食生活	明治・大正時代の社会と経済、地租改正と地主・小作関係の形成、農業の特徴、家族と生活、食料消費・食生活の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
4	昭和戦前期の社会・経済と農業、食生活	資本主義の形成と社会構造の変化、小作争議と地主制の動揺、農業生産力の発展、勤労者の形成と食生活、戦時体制下の農業と食生活	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
5	第2次大戦直後の社会・経済と食生活	1945年～1950年代前半：第2次大戦後の社会、食料不足と食料援助、学校給食の開始	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
6	戦後改革・復興期の農業・農村	1945年～1950年代前半：第2次世界大戦の終了と戦後改革、農地改革と地主制、食糧増産政策と農業生産力の発展	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
7	高度経済成長期の社会・経済と食生活	1950年代後半～1960年代：高度経済成長と社会・経済の変化、家族の生活の変化、食生活の洋風化・高級化、スーパーの誕生と食料・農産物の流通の変化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
8	高度経済成長期の農業・農村	1950年代後半～1960年代：農業基本法の制定と基本法農政の展開、農業・農村の変化、農産物輸入の本格化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
9	安定成長期の社会・経済と食生活	1970年代～1980年代：安定成長への移行と社会・経済の変化、食料消費の成熟と多様化、日本型食生活への着目	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
10	安定成長期の農業・農村	1970年代～1980年代前半：高度経済成長から安定成長への移行、米過剰の発生と生産調整、農業・農村の変化	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
11	国際化時代の農業政策と農業	1980年代後半～1990年代前半：国際化と農業、内外価格差の拡大の農産物輸入の新たな傾向、「新しい食料・農業・農村政策の方向」と農業政策の転換、農業・農村の多面的機能への着目	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
12	WTO加盟と食料・農業・農村基本法	1990年代後半：ガット・ウルグアイラウンド交渉合意・WTO発足と農業への影響、食料・農業・農村基本法の制定	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
13	1990年代以降の社会と食生活	1990年代以降の社会、食の安全・安心への不安と不信、食の簡便化の進行、食をめぐる格差の拡大	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
14	2000年代の農業・農村	農業経営の減少と農業従事者の高齢化の進行、新たな農業の担い手の登場	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成
15	食と農の変遷と将来	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：授業内容に関する小テスト・小レポートの解答・作成

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の農業 150 年	暉峻衆三	有斐閣
	2	消費者の歴史	田村正紀	千倉書房
	3	未来を語る日本農業史	野田公夫	昭和堂
評価方法 (基準)	定期試験 (40%) と中間テスト・毎回の授業の小テスト (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この授業はわが国の食と農の歴史を学ぶ授業ですが、その目的は今日の食と農の姿を知り、今後の姿を考えるために必要な知識を身につけることにあります。その際に、①食と農の歴史を捉えるうえでの重要な出来事 (画期) とその出来事が生じた背景・原因と結果の関係 (因果関係)、②政府の政策などの目的 (ねらい) とその内容、その政策などによってもたらされた結果の関係、③各時期における出来事とその出来事の前後における変化、を理解するように努めて下さい。			
担当者の 研究室等 備考	食料・農業市場研究室 (8 号館 2 回, 教員室 218)			

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1012a0		

授業概要・目的	統計学は世の中で起きている事象を限られたデータを用いて理解する上で役立つツールであり、社会で幅広く活用されている。本講義では、データのまとめ方 (記述統計) や確率分布に関する理論、標本データから母平均や母比率を推定する方法や、2つの標本の代表値の差を検定する方法について学ぶ。また、相関分析や回帰分析を用いて2つの標本の関係性や因果関係を検定する方法を学ぶ。
到達目標	① データの代表値や散らばり指標の計算とその解釈ができる。 ② 標本から母平均や母比率の推定を行うことができる。 ③ 2標本の母平均や母比率の差の検定を行うことができる。 ④ 2変数を用いて相関分析や回帰分析を行うことができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を用いて講義形式で実施する。教科書および配布プリントによる事前学習を必須とする。また、事後学習として練習問題に取り組むこと。成績は授業の中で実施する中間試験 (第8回講義を予定) と定期試験の結果に基づき評価する。授業には毎回、教科書、配布プリント、電卓 (8桁以上の表示ができ、ルート計算ができるもの。スマホ可) を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	統計学は様々な領域の学問にとって有用となる基礎的知識である。以降に学ぶ科目での予備知識となるだけでなく、卒業研究で取り組む社会調査や、社会人となってからのビジネススキルに大いに役立つものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	記述統計の基本 (1)	度数分布表とヒストグラムの作成方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
2	記述統計の基本 (2)	データの代表値の計算方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
3	記述統計の基本 (3)	データの散らばりの指標の計算方法を理解する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
4	確率変数と確率分布	確率変数の考え方とさまざまな確率分布について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
5	母集団と標本	標本平均や標本比率の分布について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
6	母平均の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
7	母比率の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
8	仮説検定の考え方・中間試験	仮説検定の考え方について学ぶ。 第1回～第7回の講義内容について中間試験を実施する。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
9	母平均の検定	1変数による母平均の検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
10	母比率の検定	1変数による母比率の検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
11	母平均の差の検定	母平均の差の検定方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
12	母比率の差の検定	母比率の差の検定方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
13	相関係数	相関係数の計算や検定の方法を学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
14	回帰分析の基本	回帰分析の考え方や最小二乗法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。 事後: 練習問題による復習 (2時間)
15	回帰分析における仮説検定	単回帰分析における仮説検定の方法について学ぶ。	事前: 教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと (2時間)。

				事後：練習問題による復習（2時間）
関連科目	情報リテラシーI 食農ビジネス学基礎演習 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例題で学ぶ初歩からの統計学（第2版）	白砂堤津耶	日本評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間試験（50%）と定期試験（50%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	初めはとつきにくいと感じるかもしれませんが、繰り返し問題を解くうちに慣れてきます。練習問題をたくさん解きましょう。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室 316 持続型フードシステム研究室			
備考	採点后、中間試験・定期試験の解答用紙を返却します（定期試験は希望者のみ）。			

科目名	アグロ・エコロジー論	科目名 (英文)	Agro-Ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1011a0		

授業概要・目的	人びとの暮らしを支える農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁労などを幅広く含む生業）は、それぞれの地域の気候や生態系および社会・経済・文化との密接な関わりの中で成立している。また、「風土」という言葉があるように、私たちが親近感（安らぎ、美しさなど）を感じる景観や生態系は、農業などの暮らしの営みのなかで形づくられてきた。本授業では、日本国内や海外の幾つかの地域の農業を参照して、それらと気候や資源・生態系（地形、植生、土壌など）および人びとによる働きかけとの関係を理解する。
到達目標	① 自然生態系と農業生態系の定義、類型、特徴を理解する。 ② 国内外のさまざまな生態環境や人間活動（農業や牧畜などの生業）との関わりとその総体である「風土」の成り立ちを知る。 ③ 現代社会が直面する諸問題を知り、その解決や未来社会の形成に向けて農業が果たしうる役割を考える。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントと配布資料を用いた講義を行う。授業中は、幾つかの質疑を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。授業やリアクションペーパーから幾つかの課題や任意の対象地域を設定し、それぞれについてグループ討論や総合討論を行う。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業生態系の基礎 (1)	自然生態系と農業生態系の定義、類型および基本的な特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
2	農業生態系の基礎 (2)	農業生態系の構成要素（気候、植生、水、土壌など）と人間活動との関わりを理解する。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
3	農業生態系の基礎 (3)	人為生態系（攪乱生態系）や農村景観、荒廃景観などから自然と人間活動（農業や牧畜、森林伐採、地形変化など）との関わりや風土の成り立ちを考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
4	世界の風土と農業 (1)	西アフリカを事例に乾燥地・半乾燥地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
5	世界の風土と農業 (2)	環インド洋地域（南アジア、東アフリカ）を事例に亜湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
6	世界の風土と農業 (3)	東南アジアを事例に湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
7	日本の風土と農業 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
8	日本の風土と農業 (2)	近畿、四国、中国の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
9	日本の風土と農業 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
10	農業と環境問題 (1)	農業による生態環境（特に土壌、水、植生などの劣化や汚染）への影響と保全のあり方を知り、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
11	農業と環境問題 (2)	都市化や過疎化、高齢化に伴う生態環境や農業の変容状況と問題点を把握し、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
12	農業の未来	環境保全的な農業や社会的弱者層支援の取り組み事例を参照し、国内外の都市域や農村域の未来像と農業が果たす役割を考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前：抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後：リアクションペーパーの作成と提出 (授業日から5日以内)
14	総合討論：日本の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された日本の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）
15	総合討論：世界の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された世界（特にアジアやアフリカ）の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	季刊地域 (バックナンバー各号)		農山漁村文化協会
	2	宮本常一とあるいた昭和の日本 (全25巻)	監修：田村善次郎・宮本千晴	農山漁村文化協会

	3		
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー（授業レポート、70%）と総合レポート（30%）で評価し、60%以上を合格とする。		
学生への メッセージ	<p>(1) 農業や生態系を理解するには、授業や書籍から得る知識だけではなく、自身の感性を磨き働かせることも大切です。それは、必ずしも特別なことではなく、自身の日常の暮らしの風景（地形、街並み、土地利用、植物、土、風、音、香りなど）とそれらの季節の移ろいに注意を向けることから始まります。</p> <p>(2) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。当面は Web 経由になりますが、授業日の午後 14:00～17:00 をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも</p>		
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館（農学部棟）・環境農学研究室（213 号室）		
備考			

科目名	基礎経済学	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 善政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1010a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた必修科目である。「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の事前基礎科目としての本講義では、まず経済と経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義を行う。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を養う。また、現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、および国際経済学の理論と実態についても講義する。授業担当者は、農漁業経済新聞記者の経験を持ち、授業ではそれらの経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 経済学の基礎理論(原理と分析手法など)について理解できる。 ② 経済理論と現実の経済との関係(関連)について理解できる。すなわち、理論と経済モデルの重要性と現実経済への適用・説明の難しさを理解できる。 ③ これらを通じて、現実のさまざまな経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用・考察する能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は専門必修である。講義資料はできる限り講義日の1週間前までにTeamsにアップロードする。授業の理解度をはかるために、小テストも実施する。シラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。受講生は必ず、講義日の日本経済新聞を読み(ウェブサイトでも読める)、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べる(授業時間中に確認を行う)。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済問題)	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済と経済学の定義、資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の研究方法、効率と公平、資源の希少性などの経済問題などについて講義する。	事前:シラバスの理解と、資本主義経済の特徴について調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義する。	事前:経済用語に馴染めるためにも、テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	需要と供給理論(Ⅰ):市場の機能	市場と競争、需要の作用(需要表、需要曲線など)、供給の作用(供給曲線、市場の供給など)、市場の均衡などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	需要と供給理論(Ⅱ):市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性(価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性)、そして弾力性の応用などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	消費の経済理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用など、消費経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	生産の経済理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用など、企業経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	税と効率・経済の公平、厚生経済理論	死荷重、税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ、外部性の概念、厚生経済学、外部性と市場の非効率性、外部性に対する公共政策、コースの定理などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	小テスト(中間テスト)と解説によるまとめ	講義の理解度をはかるための小テスト(中間テスト)の実施とその解説などを行う。テストの時間は45分、残りは解説による今までの講義のまとめなどを行う。	事前:今までの講義の内容をテキストと配布資料などでしっかり理解し、中間テストに備えること。 事後:中間テストの内容をテキストや解説などで完全に理解すること。(4時間)
9	国民所得の測定	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利子率と名目利子率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかり調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定	事前:生産と成長に関するキーワードの意味を調べ

			要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	14	国際経済理論	生産可能性の原理、比較優位と絶対優位の理論、比較優位と交易、比較優位の応用例、国際貿易理論などについて講義する。	事前：国際経済に関するキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	15	総まとめ	講義の総まとめ、現代経済学の潮流、経済理論で解決できない経済問題などについて講義する。	事前：各章の要約を読んで、しっかり理解すること。 事後：総まとめの資料を熟知することで、しっかり期末試験の準備をすること。(4時間)																
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義 基礎経済学</td> <td>成 善政</td> <td>現代図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経済学</td> <td>伊藤 元重</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済学</td> <td>山田 久</td> <td>実業出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社	2	経済学	山田 久	実業出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社																	
2	経済学	山田 久	実業出版																	
3																				
評価方法 (基準)	レポート3回(60%)、中間テスト(40%)で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための最も基礎になる必修科目です。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teamsなどを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。																			
担当者の 研究室等	農業経済学研究室(8号館3階教員室314)																			
備考	指定の教科書を中心に授業を進めていきます。また、レポートなどの作成に必要なので、指定の教科書を購入し、必ず授業に持参してください。																			

科目名	食と農の倫理	科目名 (英文)	Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1009a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリント等を配布するので、事前学習を行うこと。講義の理解度をはかるために小テストを実施する。授業のなかで、グループ・ディスカッション等を実施することがある。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	SDGs と倫理的消費	SDGs と倫理的消費の考え方を学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
4	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
5	食品ロスの削減	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解し、私たちができることを考える。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
6	企業の倫理とコンプライアンス	企業のCSR活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
7	ソーシャルビジネスとCSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
8	社会的包摂と農福連携	就労支援の福祉サービスと農業との連携を通して展開される社会的包摂の取り組みについて学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
9	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めとするエシカル消費について学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
10	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
11	スローフード	食文化と食の多様性の保全について学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
12	食と持続可能性	近代的な食料生産システムがもたらしてきた環境面への影響やその緩和を目指した取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
13	アニマルウェルフェア	肉食の是非をめぐる議論や動物の福祉を守るための取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等
15	食のオルタナティブ運動	近代的な農業・食料システムに代わる新しい食のあり方について総括する。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリント等の予習 事後:授業内容に関する小テスト・リアクションペーパー等

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農と食の新しい倫理	秋津元輝、佐藤洋一郎、竹之内裕文	昭和堂
2	シビック・アグリカルチャー ～食と農を地域に取り戻す～	トーマス・ライソン	農林統計出版	

	3	食の人権	伊藤恭彦編	リベルタス出版
評価方法 (基準)	各回の授業で実施する学習確認小テスト・小レポート (70%) と, 期末試験または期末レポート (30%) で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (小野)、持続型フードシステム研究室 (谷口)			
備考				

科目名	食農ビジネス学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agri-Food Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之, 浦出 俊和, 北川 太一, 成 耆政, 副島 久実, 田中 樹, 谷口 葉子, 戴 容秦思, 中塚 華奈, 濱田 英嗣, 柳村 俊介, 吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1008a0		

**授業概要・目的**  
 食農ビジネス学とは新しい学問領域であり、他の大学にはない本学に独自の領域である。また、食農ビジネス学には多様な専門分野が含まれる。したがって、これから食農ビジネス学科で学ぶべき課題を見だし、主体的に取り組むうえで、まず食農ビジネス学とはどのような専門分野から成り立っているのかを理解する必要がある。本講義では、食農ビジネス学科の主な専門分野からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により食農ビジネス学とは何かを理解し、主体的に取り組もうとする課題を見だせるようになることを目的として開講する。教員の中には中央省庁で長く農林水産政策に携わった経験を持つ者や農漁業界新聞の記者の経験者等もあり、授業ではそれらの経験を踏まえた事例紹介などを取り入れる。

**到達目標**  
 ① 食農ビジネス学に関心を持つことができる。  
 ② 食農ビジネス学で何を学ぶかを理解することができる。  
 ③ 食農ビジネス学が関わる領域の課題を理解し、これからの勉学・研究のための問題意識を持つことができる。

**授業方法と留意点**  
 パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリントを配布するので、事前学習を行うこと。また、講義の理解度を高めるために、小テストを実施する。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食農ビジネス学を学ぶために	科目全体のガイダンス、食農ビジネス学の目的と専門領域など。(担当：小野雅之)	事前：シラバスの理解 事後：講義内容の確認
2	食と農の変化と今日の姿	食と農がどのように変化してきたのかを概説したうえで、今日の食と農の姿について講義する。(担当：小野雅之)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
3	わが国と世界の食料需給の農産物貿易	わが国と世界の食料需給と農産物貿易の現状と課題について講義する。(担当：吉井邦恒)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
4	農業経営の発展方向	わが国の農業と農業経営の動向を踏まえて、今後の農業経営の発展方向について講義する。(担当：柳村俊介)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
5	農の6次産業化	農業・農村の活性化の方向として期待されている6次産業化の意義と課題について講義する。(担当：成耆政)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
6	地域のマネジメント	農村地域が抱える諸問題と、その解決をめざす取り組みについて講義する。(担当：浦出俊和)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
7	フードシステムと食品産業	フードシステムの全体像と、構成する産業の相互関係について講義する。(担当：濱田英嗣)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
8	農畜産物の流通	農畜産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：戴容秦思)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
9	水産物の流通	水産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
10	農水産物のマーケティング	マーケティングの理論と農水産物への応用について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
11	食品の表示と認証	食品表示・認証のしくみと意義について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
12	農業と環境・生態系	農業と環境・生態系の関わりについて講義する。(担当：田中樹)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
13	循環型農業の理念とフードシステム	持続可能性を追求する循環型農業の理念やそのフードシステムについて講義する。(担当：谷口葉子)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
14	都市と農業	都市と農業の関係と、その今後のあり方について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
15	協同組合の理念と役割	食(消費者、都市)と農(生産者、農山漁村)を繋ぐ共生に向けた協同組合の理念と実践について講義する。(担当：北川太一)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 キーワードで読み解く現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝編	昭和堂
2				
3				

**評価方法**  
 毎回の授業の小テストまたは小レポートの合計点を100点満点に換算して評価する。60点以上を合格とする。

(基準)	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室（小野）、地域マネジメント研究室（浦出）、食農共生研究室（北川）、農業経済学研究室（成）、農水産物・食品マーケティング研究室（副島）、環境農学研究室（田中）、持続型フードシステム研究室（谷口）、食品流通研究室（戴）、食農教育研究室（中塚）、食品産業研究室（濱田）、農業経営学研究室（柳村）、食料・農業政策学研究室（吉井）
備考	

科目名	農業知的財産	科目名 (英文)	Agricultural Intellectual Property
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中世古 裕之、犬飼 一博
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3007a0		

**授業概要・目的**  
 農林水産業は、生活の根幹を支える重要な産業でありながら、これまで十分な知的財産に関する法的支援が図られていなかった。そこで、農林水産業における知的財産の重要性を認識し、知的財産制度を有効に活用するために、農林水産業と密接に関連する知的財産の基礎的知識や各種制度の在り方、農林水産業における知的財産制度の活用方法の修得を目的とする。具体的には、農林水産分野における知的財産法制の概観、種苗法に基づく品種登録制度の概要（海外での新品種の保護制度を含む。）、農林水産品の「地域ブランド」保護制度である地域団体商標制度及び地理的表示制度の内容、農林水産業における品質認証表示規制等の概要、水際措置、食品の安全性確保のための各種手法（GAP、HACCP等）の概要等について修得する。

**到達目標**  
 日本の農林水産業の競争力の維持・向上を図ると共に、農作物の持続的・安定的な供給を図ることを目的として、農林水産業における知的財産の重要性を認識する。そのために、農林水産業において活用可能な知的財産制度を十分に理解し、農林水産業の現場において実践的に活用できる知識を習得した人材を育成することを本授業の目標とする。

**授業方法と留意点**  
 授業方法は下記の授業計画に従い、主にレジュメ等を用いて講義を行い、必要に応じて資料を配布する。講義を中心とした授業形式とする。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農林水産業と知的財産権	農林水産業における知的財産権の重要性、知的財産制度全体の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
2	商標制度	商標制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
3	地域団体商標制度	地域団体商標制度の概要、登録要件、その効果について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
4	地理的表示保護制度	地理的表示制度の概要、地域団体商標制度との違い、海外における地理的表示保護の対策 (TRIPS協定、各国のGI制度) について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
5	品種登録制度	品種登録制度の概要 (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
6	品種登録制度の要件・効果及び海外での育成者権の保護	品種登録の要件・効果、UPOV条約の概要、海外での育成者権の保護等について (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
7	品種登録制度における訴訟	品種登録が要件を欠く場合の対抗手段について (裁判例解説) (担当: 犬飼)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
8	農林水産業と不正競争防止法 (品質認証)	不正競争防止法における品質認証表示規制 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
9	農林水産業と不正競争防止法 (表示保護)	不正競争防止法における表示保護、商品形態保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
10	農林水産業と不正競争防止法 (営業秘密)	不正競争防止法における営業秘密の保護 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
11	水際措置	知的財産侵害物品の水際取締制度 (税関での輸入差止) の概要 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
12	その他の知的財産制度の活用 (特許・実用新案)	農林水産業における特許・実用新案の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
13	その他の知的財産制度の活用 (意匠・著作)	農林水産業における意匠・著作の概要について (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
14	訴訟制度概要	農林水産業における各種訴訟制度全体の紹介 (裁判例解説)、それに対する弁護士の役割 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)
15	食品の安全性確保・農林水産知財の今後の課題	食品の安全性確保のための各種手法 (GAP、HACCP等) の概要、農林水産業における各種制度の課題、今後の展望等 (担当: 中世古)	配布資料等を事前・事後に学習しておくこと (1時間)

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 攻めの農林水産業のための知財戦略～食の日本ブランドの確立に向けて～	農水知財基本テキスト編集委員会	経済産業調査会
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 定期試験 100%で評価し、60%以上で合格とする。

**学生へのメッセージ**

**担当者の**

研究室等	
備考	

科目名	森林生態学	科目名 (英文)	Forest Ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	檀浦 正子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3006a0		

授業概要・目的	森林のあるところに文明が起こり、森林がなくなれば文明も滅びたように、昔から人間は森林を利用して生きてきた。日本は、国土の67%を森林に覆われる世界でも有数の森林国である。森林は、近年の環境問題を解決するための、また持続可能な資源の開発を行うための、大きな鍵となる。本講義では、森林の生態についての知識を得ることを目標にする。また森林生態学を研究する方法や、環境の計測などに関する理解を深める。さらに森林と人間のかかわりや、森林が地球環境に及ぼす影響、日本の林業の問題点などについても考察を行う。																																																																		
到達目標	① 森林の機能と役割を理解し、森林生態学の知識を得る ② 森林と人間と地球環境との相互作用を理解する ③ 現在の森林や環境をめぐる問題を自分のこととして考察する																																																																		
授業方法と留意点	授業はパワーポイント、板書を主に講義を行う。授業の理解を深めるための課題を課す。またグループワークを実施し、グループごとに現在の森林環境問題に関する課題を選び、発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>森林とは何か</td> <td>森林の定義、世界の森林、森林の動態</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>樹木とは何か</td> <td>樹木の定義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>樹木の実際</td> <td>樹木の各部位のはたらき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>森林環境に関する課題: 課題の設定</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>樹木の物質生産</td> <td>樹木の生長</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>光合成と呼吸</td> <td>光合成と呼吸の化学式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>樹木と水</td> <td>通水阻害、乾燥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>森林環境に関する課題: 調査</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>森林環境とその測定法</td> <td>樹木の生長と環境の影響</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>森林の物質循環</td> <td>炭素、水、窒素の循環</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>森林の物質循環の測定法</td> <td>物質循環の測定法に関する研究の最前線</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>森林環境に関する課題: 発表スライド作成</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>森林の多様性</td> <td>多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か</td> <td>事後レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>森林と林業、環境問題</td> <td>林業の実際、現在の森林環境問題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>森林環境に関する課題: 発表</td> <td>グループワーク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	森林とは何か	森林の定義、世界の森林、森林の動態	事後レポート	2	樹木とは何か	樹木の定義		3	樹木の実際	樹木の各部位のはたらき		4	森林環境に関する課題: 課題の設定	グループワーク		5	樹木の物質生産	樹木の生長	事後レポート	6	光合成と呼吸	光合成と呼吸の化学式		7	樹木と水	通水阻害、乾燥		8	森林環境に関する課題: 調査	グループワーク		9	森林環境とその測定法	樹木の生長と環境の影響	事後レポート	10	森林の物質循環	炭素、水、窒素の循環		11	森林の物質循環の測定法	物質循環の測定法に関する研究の最前線		12	森林環境に関する課題: 発表スライド作成	グループワーク		13	森林の多様性	多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か	事後レポート	14	森林と林業、環境問題	林業の実際、現在の森林環境問題		15	森林環境に関する課題: 発表	グループワーク	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	森林とは何か	森林の定義、世界の森林、森林の動態	事後レポート																																																																
2	樹木とは何か	樹木の定義																																																																	
3	樹木の実際	樹木の各部位のはたらき																																																																	
4	森林環境に関する課題: 課題の設定	グループワーク																																																																	
5	樹木の物質生産	樹木の生長	事後レポート																																																																
6	光合成と呼吸	光合成と呼吸の化学式																																																																	
7	樹木と水	通水阻害、乾燥																																																																	
8	森林環境に関する課題: 調査	グループワーク																																																																	
9	森林環境とその測定法	樹木の生長と環境の影響	事後レポート																																																																
10	森林の物質循環	炭素、水、窒素の循環																																																																	
11	森林の物質循環の測定法	物質循環の測定法に関する研究の最前線																																																																	
12	森林環境に関する課題: 発表スライド作成	グループワーク																																																																	
13	森林の多様性	多様性とはなにか、多様性はなぜ重要か	事後レポート																																																																
14	森林と林業、環境問題	林業の実際、現在の森林環境問題																																																																	
15	森林環境に関する課題: 発表	グループワーク																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	事後レポート4回 (20%)、グループワークによる発表 (40%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	森林生態系は地球上で最も複雑な生態系だといわれています。また森林を構成する樹木は地球上で最も大きな生物体でもあります。そのような森林について、どのような場所でのどのような機能があるのか、人とどのようなかかわりがあるか、そしてどのような研究がおこなわれているのか、知ってみませんか。																																																																		
担当者の研究室等備考	京都大学																																																																		

科目名	農業気象学	科目名 (英文)	Agricultural Meteorology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山田 宏之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3005a0		

授業概要・目的	さまざまな気象現象の基礎的な特徴と発生原理等について講義を行い、気象と動植物との関わり、農業や人間生活との関わり等について、具体的な事例を示しながら解説する。それにより、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象の発生原理、大気大循環、地球温暖化を含む気候変化とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、それらの農業への影響や対策等について現実的に考察することが可能となる学力を身に付ける。
到達目標	大気の中で起きるさまざまな現象を理解しながら大気環境の実態を把握し、大気圏と水圏・地圏・生物圏との相互影響も理解でき、それらが農業生産に及ぼす影響や対処方法を自ら考察できる能力を身に付けることを目標とし、大気組成や構造、放射過程・熱輸送過程、高・低気圧や前線とその動き、異常気象、大気大循環、地球温暖化を含む気候変動とその影響など、さまざまな時間的・空間的スケールで起きる気象現象や気候システムについて、そのメカニズムを習得し、科学的に説明できるようにすること。
授業方法と留意点	毎回、プリントを配布し、それを元に授業を進める。更に、ビジュアル化した映像資料を映写し、理解を深めていく。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球大気の構造と特徴	地球大気の組成や階層構造別 (対流圏、成層圏、中間圏、熱圏) の特性について講義する。	事前に対流圏、成層圏、中間圏、熱圏の言葉の意味と内容を確認すること。事後には、それぞれの圏域の特性を再確認すること。
2	放射収支と熱収支	地球表面や農耕地における太陽光の放射収支、熱収支について講義する。	事前に短波放射、長波放射、日射量、純放射量などの用語について調べておくこと。事後には、地表面熱収支の内訳 (各成分の収支) について確認しておくこと。
3	大気の大気水平方向の動き	対流圏における気流 (風) の特性について講義する。	事前にコリオリ力 (偏向力) について調べておくこと。事後には、地上で生じる風にかかる各種力の内容について確認すること。
4	大気の大気動きの特徴 (1) : 大気大循環	大気によるエネルギー輸送、海流によるエネルギー輸送、大気大循環の構造と特性について講義する。	事前に地球上の海流の種類と特性について調べておくこと。事後には、大気大循環のメカニズムについて確認すること。
5	大気の大気動きの特徴 (2) : 低気圧と高気圧	低気圧および高気圧の発生過程と特性について講義する。	事前に温帯低気圧と熱帯低気圧について、一般的な特性を調べておくこと。事後には、日本列島付近での低気圧、高気圧の挙動と季節変化について確認しておくこと。
6	大気の大気鉛直方向の動き (1) : 温位と乾燥断熱減率	積乱雲の発生過程を追いながら、大気の温位と乾燥断熱減率の特徴等について講義する。	事前に大気の乾燥断熱減率、湿潤断熱減率について調べておくこと。事後には、乾燥断熱減率、湿潤断熱減率を用いて、積乱雲の発達過程を説明できるように確認しておくこと。
7	大気の大気鉛直方向の動き (2) : 大気の大気安定度と湿度	大気の湿り具合と雲の発生、雹や雷の発生等について講義する。	事前に相対湿度と絶対湿度の違いについて調べておくこと。事後には、容積絶対湿度のグラフを用いて、結露や雲の成因について十分に説明できるように、内容を確認しておくこと。
8	気候と植物 (1) : 気候区分	ケッペンの気候区分を題材に、気候と植物との関わりについて講義する。	事前にケッペンの気候区分について調べておくこと。事後には、日本の気候区分と植生について確認しておくこと。
9	気候と植物 (2) : 植物分布	地球上の植物分布と気候との関わり、過去の気候変動が現在の植物分布に及ぼす影響などについて講義する。	事前に熱帯、温帯、亜寒帯、寒帯の植物について調べておくこと。事後には、各気象帯の植生の特性について確認すること。
10	気候環境と植物の成育	植物の生育に影響を及ぼす気候因子について講義する。	事前に気温、日射、風が植物生育に与える影響について調べておくこと。事後には、各気象要素が植物生育に与える影響と、その原理について確認すること。
11	気候の栽培への応用	気候を利用した作物栽培、暖地農業と寒冷地農業などの実例を通じて、気候と農業生産の関連性について講義する。	事前に暖地農業と寒冷地農業について調べておくこと。事後には、作物の温度条件への適合性について確認すること。
12	農業気象災害とその防止	農業栽培における風害、凍霜害、冷害等について、その実態と発生原理について講義する。	事前に風害、凍霜害、冷害の意味について調べておくこと。事後には、イネの冷害対策の具体事例について確認すること。
13	施設栽培の気象環境管理	ビニールハウスやガラス温室などの栽培施設内の気象環境の特徴と、その制御技術について講義する。	事前にビニールハウスとガラス温室の一般的な特性について調べておくこと。事後には、素材別の光透過率等について確認すること。
14	都市気象と都市農業	都市気象の特徴、成因、対策等について講義する。また、それが都市農業に与える影響を解説し、実際の都市農業の事例紹介を行う。	事前に都市気象の一般的な特徴について調べておくこと。事後には、都市気象が人間や植物に与える影響について確認すること。
15	健康と気象、まとめ	熱中症や寒冷害など、人間の健康に及ぼす気象の影響について講義し、農作業時の疾病防止策を学ぶ。また、講義全体のまとめを行う。	事前に熱中症の原因と病症について調べておくこと。事後には、体感温度の各種指標について確認すること。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい気候学	仁科淳司	古今書院
	2	作物の生育と環境	西尾道徳、他	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	授業期間中の3回のレポートを平均することを原則とした100点満点で成績を評価する。			
学生への メッセージ	前半7回目までは天気予報等に用いられる一般的な気象学に関する講義、後半は農業気象学を中心とした応用気象学の講義を行います。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	スマート農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Smart Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・久保 康之
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE3004a0		

授業概要・目的	日本農業における就農人口の減少、高齢化、激しい気象変動と異常気象等、農園芸作物生産を取り巻く環境は厳しさを増している。そんな中、高収量・高品質、安定生産、省力・軽作業化、省エネを実現するためのロボット技術や ICT を活用した新しい農業スタイル「スマート農業」が動き始めている。本演習ではスマート農業について、その理論と実際を学び、日本農業がかかえる課題と「スマート農業」の可能性とその重要性について正しく認識させる。
到達目標	① スマート農業とは何か、説明できる。 ② スマート農業の具体例を列挙し、その内容と特徴を説明できる。 ③ スマート農業についての学びから、その可能性について自分の考えをまとめ、述べることができる。
授業方法と留意点	本学教員による講義及び学外の施設視察と受講、および他大学教員、試験研究機関の研究員をゲストスピーカーとして迎え、講義を進める。講義内容はプリント、資料等で事前配布する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スマート農業とは	スマート農業と呼ばれている農業技術、施設、システムの概説	事前：次回実習内容の確認
2	植物工場 その1	太陽光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
3	植物工場 その2	人工光利用型植物工場の現状と課題	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
4	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 植物工場における環境制御技術 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
5	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (講義) 体内時計制御による生長の最適化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
6	植物工場視察研修	大阪府立大学植物工場研修 (視察) 植物工場施設の見学	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
7	栽培環境情報の「見える化」	ハウス内気象情報の「見える化」と遠隔操作 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
8	生産技術の「見える化」	篤農家技術の見える化 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
9	ドローンの農業利用	ドローンによる薬剤散布、播種作業 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
10	ロボット技術	無人トラクターと収穫ロボット (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
11	オミクス利用	オミクス情報利用による新世代栽培技術の開発 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
12	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (講義)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
13	次世代型温室視察研修	京都大学農学部附属木津農場視察研修 (視察)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
14	農業と AI	農業における AI 活用の可能性 (ゲストスピーカー)	事前：次回実習内容の確認 事後：ミニレポートの提出
15	まとめ	スマート農業の可能性	事後：レポートの提出

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート (100%) を総合して評価し、60%以上で合格とする。6回以上欠席したものは受験資格なし。
学生へのメッセージ	本講義は通年の講義です。原則、隔週の土曜日開講としていますが、一部、講義日等に変更が生じる場合があるかもしれませんので、ご承知おきください。その場合はできるだけ早いうちお知らせします。
担当者の研究室等備考	

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に10日間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	① 世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ② 演習に訪れた国・地域の農業成立の歴史的背景、農業技術、現状、課題について説明できる。
授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は春期休暇期間中で、おおよそ10日間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容(雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流)の説明	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物(動植物)についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	視察	民俗村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物(一部再現物)を見学し、雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	中国の畜産業	豚をはじめとする中国の畜産業の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	中国の稲作	中国全土の稲作の栽培技術、栽培品種、稲作文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	中国の作物栽培	雲南および中国での主要作物の栽培状況と栽培技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	中国の作物防除	作物、野菜、果樹等の作物栽培における病虫害被害の実態と防除技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	中国の野菜栽培	多種多様な野菜の類縁関係、品種特性、栽培技術、利用法および消費動向についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11	雲南省の野菜	雲南省で栽培・消費されている野菜、ないし周辺の少数民族の野菜文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
12	雲南省の花弁	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
13	雲南省の茶栽培	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義と視察(茶間屋など)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
14	視察	全国から集荷される青果物市場、花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後: 全実習のレポート提出

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義内容に関するプリントを配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義内容に関するプリントを配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	講義内容に関するプリントを配布																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	現地での使用言語は、中国語、英語となっていますが、日本語でも会話は成立しますので安心してください。なお、コロナ禍が収束しない場合には、演習が中止になる場合があります。
担当者の	寺林敏 (農業生産学科 園芸科学研究室)、戴 容秦思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)

研究室等	
備考	

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏, 川崎 通夫, 北村 祐人, 佐野 修司, 玉置 雅彦, 藪田 伸, 山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋9月（イネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。演習の最終回は、まとめとして、2回の演習での体験と学びをもとに、課題「水田の多面的機能と価値について」と自由課題を与え、レポート提出させる。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>田植えの前に</td> <td>稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>田植え</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>田植え</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>田植え後のイネの成長</td> <td>画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ガイダンス</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>稲刈りの前に</td> <td>稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>稲刈り</td> <td>訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>稲刈り</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>稲刈りを終えて</td> <td>今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>野菜栽培 -ダイコン-</td> <td>ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>収穫後の米</td> <td>収穫された米の品質について学ぶ</td> <td>レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水田土壌の特徴</td> <td>水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備</td> <td>レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認	2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出	3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	田植え後のイネの成長	画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ	レポートの提出	7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習	8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出	9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習	10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	12	稲刈りを終えて	今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する	レポートの提出	13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出	14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出	15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 田植え演習の諸注意	事前：次回実習内容の確認																																																														
2	田植えの前に	稲作の基本、特に田植えについての理論、技術を学ぶ	レポートの提出																																																														
3	田植え	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
4	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
5	田植え	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
6	田植え後のイネの成長	画像、データをもとに、稲の成長、病害虫の発生等の状況について学ぶ	レポートの提出																																																														
7	ガイダンス	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明（田植えした場所と異なるため）	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
8	稲刈りの前に	稲作の基本、特に稲刈りについての理論と技術を学ぶ	レポートの提出																																																														
9	稲刈り	訪問施設水田での施設説明と作業概要の説明	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
10	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
11	稲刈り	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
12	稲刈りを終えて	今年収穫されたイネの成長、収量等について総括し、気象条件、病害虫発生等との関連を考察する	レポートの提出																																																														
13	野菜栽培 -ダイコン-	ダイコンの品種、栽培・利用についての学びとダイコン収穫	レポートの提出																																																														
14	収穫後の米	収穫された米の品質について学ぶ	レポートの提出																																																														
15	水田土壌の特徴	水田土壌の生産性、土壌生成因子、圃場整備	レポートの提出																																																														

関連科目 土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習参加とレポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況によっては、現地での実習 (田植え、稲刈り) ができなく可能性があります。その場合は Teams での課題提供 (課題提出は WebHolder 使用)、本学農場での見学および実習を行う予定です。

担当者の研究室等 園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (玉置、川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)、

備考

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 吉井 英文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点をもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	15回を担当教員のリレー講義にて行う。各回に課題が出されるので、期限内に提出すること。評価は各回の評価の積算とする。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当: 久保 康之)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学においては産業動物の生産性向上のため、食品、	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出

			医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当:井上 亮)	
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当:増田 太郎)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者(1次産業)が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工(2次産業)は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当:吉井 英文)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当:喜多 大三)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当:和田 大)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当:黒川 通典)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当:小野 雅之)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食(消費者、都市)と農(生産者、農山漁村)をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当:北川 太一)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学概論	久保康之 編	朝倉書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う! 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法(基準)	事前課題(30%)、授業中の課題(40%)、事後課題(30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	1) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 2) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例:4月10日(月)の授業は4月16日(日)午後11時59分までに提出)			
担当者の研究室等	植物病理学研究室(久保)、応用昆虫学研究室(石川)、動物機能科学研究室(井上)、植物遺伝育種科学研究室(奥本)、食料・農業市場研究室(小野)、ゲノム生物学研究室(小保方)、作物科学研究室(川崎)、栄養薬理学研究室(喜多)、食農共生研究室(北川)、公衆栄養学研究室(黒川)、環境農学研究室(田中)、園芸科学研究室(寺林)、海洋生物学研究室(豊原)、食品加工学研究室(吉井)、応用微生物学研究室(和田)			
備考				

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8○, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	
3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
9	トピック 4-1	ABDについて	
10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。
----	---------------------

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴:内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)
2	映画1:テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画1:テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画1:テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
5	映画2:テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
6	映画2:テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画2:テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
9	映画3:テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
10	映画3:テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画3:テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる(計1.5時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする(計1.5時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備(計1.5時間)
15	発表(新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する(計1.5時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。</li> <li>小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。</li> <li>・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 佳代子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生同士のディスカッションを行う。</li> <li>・身の回りのテーマを中心に扱う。</li> </ul> <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる</li> <li>2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる</li> <li>3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる</li> <li>4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する/質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する/再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳</td> <td>グロービス</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2 回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。</p> <p>参考書は、授業で習ったことが分からない時やもっと勉強したいときに読む本です。最初から買う必要はありません。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現・言葉遣いについて学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。外国人が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動におけるメールの書き方	就職活動におけるメールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート (履歴書、自己 PR、志望動機) の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接 (グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスする / 受ける時の日本語表現	アドバイスをする / 受ける時の日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する (報告をする・自分の意見を述べる) 時の日本語表現	会議で使用する日本語を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、発表 (20%)、期末レポート (30%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。
----	--

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	
3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
9	トピック4-1	ABDについて	
10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成
13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
----------	--------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計2 時間) (計2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語文法F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。</li> <li>小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・レポート・論文の書き方を守って書ける。</li> <li>・アウトラインに沿って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集められる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。</li> <li>・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。</li> <li>・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・論文の文体で書ける。</li> <li>・読んだ内容を要約できる。</li> <li>・段落分けして書ける。</li> <li>・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。</li> <li>・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。</li> <li>・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△○ : DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。</li> <li>・語彙力をつける。</li> <li>・一般書レベルの漢字が読める。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義形式で行う。</li> <li>・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。</li> <li>・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)</li> <li>・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。</li> <li>・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA3441a2		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。</p> <p>インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。</p> <p>インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。</p> <p>講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業オリエンテーション</li> <li>学生と社会人の違いを理解する</li> <li>インターンシップの目的を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の形態を知る</li> <li>ビジネスへの理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の分類を知る</li> <li>業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間)</li> <li>事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間)</li> </ul>
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回目の課題をプレゼンテーションする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)</li> <li>事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる(0.5時間)</li> </ul>
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としての心構えを知る</li> <li>身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 配付されたテキストを精読すること(0.5時間)</li> </ul>
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間)</li> </ul>
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: マナーの大切さを再度考えること(0.5時間)</li> </ul>
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ用の履歴書を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学修: 講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間)</li> </ul>
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修: グループで課題に取り組むこと(0.5時間)</li> </ul>
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(0.5時間)</li> </ul>
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前訪問のマナーと準備について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間)</li> <li>事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間)</li> </ul>
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)</li> <li>事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)</li> </ul>
14	課題のプレゼンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間)</li> </ul>

		ヨン	・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップIで学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
16	直前学修① 6月17日(土)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用のこと	・事前学修：社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
17	直前学修② 6月17日(土)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：直前学修②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
25	事後学修① 9月16日(土)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
26	事後学修② 9月16日(土)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修：個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
27	事後学修③ 9月30日(土)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
28	事後学修④ 9月30日(土)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
29	事後学修⑤ 10月7日(土)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修：実習記録簿を見直してこること(0.5時間)
30	事後学修⑥ 10月7日(土)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 平常点30%、提出物・プレゼンテーション等50%、企業からの評価表20%の合計点で評価する

学生へのメッセージ インターンシップの流れは以下のとおりである。  
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)

	インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある
担当者の 研究室等	水野講師室（7号館3階）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1~2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7~8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3~4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2~4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認 2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。 4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認 2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。 4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1~2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7~8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3~4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2~4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認</p> <p>2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。</p> <p>4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認 2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。 4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認 2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。 3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。 4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1~2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7~8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3~4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2~4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅰ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3071a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の設定につながるように、各指導教員の指導のもとで学生がテーマを設定し、それに関連する文献の読解を通して専門的な知識や考え方を修得するとともに、文献の内容をまとめ、論理的に考察し、発表できる能力を身につけることを目的とする。また、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることを目的とする。																		
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法などを身につけることができる。																		
授業方法と留意点	① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 二つのテーマを設定し、それぞれのテーマについて文献の輪読、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション (1～2回) 内容：授業の進め方や取り上げるテーマ・文献の選定、役割分担等の説明・確認 事前学習：シラバスの確認 事後学習：授業の実施方法の確認  2. 文献の輪読・発表・ディスカッション (7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿って選定した文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの探索・集計・分析 (3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、テーマに沿ってデータを探索・収集し、集計・分析を行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの探索・収集と集計・分析を行う。 事後学習：データの集計・分析について、レポートを作成する。  4. フィールドワーク (2～4回) 内容：指導教員の指示に従って、テーマに沿ったフィールドワークを実施する。 事前学習：フィールドワーク先の情報を収集し、理解する。 事後学習：フィールドワークの結果について、レポートを作成する。																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各教員より指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各教員より指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	各教員より指示する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、発表内容、グループワークやディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。																
到達目標	① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。 ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。 ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。 ④ 卒業研究の課題を設定することができる。																
授業方法と留意点	①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。 ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。 ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。 ④研究課題に関するレポートを作成する。 ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション(1～2回) 内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。 事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備 事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認  2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回) 内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。 事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。 事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。  3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回) 内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。 事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。 事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。  4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回) 内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。 事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。 事後学習：レポートを完成させる。																
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教員の指示する文献																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ②各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	食農ビジネス学研究Ⅱ	科目名(英文)	Research of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE3072a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、食農ビジネス学科の各分野での専門的な学修を深めるとともに、それを応用して調査・分析できるようにするために、それぞれの指導教員のもとで、学生が具体的な調査・分析課題を設定し、その課題に関連する文献の読解を通してより専門的な知識や考え方を修得するとともに、データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの実施方法などを身につけ、調査・分析に取り組む。これらを通して、卒業研究で取り組む課題を設定する。</p>																		
到達目標	<p>① 研究課題の設定につながる専門的な知識や考え方を身につけることができる。          ② 専門的な文献の読解能力、まとめ方と発表の方法を身につけることができる。          ③ データの検索方法と集計・分析方法、フィールドワークの方法を身につけ、実際に調査・分析することができる。          ④ 卒業研究の課題を設定することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① それぞれの指導教員の指導のもとで、少人数ゼミナール形式で行う。          ② 各自が設定した研究課題に関する文献の読了、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に行う。          ③ データの探索・集計・分析やフィールドワークなどを行い、その結果のプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行う。          ④ 研究課題に関するレポートを作成する。          ⑤ 具体的な内容・実施方法は指導教員の指示による。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション(1～2回)          内容：各自の考えた研究課題についてプレゼンテーションを行い、研究課題の決定や研究方法の検討を行う。          事前学習：研究課題の検討とプレゼンテーションの準備          事後学習：研究課題に関する検討と研究方法の確認</p> <p>2. 文献の読解・発表・ディスカッション(7～8回)          内容：指導教員の指示に従い、研究課題に関する文献の読解とプレゼンテーション、ディスカッションを行う。          事前学習：文献の読了と文献の該当部分を読み、プレゼンテーションやディスカッションの準備をする。          事後学習：文献の内容やディスカッションのふりかえりを行う。</p> <p>3. データの集計・分析、フィールドワーク、プレゼンテーション(3～4回)          内容：指導教員の指示に従い、研究に必要なデータの収集と集計・分析やフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションする。          事前学習：データの収集と集計・分析、フィールドワークを行い、プレゼンテーションの準備をする。          事後学習：データの集計・分析やフィールドワークの結果について、レポートを作成する。</p> <p>4. 研究結果のプレゼンテーションとレポートの作成(2～4回)          内容：研究結果に関するプレゼンテーションを行い、レポートを作成する。          事前学習：プレゼンテーションとレポート作成の準備を行う。          事後学習：レポートを完成させる。</p>																		
関連科目	食農ビジネス学基礎演習Ⅰ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅱ, 食農ビジネス学基礎演習Ⅲ, 食農ビジネス学研究Ⅰ, 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教員の指示する文献</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教員の指示する文献			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教員の指示する文献																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	別途、指示する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	毎回の準備状況、プレゼンテーションの内容、レポートの内容、ディスカッションへの参加状況(ルーブリック評価)などを総合的に評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。          ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。          ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。          ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。          ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション          ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。          ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。          2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察          ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。          ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。          3. 卒業論文の作成・発表          ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。          ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%)          ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	成 晋政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。          ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。          ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。          ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。          ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション          ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。          ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。          2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察          ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。          ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。          3. 卒業論文の作成・発表          ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。          ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%)          ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共																
到達目標	①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。 ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。 ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。																
授業方法と留意点	①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。 ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。 ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	1. オリエンテーション ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。 2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察 ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。 ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。 3. 卒業論文の作成・発表 ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。 ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。																
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	担当教員の指示に基づく																
2																	
3																	
評価方法(基準)	① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度(40%) ② 卒論発表会および卒業論文の内容(60%)																
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE4073a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学修した専門的知識・技能および汎用的能力をさらに深めて大学4年間の学修の集大成としての卒業研究を行う。卒業研究では、学生が研究テーマの設定、研究方法の策定、研究調査の実施、研究成果の解析・まとめを行い、卒業論文を作成するとともに、発表会において発表・ディスカッションを行う。これらを通して、学術研究における倫理的規範、課題の発見(研究テーマの設定)と解決(研究の進め方)、思考力・判断力(研究結果のまとめ)、表現力(論文作成およびプレゼンテーション)を身につける。さらに、教員とのディスカッションや共</p>																		
到達目標	<p>①卒業研究に主体的かつ持続的に取り組むことができる。  ②研究を通して、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに調査計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理能力、協調性など社会人としても求められる資質を身につける。  ③研究で得られた成果をまとめる能力、それらの結果に基づく論理的な思考による論文作成および口頭発表・質疑応答を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>①授業方法は、年間を通して担当する指導教員の指導を受ける。  ②卒業研究では各自の課題を研究するために、主体的かつ協調性をもって研究を進める。  ③人を研究対象とする場合は、必ず研究倫理審査を申請し研究許可を受ける。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>1. オリエンテーション  ・研究を始める前の心構え、研究の進め方、研究倫理などを学修する。  ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画立案等の準備をする。  2. 研究課題の設定、研究方法の検討、調査・分析および考察  ・文献検索・読了、討論、調査(準備、フィールドワーク、データ処理・分析)を各研究室及び各自の研究室内で中間発表を行う。さらに、必要に応じて、追加調査等を検討する。  ・研究を遂行するにあたって、各自がテーマに関連する科学論文を読み、研究方法等の検討をする。  3. 卒業論文の作成・発表  ・卒業論文を作成し、卒業論文発表会および質疑応答後、指導教員の審査を受け、学科に提出する。  ・卒業論文を作成するにあたって、テーマに関連する科学論文、助言、質問等を参考し、論文内容を検討し、推敲する。</p>																		
関連科目	「食農ビジネス学研究Ⅰ・Ⅱ」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示に基づく</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示に基づく			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示に基づく																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>① 研究室活動・ゼミへの積極的参加および研究姿勢・態度 (40%)  ② 卒論発表会および卒業論文の内容 (60%)</p>																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、大学での学びの集大成(大学に在籍した証し)です。好奇心のアンテナを張りながら、楽しく取り組みましょう!																		
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)																		
備考																			

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。( )内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬)</li> <li>・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月)</li> <li>・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬 (2月中下旬～3月下旬)</li> <li>・事後授業5回(成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬)</li> </ul> <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。																
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センターまで																
備考																	